

100<sup>th</sup>  
Anniversary

## 第3編

# 資 料



# 第1章 試験研究項目一覧

昭和58～平成14年度

## 1 作物科・育種科(平成2年度まで)・栽培育種担当 (作物)

### 1) 稲作

試験項目	年次
1 品種	
1) 水稻奨励品種決定調査	昭16～
2) 他用途利用品種の選定	昭57～平9 平12～
3) 薬培養による水稻の品種育成	平8～
2 栽培法	
1) 育苗法	
(1) 水稻育苗用成型培地の実用化試験	昭58
(2) 育苗用成型培地に関する試験	昭61
(3) ポット式中苗の適用性	昭61
(4) 新被覆資材利用による育苗法	平2～3
2) 品種の栽培法	
(1) コシヒカリ	
a 作期・施肥法に関する試験	昭60～62
b 普通期栽培の実態調査	昭62
c 高度輪作水田における多肥型野菜跡水稻安定生産技術の確立	昭63～平2
d 汎用水田における野菜を中心とした高度輪作体系化技術の確立	平3～5
e 早熟化技術	昭63～平2
f 晩期栽培法	平元～2
g 栽培法と品質・食味	平3
h 早期コシヒカリの品質・食味向上	平11～14
(2) ナツヒカリの収量性向上と短期栽培適応性	昭60～61
(3) アケノホシの多収栽培法	昭60～62
(4) キヌヒカリ	
a 施肥法	平5
b 品質向上	平9～10
(5) ヒノヒカリの栽培条件と品質	平7
(6) 山田錦の好適適造特性と栽培条件	平7
(7) なつたよりの栽培条件と収量・品質	平7～10
(8) あわみのりの栽培技術の確立	平9～11
3) 低コスト栽培に関する試験	
(1) 湛水直播	
a 過酸化石灰コーティング種子の播種深度と苗立率	昭60
b 品種比較	昭60 平4～5 平9～10
c 播種量と施肥法	平3, 10
(2) 乾田直播	
a 品種比較	平10～11
b 乾田直播栽培における雑草防除法	平10～11
(3) その他	
a 側条施肥方式による水稻の低コスト安定生産	昭62～平2
b 側条施肥栽培における新開発肥料の肥効特性	平6～7
c 乳苗移植栽培技術の確立	昭63
4) 有機栽培等に関する試験	
(1) 有機肥料, 無農薬における生育特性	平元～3
(2) 有機質肥料の肥効特性	平元～6
(3) 風乾ヨシの敷込み効果	平5～9

試験項目	年次
(4) 有用微生物群を利用した栽培試験	平5～6
(5) 有機農法における水稻の生産力向上	平7～9
(6) 再生紙マルチによる栽培試験	平6～9
(7) 環境にやさしい水田雑草防除法の開発	平11～13
(8) 有機資源の有効利用	
a 稲麦栽培体系におけるおが屑堆肥の施用効果(水稻)	昭53～58
b 鶏糞堆肥の施用法	平10～13
c スダチ搾りかすの施用法	平12
5) 作況に関する試験	
(1) 作況試験	昭49～
(2) 生育予測診断技術の確立	昭63～平3
6) 植物調節剤に関する試験	
(1) 除草剤の適用性	昭39～
(2) 植物成長調整剤の適用性	昭60～平6
3 原原種および原種の生産と配布	昭29～

### 2) 麦作

試験項目	年次
1 品種	
1) 麦類奨励品種決定調査	
(1) 小麦	昭29～
(2) ビール用二条大麦	昭49～平9
(3) 非ビール用二条大麦	昭63～
(4) 裸麦	昭29～
2) 系統適応性試験	昭29～平14
3) モチ小麦および秋播性早生小麦の特性調査	平9～10
2 栽培法	
1) 小麦に関する試験	
(1) 大豆-小麦栽培体系における有機物の施用効果	昭56～58
(2) 大豆跡小麦の多収安定技術	昭59～60
(3) 早播き限界に関する試験	昭58～60
(4) チクゴイズミの栽培法	平10～11
(5) 実肥施用法	平12
(6) 有機質肥料施用法	平12～15
2) 二条大麦に関する試験	
(1) 排水不良田におけるビール麦の栽培改善	昭62～63
(2) 普通大粒大麦の多収栽培技術	昭61～63
(3) とね二条の栽培法	昭62～平2
(4) ビール麦の高品質・安定栽培法	平3～5
(5) ビール麦の斑葉病防除	平2～3
(6) ビール麦の発芽力検定	平2～3
(7) ビール麦不耕起播試験	平5～6
(8) ビール麦有望系統タカホゴールドの栽培法	平7～9
3) 裸麦に関する試験	
(1) イチバンボシの栽培法	平7～8
(2) マンテンボシの連絡試験	平11～13
4) 植物調節剤に関する試験	
(1) 除草剤の適用性	昭39～
(2) 植物成長調整剤の適用性	昭60～61 平4～5
3 原原種および原種の生産と配布	昭39～

3) 特産作物および飼料作物

試 験 項 目	年 次
1 藍	
1) 機械移植による藍作の省力化	平11 ~ 15
2 大豆	
1) 奨励品種決定調査	昭53 ~
2) 大豆-小麦栽培体系における有機物の施用効果	昭56 ~ 58
3) 大豆-小麦栽培体系における大豆の早播き多収技術の確立	昭57 ~ 60
(1) 早播多収品種の選定	
(2) 不耕起播栽培の播種様式	
(3) 不耕起における培土時期と方法	
(4) 転作大豆の低収要因解析	
(5) 雑草防除法	
4) 大豆-麦作体系における大豆の不耕起播栽培技術	昭61 ~ 62
(1) 麦稈処理法の確立	
(2) 播種法	
(3) 播種様式	
(4) 雑草防除法の確立	
5) 大豆有望系統「サチユタカ」の栽培法確立	平12 ~ 14
6) 原原種および原種の生産と配布	昭62 ~
3 ステビア	
1) ステビア有望系統の選抜	昭56 ~ 62
2) ステビア有望系統の栽培法確立	昭63 ~ 平2
4 飼料作物	
1) 転換畑における飼料作物の周年多収技術の確立	昭57 ~ 59

2 野菜科・栽培育種担当（野菜）

試 験 項 目	年 次
1 育種、品種育成に関する試験	
1) 促成イチゴの品種改良試験	昭50 ~
2) ウリ科野菜の特性検定試験	昭52 ~ 平13
3) イチゴの系統適応性試験	昭55 ~ 平13
4) イチゴの優良系統の選抜と増殖	
(1) 県内各地の芳玉イチゴ苗のウィルス検定	昭59
(2) 県内各地の芳玉イチゴ苗の生産力検定	昭59
(3) 組織培養によるイチゴ無病苗の育成	昭58 ~ 60
5) 漬物用ダイコンの優良系統の保存	昭33 ~
6) シロウリ優良系統選抜試験	昭57 ~ 60
7) 一寸ソラマメの優良系統選抜試験	昭55 ~ 59
8) 葉ネギ品種改良試験	昭54 ~ 60
9) 葉ネギ系統適応性試験	昭59 ~ 61
10) サツマイモのウィルスフリー株の育成と大量増殖技術の開発	昭61 ~ 平2
11) サツマイモの系統適応性試験	昭61 ~
12) 特産野菜育成品種・系統の保存	昭61 ~
13) ニンニク苗条原基作出法の検討	昭62
2 施設栽培に関する試験	
1) 作型・作目の組合せによる地中熱交換暖房の有効利用	昭58 ~ 60
2) 促成キュウリ昼夜温の組合せと品質収量	昭57 ~ 59
3) トマトの連作障害回避技術の確立	昭57 ~ 59
4) 促成イチゴ品種比較試験	昭53 ~
5) 施肥改善による促成イチゴの生産安定技術の確立	昭57 ~ 59
6) ハウスメロンの整枝法と着果数に関する試験	昭58 ~ 60

試 験 項 目	年 次
7) 固形培地式養液栽培の実用化試験	昭60
8) N F T水耕実用化試験	昭60
9) 高速輸送体系に適合した四国集約型園芸のための技術開発 新養液栽培法(ロックウール)栽培法の開発	昭61 ~ 63
(1) 春夏トマトの循環式における培養液管理試験	
(2) 春夏トマトの循環式における品種比較試験	
(3) 冬トマトの循環式における培養液組成試験	
(4) 冬トマトの循環式における培地温度試験	
(5) トマトのかけ流し方式における年2作型体系技術の検証	
(6) トマトの初期生育に及ぼす高温期の培養液管理	
(7) 春夏トマトの熟度判定と鮮度保持技術	
10) 促成イチゴの夜冷育苗試験	昭62 ~ 63
11) 循環式ロックウール栽培実用化試験	平元 ~ 3
12) N F T実用化技術の確立	平元 ~ 3
13) トマトの循環式ロックウール栽培における高度環境制御技術の開発	平5 ~ 7
14) トマトの循環式ロックウール栽培における環境保全型技術の開発	平8 ~ 11
15) ハウスレンコンの新栽培法の確立	昭63 ~ 平3
16) ハウスレンコンの収穫期前進化技術	平4 ~ 6
17) ‘とよのか’の生産安定に関する試験	平元 ~ 3
18) N F Tイチゴのベッド内処理、給液法と収量	平4 ~ 6
19) イチゴの育苗労力軽減と早期多収生産のためのクラウン利用育苗技術の開発	平6 ~ 8
(1) 幼苗大量生産技術	
(2) 幼苗化技術	
(3) 成苗化技術	
(4) 定植作業の軽減化技術	
20) イチゴの新育苗法	平4 ~ 6
21) N F Tイチゴの多収栽培技術	平8 ~ 10
22) 促成ナスにおけるセル成型苗利用による養液土耕栽培技術の確立	平9 ~ 11
23) 促成イチゴにおける省力栽培技術	平9
24) 野菜におけるジェム電子有機肥料試験	平8 ~ 10
25) イチゴ新品種の安定生産技術の確立	平10 ~ 12
26) 野菜・花きの環境保全型養液栽培技術の確立(地域基幹農業技術体系化促進研究)	平11 ~ 15
(1) トマトの循環式養液栽培における有機培地利用と完全消費型養液管理技術	
27) イチゴの有機培地による簡易高設養液栽培の開発	平11 ~ 13
28) 促成ナスの養液土耕栽培における給液マニュアルの確立	平12 ~ 14
3 露地栽培に関する試験	
1) 気象災害回避による冬春ダイコンの生産安定技術の確立	昭56 ~ 58
2) トンネルニンジンの作柄安定に関する試験	昭57 ~ 59
3) 冬どりレタスの作柄安定に関する試験	昭59 ~ 61
4) スイートコーン早採り技術の確立	昭57 ~ 60
5) 春まきトンネルダイコンの花成に関する試験	昭58 ~ 59
6) 地域農業複合化推進試験研究	昭57 ~ 58
(1) 野菜に対するバイオガス処理汚泥の床土利用試験	
(2) 湿田地帯における基盤整備ほ場でのハウレンソウ栽培試験	
7) 砂地畑の土壌更新とカンショ・ダイコンの生育収量	昭55 ~ 59
8) 葉ネギ(九条太ネギ)の原種審査会	昭58

試験項目	年次
9) ダイコンに対するF O X燐加安肥効試験	昭58
10) 野菜に対する近紫外線除去フィルムのマルチ効果試験	昭57 ~ 58
11) 野菜に対するバイオガス処理汚泥の有効利用	昭59
12) 基盤整備ほ場でのカブ、チンゲンサイ栽培堆肥施用試験	昭59
13) 野菜に対する新肥料効果試験	昭59
14) 圃場整備後の導入作物別土壌改良技術	昭59 ~ 60
15) 春どりニンジン原種審査会	昭60
16) トンネルダイコン原種審査会	昭61
17) 新野菜の栽培技術の確立	昭60 ~ 62
(1) 細ネギの周年生産安定試験	
(2) チンゲンサイの周年生産安定技術	
18) 冬どりホウレンソウの品種比較試験	昭60
19) 春どりニンジンの前進作型における良質多収技術の確立	昭60 ~ 62
20) トンネル利用の春どりゴボウの生産安定技術の確立	昭60 ~ 62
21) 砂地畑特産野菜の維持発展	昭61 ~ 63
(1) 青果用サツマイモの品種選定試験	
(2) サツマイモのウイルスフリー株の施肥量試験	
(3) 冬春どりダイコンの品種選定試験	
(4) 冬春どりダイコンの防寒資材被覆試験	
22) 特産露地野菜の作期別適品種の選定	昭62
(1) キャベツの品種比較試験	
(2) ブロッコリーの品種比較試験	
23) 四国東部地域の汎用水田における高度輪作体系化技術確立 - 野菜を中心とした3毛作型輪作体系の確立 -	昭63 ~ 平2
(1) 主要野菜の作期拡大及び品質向上	
(2) 新規導入夏秋野菜の選定と定着技術	
24) 冬春ホウレンソウの作柄安定技術の確立	昭62 ~ 平元
25) 野菜生産用新資材の使用法と効果	昭62
26) 年内どりレタス全日本野菜原種審査会	昭62
27) 冬春ホウレンソウの作柄安定技術の確立	昭62 ~ 平元
28) 秋まきホウレンソウ全日本野菜原種審査会	昭63
29) トンネルスイートコーンの品種比較試験	昭63 ~ 平元
30) ニンジンの横しま症(仮称)対策試験	平元
31) サツマイモに対するメチオニン施用効果	平元 ~ 3
32) 野菜の有機栽培技術の確立	平元 ~ 3
33) 新被覆資材利用による暖地型冬・春野菜(カブ)の新作型開発と高品質生産技術(地域重要新技術)	平元 ~ 3
34) 特産青果物・花きの高品質生産・鮮度保持技術の確立	平2 ~ 5
(1) 高品質生産のための好適栽培条件の作出	
(2) 鮮度保持技術の確立	
(3) 高品質生産・鮮度保持技術の検証	
35) 汎用水田における野菜を中心とした高度輪作体系化技術の確立	平3 ~ 5
(1) 野菜、地力増進作物を組み合わせた三毛作体系化技術	
(2) 野菜、水稲の高度輪作水田における新土壌管理技術	
(3) 簡易被覆による生育促進と品質向上	
(4) 有機物施用効果	
36) カリフラワーの作柄安定技術	平3 ~ 5
37) 野菜の有機栽培技術の確立	平4 ~ 6
(1) キャベツの有機栽培技術	
(2) キャベツの品種比較試験	
(3) 細ネギの自然的有機農法	
38) ダイコンのワッカ対策試験	平4 ~ 5
39) サツマイモの新育苗法の開発	平4 ~ 6
40) ニュートレンディ野菜の作型開発	平6 ~ 8

試験項目	年次
(1) トレビスの品種比較	
(2) トレビスの栽培法	
(3) エンダイブの品種比較	
(4) エンダイブの栽培法	
(5) アーティチョークの栽培技術	
41) サツマイモの機械科体系 [サツマイモセル成型苗の栽培実用化]	平7 ~ 9
(1) セル成型苗移植機の開発	
(2) 養液育苗装置の開発	
(3) つる処理機の開発	
42) サツマイモ簡易型高設育苗装置の開発	平8
43) レタス栽培における再生紙マルチの利用	平7 ~ 11
44) トンネルニンジンの生育予測技術	平8 ~ 12
45) 葉菜類セル苗の生育制御技術	平8 ~ 10
46) 発酵鶏糞堆肥の野菜に対する施用試験	平8 ~ 10
47) 傾斜地に適合した野菜、花きの高収益栽培体系の確立	平9 ~ 13
(1) ホウレンソウの初夏・秋どり技術の確立	
(2) コマツナの盛夏どり技術の開発	
48) 圃場整備水田における冬ニンジン栽培の機械化体系の確立	平9 ~ 10
49) 野菜のセル成型苗における苗質能力向上技術の開発	平11 ~ 13
50) 香酸柑橘搾りかす堆肥の細ネギに対する施用試験	平11
51) 発酵鶏糞及びスダチ搾りかすの炭化物施用試験	平11
52) ラッキョウの簡易植え付け機の開発	平11
53) 年内どりレタスの全日本野菜原種審査会	平12
54) 年内どりホウレンソウの全日本野菜原種審査会	平13
55) ダイコンの全日本野菜原種審査会	平14
56) 地域特産農作物用機械開発促進事業(地域緊プロ)	平10 ~ 12
(1) ニンジン大型トンネル支柱打ち込み機の開発	
(2) レンコン収穫機の開発	

### 3 花き科・栽培育種担当 (花き)

試験項目	年次
1 一・二年草花に関する試験	
1) スターチス・シヌアータ	
(1) 生育開花調節に関する試験	昭57 ~ 60
a 早播き作型における種子冷蔵の効果	
b 栽培温度と生育開花	
(2) 品種並びに作型に関する試験	昭58 ~ 60
a 促成栽培における品種比較試験	
b 春まき作型におけるは種期並びに種子冷蔵効果	
(3) 開花調節技術確立試験	昭59 ~ 60
a 冷蔵苗の大きさおよび出庫時期と生育開花	
b 苗冷蔵中および冷蔵後の補光と生育開花	
c ジベレリン処理と抽台開花	
d 苗冷蔵時間と低温処理効果	
e 高冷地育苗促成栽培における品種比較試験	
f 催芽種子冷蔵後の育苗温度と抽台開花	
g 苗冷蔵処理による品種別の抽台開花	
2) トルコギキョウ	
(1) 栽培技術改善試験	昭59 ~ 61
a 播種期と品種の早晩性並びに定植期	
b 開花に対する植物生長調節物質の処理	

試 験 項 目	年 次
効果	
c 育苗夜温、日長と生育開花	
(2) 秋冬期出荷作型の確立	昭60～平2
a 5・6月播種における品種別の生育開花	
b 6月播種栽培におけるジベレリン処理によるロゼット回避	
c 6月播種苗のジベレリン処理回数とロゼット回避	
d ジベレリン処理および日長条件と生育開花	
e ジベレリン処理後の電照開始時期と生育開花	
f 秋期高所ロゼットの発生要因	
(3) 秋・春二度切り作型の確立	平3～6
a 育苗容器および育苗培土の種類と苗の生育	
b 据え置き株の刈込み時期が2番花の開花および切り花品質に及ぼす影響	
c マルチングと開花および切り花品質	
d マルチングと1番花の開花および切り花品質	
e マルチチングと2番花の開花および切り花品質	
f 品質比較試験	
(4) 高品質苗の生産技術開発	平5
a 育苗用土選定試験	
b 灌水方法選定試験	
c 被覆資材利用による水分蒸発抑制試験	
3) 夜冷育苗による秋播き一・二年草等の新作型の開発	平5～7
(1) 夜冷処理と発芽	
(2) 夜冷処理と生育開花	
(3) 長日処理と生育開花	
(4) トルコギキョウの夜冷育苗と生育開花	
(5) 早播き栽培での夜冷育苗期間と生育開花	
(6) 早播き栽培での電照開始時期と生育開花	
4) 露地花き有望品目の検索と周年生産技術体系	平8～12
(1) 春播き一年草の種類選定および播種期と生育開花	平8～10
(2) 春播き一年草の省力栽培技術の確立	平10
(3) 春播き草花の高品質化技術の確立	平9～12
a ケイトウ、ヒマワリの切り花高品質化	
b アスターの育苗用土と生育開花	
c アスターの品種と定植時期	
d センニチコウの仕立て本数および栽植密度と生育開花	
e 施肥量と生育開花	
f 仕立て本数と生育開花	
(4) 秋播き一年草の種類選定および播種時期と生育開花	平8～10
a ナデシコの高品質化技術の確立	
b ナデシコの品種比較	
c ドイツアザミの仕立て本数、栽植密度、施肥量	
d ニゲラの栽植条数と生育開花	
e ルドベキアの施肥量と生育開花	
(5) 秋播き一年草の高品質化	平9～11
a 仕立て本数と生育開花	
(6) 有望品目による周年生産体系化の実証	平11～12
(7) 省力栽培技術の確立	平11
a 育苗用土の種類と切り花品質	
5) ケイトウ	平12～13
(1) 簡易定植機による省力化	
a 播種粒数と栽植様式	
(2) 簡易播種器の開発	

試 験 項 目	年 次
2 宿根草花に関する試験	
1) キク	
(1) 秋ギク品種比較試験	昭58～62
(2) 電照ギク二度切栽培	昭57～59
a 加温開始時期とジベレリン処理効果	
b 利用萌芽形態と加温開始時期	
(3) 電照ギク安定生産技術の確立	昭59
a 秋ギク低温開花性品種の検索	
b 再電照方法と開花期および切り花品質	
(4) 高品質切り花生産技術の確立	昭61
a 12月出荷電照ギクにおける品種別B-ナイン処理法	
(5) 寒小菊の品種比較	昭62
(6) 寒小ギクの定植時期	昭63
(7) 省力栽培技術の確立	平7～8
a 直挿し7月出荷‘精雲’の生育および切り花品質	
b 直挿し2・3月出荷‘秀芳の力’における被覆資材および穂冷蔵効果	
c 簡易定植機ペーパーポット育苗法	
(a) 挿し芽用土と苗質および切り花品質	
(b) 穂冷蔵の有無や挿し芽日数と苗質および切り花品質	
d 直挿し栽培技術の確立	
(a) 7月出荷‘精雲’直挿し栽培における挿し穂の大きさ・被覆資材および穂冷蔵効果	
(b) 2月出荷‘秀芳の力’直挿し栽培における挿し穂の大きさ	
(c) 12月出荷‘秀芳の力’の直挿し栽培における挿し穂の大きさと被覆方法	
(8) 無側枝性ギクの栽培技術の確立	平9
(9) 施設ギクにおける灌水施肥栽培技術の確立	平10～12
a 灌水施肥栽培法に対応した土壌改良法	
(a) 土壌改良資材の選定および投入量	
b 灌水施肥栽培における給液管理	
(a) 給液量	
(b) 窒素施用量と切り花品質	
c ‘岩の白扇’+‘秀芳の力’体系における灌水施肥技術	
(10) 施設ギクにおける養液土耕栽培技術の確立	平13～14
a 土壌溶液、植物体養分の簡易栄養診断による灌水施肥管理技術	
b ‘岩の白扇’の高品質切り花収穫技術の確立	
(a) 灌水施肥終了時期の違いによる切り花品質	
(b) 栄養生理の把握	
c 秋ギク新導入品種比較	
(a) 加温電照抑制栽培における高品質化技術の確立	
2) プバルディア	
(1) 開花調節に関する試験	昭56～60
a 夏期におけるシェード処理方法並びに花芽分化の発達	
b 冬期における電照打切り時期と開花	
c 短日条件下における開花と株齢の関係について	
d 株齢と開花反応	
(2) 冬期作型の確立	昭61～63
a 短日処(花成誘導理)期後の夜温と発らい・開花	
b 自然短日開始時の茎の生長量の差異と生育開花反応	

試験項目	年次
c 株の刈込み法と萌芽および切花品質	昭61 ~ 63
d 長日処理による株齢・栽培夜温別の開花抑制限界	
e 初年度株の養成時期	
f 花成誘導の短日処理期間と切り花の生育開花	
g 短日処理(花成誘導)時の茎長および処理後の日長と生育開花	
h 冬期連続採花の実証試験	
i 台刈り位置と切り花の生育および品質	
(3) 切花の鮮度保持と延命技術の開発	
a 切り花に対するSTSの延命効果	
b 切り花に対する硫酸アルミニウムの延命効果	
c 硫酸アルミニウムの季節別処理濃度・処理時間	昭58
d 硫酸アルミニウムに加工するSTSの季節別処理濃度・処理時間	
e 延命剤処理前後の無吸水時間と延命効果	
f 切り前および採花時刻と延命効果	
g 市販延命剤の処理効果	
h 調合液の使用可能日数	
3) リアトリスの促成栽培における植付時期と加温の有無が生育開花に及ぼす影響	
4) オモト栽培改善試験	
5) ミヤコワスレ障害花の原因究明	
6) ミヤコワスレの防寒方法の違いと障害花の発生	
7) キキョウ抑制栽培技術の確立	昭60
(1) 適品種の選定	
(2) 株の貯蔵温度と生育開花	
(3) 株の貯蔵方法と生育開花	
(4) 植付時期と生育開花	
8) シュッココンカスミソウ	
(1) 特産青果物・花きの高品質生産・鮮度保持技術の確立	
a 高品質生産のための好適栽培条件の作出	
(a) 石灰施用と切り花品質	
(b) 発蕾後の土壌水分状態と切り花品質	
(c) 少水分管理開始時期と切り花品質	
(d) 植物成長調整剤の処理と切り花品質	
(e) 換気と切り花品質	
b 鮮度保持技術の確立	
(a) 切り花の延命剤処理効果	
c 植物成長調整剤と換気方法の組み合わせによる切り花品質の向上	
3 球根草花に関する試験	平2 ~ 6
1) シンテッポウユリ	
(1) 品種並びに作型試験	
a 品種の早晩性と育苗温度並びに日長反応	
b ハウスの効率的利用による早期作型化	
(2) 簡易施設利用による生産安定と品質向上	
a ハウス利用による雨除け栽培が発育開花並びに品質に及ぼす影響	
b 定植期が発育開花に及ぼす影響	
(3) 開花率並びに開花揃い向上試験	
a 定植時の苗齢が発育開花に及ぼす影響	
b 苗の低温処理および短日における電照が発育開花に及ぼす影響	
c 植物成長調整剤利用効果	
(4) 切り花品質並びに生産性向上試験	
a 苗質と生育開花特性	
b 育苗温度と生育開花	

試験項目	年次	
c カンレイシャ被覆、敷ワラ並びに植付時期と生育開花	昭60 ~ 63	
(5) 高品質切り花生産技術および作期拡大		
a 土壌水分管理と生育開花		
b りん片繁殖時期・方法と苗立		
c 2年株切下球の促成作型への利用		
d りん片繁殖苗の栽培型と生育開花		
e 実生栽培における肥料の種類と施用量		
f 土壌水分管理と切り花品質・収量		
(6) 栽培の省力化および作期拡大		
a 1年株切下球りん片挿し苗利用による作期拡大		
(a) 石灰施用と切り花品質	昭63 ~ 平2	
(b) 二重被覆と生育開花		
(c) 栽植密度と生育開花		
b 除草剤等の利用による除草の省力化		
2) グラジオラス		
(1) 促成栽培技術改善		
a 木子利用による促成用球根養成(試作)		
(2) 促成のグラジオラスの自家養成球根利用による作期拡大		
a 養成球の大きさ別促成能力		
b 球根の温度処理と開花		
c 植付け木子の大きさと収穫期別球の肥大	昭61	
d 球根収穫期および球の大きさと作型別促成効果		
(3) 自家養成球根利用による大輪グラジオラスの作期拡大		
a ビニールトンネル利用による4~5月出荷作型の確立		
b 大型ビニールトンネル利用による4~5月出荷作型の確立		
(a) 二重被覆と生育開花		
(b) 被覆方法の違いと切り下球の生育開花		
(c) 切り下球および木子の自家養成		
(d) 自家養成球の生育開花		
3) チューリップ		
(1) 促成チューリップの新品種選定		
a 新導入品種の冷蔵処理温度・日数と生育開花	昭62 ~ 63	
(2) 促成チューリップに関する試験		
a 島根県産球根の本県における促成(無加温)検定		
b 新導入品種の低温処理法と生育開花		
(3) 2期作体系の確立		
a 輸入球の冷蔵方法と生育開花		
4 洋ランに関する研究		
1) シンビジウム切り花		
(1) 山上げによる奇形花発生の防止		平元 ~ 3
(2) 花芽分化発育過程		
(3) 安定生産技術の確立		
a 育苗期における元肥の種類と施用量		
b 育苗期における追肥の種類と施用量		
c 育苗用植え込み資材の種類		
d 奇形花発生の要因解明と対策		
(a) 冷房処理時期と奇形花の発生		
(b) 遮光程度と奇形花の発生		
(c) 施肥量と奇形花の発生		
(d) STSの奇形切り花紅変防止効果		
(e) 奇形花発生に及ぼす昼温・夜温管理の影響		
(f) 植物成長調整剤による奇形花発生防止		
(g) 細霧冷房による奇形花の発生防止		

試 験 項 目	年 次
e 植物成長調整剤処理と花芽発生および発育	平2～6
f 育苗期における緩効性化成肥料の利用	
g 夏季の遮光程度と生育開花	
h 開花株までの追肥施用量	
i 夏季の無遮光時期と生育開花	
j 夏季の遮光資材の違いと生育開花	
k 花芽発生期の灌水間隔(回数)と生育開花	
l 株間隔と生育開花	
m 遮光程度・遮光資材の違いと生育開花	
n 遮光時期の違いと生育開花	
o 葉の切断等処理と生育開花	
p 夏季の遮光時間帯の違いと生育開花	
q ウニコナゾール処理と生育開花	
(4) 養液栽培等新栽培技術の開発	
a ロックウールの種類・植え込み方法と生育開花	
b 電照処理と生育開花	
c 株分け後の灌水等の管理法と生育	
d 粒状綿培地における置き肥の種類・施用量と生育開花	
e 培地、置き肥の違いと生育開花	
f 粒状綿培地における灌水間隔と生育開花	
g 株分け後の管理法と生育	
h 培地・培養液濃度の違いと生育開花	
i 鉢の種類と生育開花	
j 培地の種類と生育開花	
k 給液頻度・給液量の違いと生育開花	
l 被覆資材・マットの違いと生育開花	
m 花芽形成期の窒素濃度と生育開花	
n 培地の種類と株分け後の生育開花	
o 石灰質資材の施用効果	
p 被覆複合肥料の溶出タイプと養成株の生育	
q 被覆複合肥料の置き肥状態と養成株の生育	
r 除草剤処理と生育開花	
s ロックウール粒状綿の種類選定	
t 花芽形成期の窒素濃度低下期間と切り花数量・品質およびリードの生育	
(5) ロックウール養液栽培技術体系の確立	平8～10
a 苗株養成法と生育	平7～10
(a) 培養液濃度と生育	
b 株分け方法と生育開花および採花数	
c スラブ容積と生育開花および採花数	
d 給液量と生育開花	
(a) 株分け後の給液開始時期と生育開花	
e ロックウールポット利用苗養成法の検討	
(a) 置き肥の施用量と生育開花	
(6) 竹炭の植え込み資材としての利用技術開発	
a 竹炭の種類・利用方法と生育開花および採花数	
b 竹炭の種類・粒径と生育開花	
c 苗株養成期における竹炭の種類と生育	
d 施肥量と生育開花	
e 灌水間隔と生育開花	
f 竹炭の化学性改善と生育	
g 肥料の種類と生育開花	
h 消炭利用栽培における施肥管理技術改善	
(a) 肥料の種類と生育開花	
(7) 彩り鮮やかな洋ランの育成	平14～16
a 生産技術体系実証試験	

試 験 項 目	年 次
(a) 栽培マニュアルの作成	平3 平13～14
2) コチョウラン	
(1) 電照および植物成長調整剤と生育開花	
(2) 省力・低コスト苗養成技術の確立	
a クローン苗の鉢上げ容器と生育	
b 施肥方法とクローン苗の生育	
3) オンシジウム	
(1) 切り花生産技術の確立	
a 肥培管理技術	
(a) 置き肥施用量および液肥濃度	
(b) 肥料成分率と花芽の生育	
b 株養成法の違いが生育開花に及ぼす影響	平11～13
(a) リード仕立て法	
(b) 寄せ植え栽培法の検討	
c 生理生態の解明	
(a) 開花リードの出現時期と生育期間および花茎の生育	
(2) 作柄安定技術の確立	
(3) 切り花の安定出荷技術の確立	
5) バイオテクノロジーに関する研究	
1) 優良種苗の大量増殖技術の確立	
(1) ヒオウギ	
a 茎頂培養における添加ホルモン	
b 苗条原基誘導の基礎培地	
c 苗条原基様体の苗化のための基礎培地	
d 苗条原基誘導のホルモン濃度	
e 苗条原基法で作出した優良種苗の現地供給と試作	
(2) ミヤコフスレ	
a 茎頂培養における添加ホルモン	
b 苗条原基誘導の基礎培地	
c 苗条原基誘導の窒素源濃度	
d 苗条原基苗化のホルモン濃度	
e 苗条原基法で作出した優良種苗の現地供給と試作	
f 培養苗の生育開花特性と変異発生	
g 優良種苗の現地供給と試作	
2) 薬・胚培養による新品種育成	平12 平14～16
(1) シンテツポウユリ	
a 系統選抜	
b 薬培養における蕾の大きさと培地のホルモン組成	
c 薬培養における培地のホルモン組成	
d 薬培養による半数体作出	
(2) ユリ類	
a 胚培養等による新品種育成	
b 交雑胚培養獲得個体の開花調査	
3) 葉片培養等によるクローン苗大量生産技術の確立	昭61～平2
(1) コチョウラン	
a 高PLB形成優良個体の選抜	
b 初代PLB形成の高率化培養法	
(a) 葉片培養におけるPVP添加と初代PLB形成	
(b) 葉片培養におけるCW添加と初代PLB形成	
(c) 葉片培養における初代PLB移植後の活着状況	
c PLBの分割継代増殖回数と活着状況	
d PLB活着・増殖の安定化	
(a) 初代PLB培養におけるPVP添加量とPLB形成	
(b) PLB継代培養における培地の種類とPLB形成	
(c) PLB継代培養におけるPVP添加と	平3～7
	平9～13



試験項目	年次
PLB形成 (d) PLBの低温処理による自動増殖法 (e) 培地組成とPLBの形態 (f) PLBの低温貯蔵 e 苗化の効率化と良質苗生産 (a) 苗化培地の組成と苗の生育 (b) 天然有機物の添加と苗の生育 (c) 固形化剤と苗の生育 (d) 培養容器と苗の生育 (e) 培地組成と苗の生育	
4) 根端培養によるクローン苗大量生産 (1) コチョウラン a PLB形成に及ぼす諸要因の影響 (a) 殺菌処理と根の長さ (b) 根の長さ、色および根端の長さ	平11
6 主要花きの品種改良と優良種苗の育成 1) キクの新品種育成 2) パラの新品種育成 3) シンビジウム (1) 新品种育成 (2) ブランド品種の育成 4) シンテッポウユリ (1) 新品种育成 (2) 選抜優良系統の栽培技術の確立 a 施肥量と生育開花 b 播種および定植時期と生育開花 c 苗の低温貯蔵処理と生育開花 5) キク「秀芳の力」優良系統の選抜 6) ヒオウギの優良系統育成と系統保存 7) スプレーギク(風車タイプ)の新品种育成 8) コチョウランの新品种育成および優良種苗生産 (1) クローン品種の育成 9) オンジジウムの新品种育成 (1) 属間交配による多彩な色彩を持つ新品种の育成	昭58～平7 昭63～平5 昭63～平13 平14～16 平元～12 平13～
7 花木 1) シキミの低温貯蔵法	平2～6 平2～6 平6～ 平14～
8 その他 1) 香酸かんきつ搾汁かすの液化物、炭化物の洋ラン栽培への利用技術確立 (1) シンビジウム苗養成におけるスタチカス液肥施用試験 (2) コチョウラン苗養成におけるスタチカス炭化物利用試験	平2～6 平12 平12

4 農芸化学科・生産環境担当 (土壌肥料)

試験項目	年次
1 普通作物に関する試験・調査 1) 水稲・麦に対する三要素等施用試験 2) 転換畑における大豆・小麦輪作体系の確立 3) 飼料用水稲の多収安定栽培のための施肥法 4) 大豆・小麦栽培体系における大豆の早播栽培の施肥法 5) 水稲(他用途利用米)に対する塩安系肥料肥効試験 6) 水稲ラグ期追肥効果試験 7) 水稲に対するリン酸及び水溶性ケイ酸の追肥効果試験 8) 鉄欠乏水田の改良対策 (1) 上板試験地	昭46～60 昭56～58 昭57～59 昭57～59 昭60 昭61 昭61～62 昭61～63

試験項目	年次
(2) 穴喰試験地 (3) 含鉄資材の種類と施用効果 (4) 含鉄資材の施用量及び残効 (5) 含鉄資材の施用が水稲の生育に及ぼす影響 (6) 含鉄資材施用とアルカリ効果 (7) 土壤還元条件での鉄補給が水稲に及ぼす影響 (8) 鉄混合ケイカルの肥効試験 9) 水稲の有機的栽培技術 (1) 有機栽培圃場の土壌実態調査 (2) 有機質肥料(油粕)の肥効試験	昭61～63 昭61～62 昭61～62 昭61～63 昭62～63 昭62～63 昭63 平元～3 平元～3
2 水稲-野菜作付体系に関する調査、試験 1) 高度輪作田における多肥型野菜跡水稲の安定生産技術 (1) 多肥型野菜跡地の残存無機態窒素の推移 (2) 多肥型野菜跡地の残存無機態窒素と水稲の生育反応 (3) 野菜跡水田土壌の窒素肥沃度の簡易診断技術 a 野菜跡水田土壌の窒素肥沃度の簡易診断 b 窒素肥沃度とコシヒカリの生育 (4) 水稲-野菜作付体系における有機農業技術の検討 (5) 野菜跡水稲に対する節間短縮剤入り肥料の肥効試験 (6) 残存無機態窒素の低減対策 a 窒素の形態と流亡 b 湛水処理による水稲への影響 (7) 硝酸態窒素および有機物が水稲の生育養分吸収に及ぼす影響 2) 輪換田の土壌管理対策 3) 汎用水田における野菜を中心とした高度輪作体系化技術の確立 (1) 新土壌管理方式における地力評価 (2) 肥沃度の簡易診断による水稲の適正肥培管理技術 (3) 野菜跡水田土壌の窒素無機化量 4) 有機農法における施肥技術の確立 (1) 敷草の肥効発現の増強 (2) 土壌水分コントロールによる有機質肥料の肥効促進	昭63～平2 昭63～平2 昭63～平2 昭63～平2 昭63～平2 昭63～平2 昭63～平2 平2 平2～3 平2～3 平2～3 平2～3 平2～4 平3～4 平3～5 平3～4 平4～6 平7～9 平7～9
3 園芸作物・特用作物に関する調査・試験 1) オモトの生育障害調査 2) モウソウ竹葉における養分含有率の経時変化 3) 洋ニンジン品質改善調査 4) ニンジン生育障害対策試験 (1) 土壌による再現試験 (2) ニンジン表皮の黒変に関する実験 a ポリフェノール物質の定量 b 各種イオンの影響 c 鉄イオン濃度および洗浄方法の影響 5) 特産野菜の高品質生産、鮮度保持技術の確立 (1) 洋ニンジン黒しみ対策試験 (2) ニンジンに対する有機物の施用効果 (3) 土壌の砕土条件が品質、鮮度保持に及ぼす影響 (4) 土壌水分が品質、鮮度持続性に及ぼす影響 6) 根菜類土壌の土壌密着改善対策 7) 洋ニンジンの品質向上のための効率的施肥法試験	昭57～59 昭61 昭62～63 昭62～63 昭62～63 平元 平元～5 平2～6 平2～5 平2～6 平2～5 平2～6 平2～5 平5～6

試験項目	年次
8) 輪換田における洋ニンジンの施肥管理法の検討	平5 ~ 9
9) ハウス土壌における土壌管理方式	
(1) ハウス栽培イチゴに対する有機物施用試験	昭59 ~ 平元
(2) クロス暗渠によるハウスの土壌改良試験	昭61 ~ 平元
(3) 隔離床栽培によるハウスイチゴの土壌改良	昭62 ~ 平元
(4) 塩類集積土壌におけるリン酸減肥試験	昭63 ~ 平元
10) イチゴハウス土壌の地力低下防止対策調査	昭62
11) ハウス栽培イチゴの栄養診断技術	平2 ~ 3
(1) 育苗期間における多施肥の影響	
(2) カード型イオンメータによるイチゴ葉柄中の硝酸態窒素診断	
a 硝酸態窒素濃度が生育に及ぼす影響	
b 硝酸態窒素濃度が収量、品質に及ぼす影響	
12) ハウスイチゴの品質改善	平3
(1) 基肥施用量が品質に及ぼす影響	
(2) 灌水方法試験	
(3) 地中灌水法による適正水分試験	
13) レンコン黒皮症防止対策	昭56 ~ 60
14) 塩害地レンコンの生産改善対策試験	昭60 ~ 62
15) レンコンの品質改善対策試験	昭63 ~ 平元
16) レンコンの皮点黒変(仮称)に関する試験	昭63 ~ 平元
(1) 鉄、マンガンの土壌施用の影響	
(2) 鉄、マンガンの灌注の影響	
17) レンコンの生産改善対策	
(1) レンコンに対する塩分の影響試験	平2 ~ 4
(2) 鳴門地区におけるレンコンのリン酸含量調査	平3 ~ 4
(3) レンコン表皮の水溶性リン酸含量とその基準値の推定	平3 ~ 4
18) ホウレンソウの施肥管理が品質に及ぼす影響	平5 ~ 9
19) レタスの施肥管理が品質に及ぼす影響	平5 ~ 9
20) 環境に配慮したキャベツの施肥管理の検討	平5 ~ 9
21) クワイ栽培におけるくん炭質改良材の培地利用試験	昭63
22) 葉菜類における品質向上試験	平14 ~ 15
23) 阿讃開発新規造成畑の土壌生産力阻害要因解明	昭60
24) 阿讃開発に伴う新技術体系の確立 吉野川北岸地区新墾畑土壌熟化調査	
(1) 新規造成畑の土壌生産力向上	昭60 ~ 平2
(2) 造成畑における導入野菜の適品種選定	昭60 ~ 平2
(3) 導入野菜の施肥改善	昭61 ~ 平2
(4) 熟化処理と作物の生育処理	昭61 ~ 平2
(5) 土壌の変遷調査	昭61 ~ 平2
(6) 新規造成畑における逆転ロータリーの効果	平元 ~ 平2
25) 雨よけ(冷涼地ハウス)栽培施設における土壌水分管理調査	昭59
26) 野菜地域における地下水の実態調査	平3
4 圃場整備田に関する調査・試験	
1) 圃場整備田の畑利用のための技術対策	
(1) 簡易暗渠・有機物・深耕の組合せによる土層改良	昭61 ~ 平2
(2) 暗渠方式の比較試験	昭61 ~ 平2
(3) ほ場整備田の地力増進対策試験	昭61 ~ 平2
(4) リッパー、簡易暗渠、有機物施用の深耕による土層改良試験	昭61 ~ 平2
2) 圃場整備地区排水改善対策試験	平2
3) 基盤整備田の畑地利用における安定生産向上対策	平3 ~ 7
4) 基盤整備圃場における強酸性土壌の発生	平6 ~ 7

試験項目	年次
要因とその対策	
(1) 強酸性土壌の発生要因	
(2) 強酸性土壌に対する石灰施用とpHの変化	
5) 大規模圃場整備田における露地野菜産地の育成	
(1) 額縁明渠処理試験による露地野菜の湿害回避対策	平13 ~ 14
(2) 圃場整備田におけるブロッコリーの施肥試験	平14 ~ 15
5 砂地畑に関する調査・試験	
1) 砂地畑の土層改良が土壌の理化学性に及ぼす影響	昭54 ~ 59
2) 砂質畑のアルカリ土壌対策	
(1) 砂地pH別養分吸収量	昭57 ~ 58
(2) 酸性肥料連用及び酸添加試験	昭58 ~ 59
3) 砂質畑の立地条件が土壌とサツマイモの収量に及ぼす影響	昭59
4) 砂質畑における砂粒径分布とサツマイモの収量	昭59
5) 砂土におけるダイコンの生育と地下水位	昭61
6) 砂地畑における粒径別の養分供給力	昭61
7) 砂地畑における耕耘回数と砂粒子の細粒化	昭61 ~ 62
8) 砂地畑における冬期季節風による飛砂防止対策試験	昭61 ~ 62
9) 耕耘による砂の細粒化	昭61 ~ 62
10) 海水等の葉面散布がサツマイモの品質、収量に及ぼす影響	昭61 ~ 平3
11) 砂地畑の立地条件とサツマイモの品質、収量	昭62
12) 砂地畑における地下水位と作物の生育	昭62 ~ 63
13) ライシメーターによる手入れ砂代替技術の検討	昭62 ~ 平2
14) 砂の種類の違いによる砂地土壌の生産力の検討	昭62 ~ 平3
15) 海水の土壌施用がサツマイモの品質、収量に及ぼす影響	昭62 ~ 平3
16) 大型ポットによる砂地畑土壌生産力解明試験	昭62 ~ 平4
(1) 砂の種類の違いによる生産力の検討	
(2) 土壌改良剤の影響	
17) 砂地畑における洗砂の技術化対策試験	昭63 ~ 平2
18) 砂地畑における微細粒子除去技術化対策試験	昭63 ~ 平4
19) 砂地畑におけるサツマイモのホウ素施用試験	平2 ~ 4
(1) 土壌pHの影響	
(2) 土壌水分の影響	
20) 伊島沖海中砂の手入れ砂適性試験	平2 ~ 4
21) 手入れ砂安定確保対策試験	
(1) 安定確保対策試験の設定条件	平3 ~ 5
(2) 各種砂の種類と化学性	平3 ~ 5
(3) 各種砂の種類と物理性	平3 ~ 5
(4) 代替え砂素材の特性試験	平3 ~ 6
(5) 代替え砂素材の手入れ砂効果試験	平3 ~ 6
(6) 手入れ砂粒径基準設定試験	平3 ~ 6
22) 砂地畑における微細粒子除去技術実用性試験	平3 ~ 6
23) 砂地畑、手入れ砂における砂の粒径分布の測定条件	平4 ~ 5
24) ライシメーターによる砂地畑の土壌環境特性の検討	平4 ~ 6
25) 砂地畑における微細粒子添加試験	平4 ~ 8
26) 新規砂地畑における土壌管理	平5 ~ 8
(1) 新規砂地畑の造成方法と土壌水分の変動	
(2) 新規砂地畑の造成方法とサツマイモの生育反応	

試験項目	年次
(3) 新規砂地畑におけるおがくず堆肥の施用量	
(4) 実証砂地畑におけるサツマイモの総掘り時期とその収量	
27) 生産安定化緊急促進対策事業	平6
28) 手入れ砂素材活用対策試験	平7～9
(1) 手入れ砂効果持続試験	
(2) 手入れ砂使用基準の確立	
29) 砂地畑における土壌管理	平9～13
30) 砂地畑高位安定生産技術対策事業	
(1) タイプ別砂地畑土壌特性調査および生産調査	平10～12
(2) 連作砂地畑土壌水分管理技術の開発	平10～12
(3) 手入れ砂代替素材実用化確立対策	平10～13
31) 手入れ砂に頼らない砂地畑園芸生産技術	平12～14
(1) 連作砂地畑土壌水分管理技術の開発	
(2) 砂地畑土壌水分推移実態調査	
6 農林畜産廃棄物利用に関する調査・試験	
1) おがくず堆肥の連用と蓄積	昭57～59
2) 砂質土壌におけるおがくず堆肥の連用と蓄積	昭57～59
3) 粘質土壌におけるおがくず堆肥の連用と蓄積	昭57～59
4) おがくず堆肥の発酵期間と成分変化及びキュウリの生育	昭57～59
5) バイオガス生成に伴う消化汚泥の処理技術	昭57～59
6) スラッジの促成堆肥化技術	昭57～59
7) 消化汚泥堆肥の育苗利用	昭57～59
8) 消化汚泥堆肥のイチゴポット育苗への利用	昭59～60
9) ハウスイチゴに対する消化汚泥堆肥の施用方法	昭59～60
10) くん炭質土壌改良材のイチゴポット育苗土への利用	昭61
11) バイオマスプラント廃液の灌水液肥利用	昭61～62
12) 畜産環境改善のための開発研究	平4～5
13) 発酵ふん施用による各種野菜の生育反応	平6～7
14) 発酵鶏糞の無機化試験	平7
15) 野菜栽培におけるステビア抽出かすの実用化試験	平13
16) 杉間伐材炭の有効利用技術の開発	平14～15
17) 農村集落排水汚泥肥料の施用基準の検討	平15～16
7 土壌保全に関する調査・試験	
1) 土壌環境基礎調査	
(1) 土壌管理実態および定点地力実態調査	昭54～平10
(2) モニタリング調査	平11～
2) 基準点調査	
(1) 水田における肥培管理と地力の変遷	昭50～
(2) 転換畑における肥培管理と地力の変遷	昭57～
(3) 茶園における肥培管理と地力の変遷	昭52～62
(4) 砂地畑における肥培管理と地力の変遷	平元～
3) 土壌環境対策調査	
(1) 里浦地区における砂地畑の風食調査	昭58～62
(2) 水田高度利用重点調査	昭58～61
(3) 砂地畑の風食調査	昭58～62
4) 塩害対策調査	昭61
(1) 小松島地区	
(2) 海部地区	
5) 地力診断事業	
(1) 分析診断	昭41～
(2) 地力増進診断指導事業	昭60～
(3) 砂地畑の土壌診断データ解析	昭60
6) 都道府県土地分類基本調査	昭46～61
7) 土壌生産性分級図の整備	昭57～58
8) 土地改良事業計画地区調査	昭61～62
(1) 土壌調査	

試験項目	年次
(2) 水質調査	
9) 土壌情報処理システムの作成	昭61～63
8 地力増進地域の土壌改善対策に関する調査・試験	
1) 地力増進地域指定地区土壌調査	昭60～平2
2) 地力増進地域指定地区土壌改善対策試験	昭61～62
(1) 上板試験地	昭61～62
(2) 穴喰試験地	昭61～62
(3) 指定地区地力増進対策指針	昭63～平2
3) 地力増進地域改善状況等調査	平13～
9 環境保全型農業に関する調査・試験	
1) 環境保全機能向上土壌、施肥管理技術の確立	
(1) 土壌生成温室効果ガス動態調査	平3～6
2) 農業環境収支適正化確立事業	平9～13
(1) 有機質資材等施用管理技術の確立	平9～13
(2) 環境負荷管理運営マニュアル策定	平11～12
3) 硝酸性窒素負荷低減対策事業	平13～16
4) 環境負荷低減農業技術確立実証事業	平14～18
5) 持続性の高い農業生産のための土づくり技術の確立	平14～16

## 5 病虫科・病害虫担当・病害虫防除所

### 1) 発生予察に関する研究

試験項目	年次
1 病害虫発生予察調査(指定、指定外病害虫)	昭16～平3
2 薬剤耐性病害虫調査	昭58～平12
3 ウィルス病診断事業	昭58～平12
4 移動性害虫迅速予察推進事業	平元～3
5 調査基準早期策定事業	平13～15
1) トマトサビダニ	
2) トマトのママハモグリバエ	
6 省力的予察調査法の早期策定	
1) 自動カウントフェロモントラップを利用した発生予察手法の確立	平13～15
2) 集合フェロモンによる果樹カメムシ類の発生予察法の改善に関する特殊調査	平13～14
7 イチゴ土壌病害の発生生態と簡易検定法の確立	平13～15

### 2) プロジェクト研究

試験項目	年次
1 土壌改良が病害虫の発生に及ぼす影響	
2 大豆・小麦体系における大豆早播き多収技術の確立	昭54～59
1) 早熟転作大豆における害虫の発生と防除	昭57～60
2) 大豆・小麦体系における大豆の病害防除	昭58
3 オモトの生育障害に関する試験	昭57～59
1) オモト炭そ病の発生生態と防除対策	昭57～59
2) オモト斑葉病類似症状の発生原因の究明と	昭58

試 験 項 目	年 次
対策	
3) オモトノアザミウマの発生生態と防除	昭59
4 四国地域傾斜地地帯への野菜の導入定着技術の確立	
1) トマト斑点細菌病の防除技術	昭58 ~ 60
5 砂地畑特産野菜産地の維持発展	
1) 砂地畑におけるサツマイモネコブセンチュウの被害実態と防除方法の解明	昭62
2) 砂地畑におけるサツマイモネコブセンチュウの密度と被害	昭63
3) サツマイモ帯状粗皮症、黒点病の原因究明と対策	昭62 ~ 平2
4) サツマイモかいよう病(立枯病)の防除	平元 ~ 3
5) 対抗植物利用によるサツマイモネコブセンチュウの防除	平元 ~ 3
6 水稲・野菜に関する有機農法の開発	平元 ~ 6
1) 水稲の有機栽培における病害虫の発生変動	平元 ~ 4
2) 冬初夏取りキャベツの有機栽培	平元
3) アマガエルの害虫防除への利用	平元
4) 多核体ウィルスの利用	平元
5) イチゴの有機栽培における病害および土壌微生物の発生変動	平2 ~ 3
6) イチゴの有機栽培における害虫の発生変動	平2 ~ 3
7) ネギの有機栽培における病害虫の発生変動	平4 ~ 6
7 サツマイモの連作障害(立枯病)対策	平9 ~ 13
1) 土壌微生物を利用したサツマイモ立枯病防除技術の確立	

3) 病害に関する研究

試 験 項 目	年 次
1 稲・麦病害	
1) 冬期発生ムギうどんこ病の効率防除	昭58
2) イネ馬鹿苗病の薬剤耐性菌検定と防除対策	昭61 ~ 63
3) ビール麦の大麦縞萎縮病の防除	昭61
4) 大麦縞萎縮病 (BaYMV) の系統に関する調査	昭63 ~ 平元
2 野菜 (果菜類)	
1) ピーマン、トウガラシのウィルスに関する研究	昭58
2) イチゴうどんこ病防除試験	昭60, 昭63
3) ナスすすかび病の薬剤防除試験	昭61
4) トマト疫病防除試験	昭61
5) イチゴの根腐れ症の発生要因と防除対策	昭61 ~ 63
6) CMV弱毒ウィルスの作出とこれを利用した防除技術の確立	昭61 ~ 平2
7) キュウリべと病に対するメトラシキル剤の葉表散布試験	昭62
8) イチゴ炭そ病防除試験	平元 ~ 2
9) キュウリ炭そ病防除試験	平2 ~ 5
10) イチゴうどんこ病防除試験	平8
11) イチゴうどんこ病の効果的な薬剤防除	平9
12) シロウリ病害の発生生態と防除	平9 ~ 11
13) ポット苗の薬液浸漬処理によるイチゴうどんこ病の防除	平10 ~ 12
3 野菜(葉茎類)	
1) 夏どりホウレンソウの立枯性病害対策	昭59
2) 夏どりホウレンソウの萎凋病対策	昭60 ~ 62
3) ホウレンソウべと病防除試験(品種)	昭62 ~ 63

試 験 項 目	年 次
4) ホウレンソウべと病防除試験(種子伝染、薬剤)	平4
5) アブラナ科野菜根こぶ病の総合防除	平8 ~ 10
4 野菜(根菜類)	
1) フローダスト法によるトンネルニンジン斑点細菌病防除試験	昭58
2) 洋ニンジン横縞症の原因究明	平元 ~ 2
3) ハス褐斑病防除試験	平2 ~ 4
4) ダイコンの生育障害(わかか症)対策試験	平4 ~ 7
5) サツマイモ立枯病(かいよう病)の防除	平4 ~ 7
6) 地域環境に配慮した土壌消毒技術(サツマイモ)	平7 ~ 12
5 施設環境	
1) 施設野菜の省薬剤防除技術の検討	昭58 ~ 59
2) ハウス内除湿機実用化試験	昭61
3) 施設内環境制御による病害発生制御技術の開発	平7 ~ 11
(1) 温風暖房機の送風間隔と病害の発生	
(2) 穴あけダクトによる送風処理と病害の発生	
(3) 昼夜温の温度設定とキュウリおよびトマト病害の発生	
4) ビニルハウス側面上部の開放による病害防除	平5 ~ 6
(1) 春期一重ビニルハウス側面上部の開放とエンドウ病害の発生	
(2) 側面上部の開放による病害制御要因とトマト、キュウリ病害の発生	
(3) 開放方法とハス褐斑病の発生	
5) ビニルハウスの内張資材と病害の発生	平6 ~ 7
6) 被覆資材が病害発生に及ぼす影響(トンネル栽培)	平8
6 その他	
1) 竹酢液の利用による病害の防除	平11
(1) イチゴおよびキュウリうどんこ病に対する防除効果	
(2) キュウリの病害発生および生育に及ぼす影響	

4) 虫害に関する研究

試 験 項 目	年 次
1 稲・麦・特用作物	
1) 暖地におけるイネミズゾウムシの発生生態調査	昭58
2) サトウキビの害虫発生調査	昭59
3) 藍害虫の発生生態と防除	昭59 ~ 平元
2 野菜(果菜類)	
1) ミナミキイロアザミウマの発生生態と防除	昭58
2) ナスのミナミキイロアザミウマに対する薬剤混用の効果	平4
3) マルチに幼若ホルモンを処理することによるナスのミナミキイロアザミウマの防除	平4 ~ 5
4) 幼若ホルモン剤を不織布マルチに処理することによるナスのミナミキイロアザミウマの防除	平4 ~ 6
5) トマトのタバココナジラミの総合制御	平5 ~ 6
6) ナス圃場におけるアザミウマ類、天敵の発生生態の調査	平2 ~ 3
7) 施設ナスのミナミキイロアザミウマに対する防除法の開発	平6 ~ 7

試験項目	年次
8) 天敵糸状菌によるキュウリの害虫防除	平7
9) 物理的資材の利用によるトマトのコンナジラミ類の防除効果	平7
10) 施設トマトにおける天敵寄生蜂・微生物等を用いたシルバリーフコンナジラミの生物防除	平10～12
<b>3 野菜(葉茎菜類)</b>	
1) コナガに対する薬剤防除効果の検討	昭59
2) ホウレンソウ害虫の防除に関する研究	昭61
3) コナガの薬剤抵抗性対策	昭61～63
4) コナガの薬剤感受性試験	平4
5) コナガのキチン合成阻害剤感受性低下に関する調査	平5
6) アブラナ科野菜害虫に対する薬剤使用方法の確立	平7～9
7) 天敵等を利用した総合的な害虫管理技術の確立(トマト, コナジラミ類)	平8～9
8) 育苗床の改良による害虫管理方法の検討(トマト)	平8～9
9) 天敵昆虫(デジェネランスカブリダニ)によるナスのミナミキイロアザミウマの防除	平9
10) 環境保全型農業技術の確立普及 (1) チンゲンサイのママハモグリバエ対策	平10～12
<b>4 野菜(根菜類)</b>	
1) ハスを加害する主要害虫の防除	昭60～62
2) サツマイモ畑におけるタバココナジラミの発生生態と防除	平4
3) 無人ヘリコプターによるサツマイモ害虫防除	平5
4) サツマイモネコブセンチュウに対する粒剤による防除体系の確立	平6～9
5) サツマイモ栽培地帯における鱗翅目害虫の防除体系の確立	平7～8
<b>5 花卉</b>	
1) キクの害虫防除に関する研究	平7～9
<b>6 その他</b>	
1) 被覆資材による害虫の侵入防止効果	昭62～63
2) 線虫対抗植物のネグサレセンチュウ増殖抑制効果	昭63
3) ハスモンヨトウの薬剤感受性調査	平2
4) 昆虫寄生性線虫の利用(ハスモンヨトウ)	平2
5) 薬剤抵抗性ハスモンヨトウの防除体系の確立	平3～5
6) 天敵寄生蜂オンシツツヤコバチに対する農業の影響	平7
7) ハスモンヨトウに対するBT剤の殺虫効果	平8

6 環境科・生産環境担当(環境保全・農業)

試験項目	年次
<b>1 環境省委託国補事業</b>	
1) 農業残留対策調査	昭46～平15
<b>2 農水省国補事業</b>	
1) 農業安全指導等特別対策事業 (農業適正使用推進対策事業 農業安全使用推進特別対策事業 農業安全使用等総合推進事業)	
(1) 農業残留安全追跡調査	昭46～平15
(2) 農業土壌残留調査	平元～4

試験項目	年次
(3) 農業残留特殊調査(マイナー登録拡大)	昭48～
(4) 農業安全使用推進活動事業	平14～
2) 農業安全使用技術向上対策調査	昭57～61
3) 総合的病害虫管理実証事業 (1) 軟弱野菜における総合防除体系の確立	平14
<b>3 県単事業</b>	
1) フローダスト法によるトンネルニンジン斑点細菌病防除試験	昭58～59
2) ハス葉上のチオファネートメチル流亡試験	昭57～58
3) オモトのアザミウマに対する土壌処理農業の動態と効果	昭59
4) 常温煙霧法による薬剤の拡散	昭59
5) 降雨に対する固着性展着剤の農業流亡防止効果	昭60
6) 蒸散器法による薬剤のハウス内拡散	昭60
7) 接触処理による作物体への農業の移行	昭61～63
8) イチゴにおけるプロシミドン, イプロジオン, ピンクロゾリンの残留	昭61～63
9) カンショにおけるニッソラン, パーマチオン, ハクサップ, ニッソランVの残留	昭61～63
10) フローダスト法による薬剤のハウス内拡散	昭61
11) カンキツ類の防除体系改善に関する試験	昭60～62
12) 農業の新散布体系に関する試験	昭62
13) ジマンダイセン水和剤のハス葉に対する付着性(航空散布)	昭62
14) 茶の防除体系改善に関する試験	昭63～平2
15) ジマンダイセンの消長と黒点病防除効果	昭63
16) 固着性展着剤の農業流亡防止効果	昭63～平3
17) レンコンにおけるジマンダイセン, ジマンレックス残留試験	平元
18) 輸出用温州ミカンにおけるEBDC剤残留調査	平元
19) 輸出用温州ミカンにおけるEBDC剤代替農業の残留と防除効果	平2～4
20) マイナ作物における農業残留試験	平2～12
21) ハス褐斑病に対する地上散布方式の検討と殺菌剤の登録取得試験 (1) 送風防除機(スーパースパウターズプレーヤ)によるハス田での薬剤散布試験 (2) レンコンに対するジマンレックス水和剤の登録取得試験(地上散布方式) (3) レンコンに対するゲッター水和剤の登録取得試験(地上散布方式)	平3～4 平3 平3
22) 早期集中防除が農業残留と病虫害の発生に及ぼす影響	平3～5
23) 有機農業栽培における農業使用と農業残留および病虫害の発生	平3～5
24) 農業安全使用技術確立事業	平4～5
25) ロボット散布によるナス葉への薬剤付着量	平4
26) 農業散布従事者への農業被曝量調査	平4
27) 産業用無人ヘリによる温州ミカンへの農業付着と黒点病防除	平4
28) 産業用無人ヘリによるユズへの農業付着と黒点病防除	平5
29) 農産物農業等安全対策推進事業 (農業適正使用啓発事業) (1) 集荷農産物の農業残留分析事業 (2) 香酸カンキツ類農業安全使用対策事業 (3) クロルピクリンの飛散軽減防止技術の確立 (4) コマツナにおける農業残留調査	平元～11 平4～6 平5～10 平12～13
30) すだち農業安全確保対策推進事業	平7～9
31) 土壌混和農業の作物移行と土壌中の消長	平9～11
32) チンゲンサイにおける農業残留	平12～14

試 験 項 目	年 次
4 日本植物防疫協会委託試験	
1) 農薬残留試料調整	昭62 ~
1 委託国補試験	
1) 土壌環境基礎調査(重金属関係)	昭54 ~ 60
2) 農業用水水質実態調査	昭60 ~ 61
3) 農用地土壌環境保全管理基準設定等調査	平 8 ~ 10
5 依頼調査	
1) 養殖アメゴの死亡原因調査	昭58
2) 農業用水の水質調査	昭59
3) わさび田への農薬散布にかかる谷川の水質調査	昭60
4) キュウリ・ハウスの除湿による環境改善調査	昭60
5) 塩素ガスによる農作物被害調査	昭61
6) 農村地域における生活排水処理対策	昭61
6 県委託試験	
1) 農業用水水質実態調査	昭62
2) 農業用水水質点検調査	昭63
7 プロジェクト	
1) 筍の高付加価値生産技術の確立と竹材の用途開発	
(1) 施設園芸における竹炭利用水質浄化技術の開発	平 7 ~ 9
2) 橘湾石炭火電影響調査	平 9 ~

7 経営科・企画経営担当（企画経営）

試 験 項 目	年 次
1 地域性	
1) 地域農業構造からみた水田転作条件	昭62 ~ 63
2 経営方式	
1) 四国地域傾斜地帯への野菜の導入定着技術の確立	昭58 ~ 60
(1) 中山間傾斜地帯における野菜作の生産・販売の組織化とマーケティング(徳島市場における野菜の流通動向)	
(2) 野菜導入定着技術の経営経済的評価	
2) 野菜類の作付要因に関する調査	昭60 ~ 61
3) 高速輸送体系に適合した四国集約型園芸のための技術開発	昭61 ~ 63
(1) 集約型園芸の経済性評価と定着条件の解明	
(2) 集約型園芸産地の再編方向と流通システムの策定	
4) 養液栽培(ロックウール)の経済性	昭62 ~ 63
5) 有機農業の経営実態調査と解析	平元 ~ 2
6) 高齢化に伴う露地野菜作産地の経営対応	平 3 ~ 5
(1) 夏秋ナス産地における経営対応	
(2) サツマイモ・ダイコン産地における経営対応	
7) 汎用水田における野菜を中心とした高度輪作体系化技術の確立	平 3 ~ 5
(1) 野菜導入による汎用水田の高度輪作営農(輪作体系化技術の経営的評価)	
8) 自然的有機農法展開上の経営経済的課題解明	平 4 ~ 6
9) 大規模営農の成立条件の解明	平 6 ~ 8
10) 傾斜地に適合した野菜・花きの高収益栽培体系の確立	平 9 ~ 13

試 験 項 目	年 次
傾斜地の立地条件を利用した園芸作物等の高収益生産技術	
(1) 高収益栽培体系の定着条件の解明	
(2) 傾斜地に適合した野菜・花きの高収益栽培体系の現地実証と経営評価	
11) 野菜・花きの環境保全型養液栽培技術の確立(地域基幹農業技術体系化促進研究)	平11 ~ 15
トマト・夏秋イチゴの環境保全型養液栽培技術の確立	
(1) 環境保全型養液栽培の定着条件の解明	
(2) 果菜類の環境保全型養液栽培の実証	
3 組織化	
1) 立地条件の高度活用による夏秋野菜と山菜類の高品質栽培体系の確立	平 6 ~ 10
小規模産地の連携による市場対応技術の開発	
(1) 中山間地域における小規模産地の現状分析	
(2) 小規模産地の連携手法の確立	
(3) 夏秋イチゴを基幹とする栽培体系と小規模産地連携の総合体系化	
4 市場対応	
1) スダチの生産流通分析	平元 ~ 2
2) 予冷施設利用による青果物の経済効果と評価	平 2 ~ 6
3) 野菜の収穫・出荷方法および商品形態の実態解明	平 6 ~ 9
4) 農産物流通における宅配便活用の展開方向	平 9 ~ 10
5) 交通体系の変化と朝どり野菜の経営評価	平10
6) 青果物の流通環境の変化による農業経営評価	平11 ~ 12
5 地域開発	
1) 地域農業複合化推進研究	昭55 ~ 58
(1) 小松島市田野町	
2) 高位地域農業複合化推進研究	
(1) 市場町	昭57 ~ 59
(2) 小松島市	昭58 ~ 60

8 農業機械科

試 験 項 目	年 次
1 水稻栽培の機械化	
1) 水稻湛水土壤中直播栽培に関する研究	昭57 ~ 59
2) 飼料用水稲多収安定化のための収穫法	昭57 ~ 59
2 水田転換畑大豆栽培の機械化	
1) 転換畑大豆の機械化(不整地播き栽培)	昭58 ~ 59
3 野菜栽培の機械化	
1) 傾斜地における耕うん法の改善	昭58 ~ 60
2) 山間傾斜畑における土壌消毒法	昭58 ~ 60
3) 山間傾斜畑における機械化作業体系の改善	昭58 ~ 60
4) 傾斜畑園へのおが屑堆肥移送法	昭58 ~ 59
5) レンコン堀取機の作業性能	昭59
6) 特産チョロギ堀取機の適応性	昭59
4 肥料散布の機械化	
1) 粒状石灰窒素の散布性能	昭58

9 育種科(平成3～12年)・栽培育種担当(育種)

試験項目	年次	試験項目	年次
1 イネに関する試験		5 バレイショに関する試験	
1) 約培養による水稲新品種の育成 (平成12年度まで作物科, 平成13年度から栽培育種(作物)との兼務)	平8～	1) バレイショ(ごうしゅいも)の優良種苗の育成と大量増殖技術の開発	平6～8
2 イチゴに関する試験		(1) 在来株の収集および特性調査	平6
1) イチゴの優良種苗生産安定対策事業 (平成2年度までは野菜科の課題)	昭59～平10	(2) マイクロチューバーの形成法	平6
2) イチゴのカルス培養系の確立	平8	(3) 系統選抜とウイルスフリー株の育成	平7
3) イチゴ新品種‘めぐみ’の大量増殖	平12～	(4) RAPD法による系統識別	平7
3 サツマイモに関する試験		(5) マイクロチューバーを利用した種いも生産方法	平7～8
1) サツマイモのウイルスフリー株の育成	平3～8	2) ごうしゅいも(在来バレイショ)の優良系統選抜及び栽培技術確立のための支援体制整備事業	平9～13
2) 砂地畑適応性高品質サツマイモの育成	平6～11	6 分けネギに関する試験	
(1) 交配母本の収集および特性検定	平6	1) 分けネギの優良種苗の育成と大量増殖技術の開発	平6～8
(2) 母本の交配	平6～8	7 山菜に関する試験	
(3) 実生個体選抜試験	平9～11	1) シオオデの優良種苗の育成と大量増殖技術の開発	平3～6
(4) 系統選抜試験	平9～11	(1) 大量増殖法の開発	平3～5
(5) 耐病性試験	平9～11	(2) エンブリオジェニックカルスの増殖用培地	平6
(6) 機械植適応性試験	平10～11	(3) 体細胞胚の誘導	平6
(7) 現地適応性試験	平10～11	2) シオオデを素材とした細胞融合による新作物の作出	平3～6
(8) マルチ資材適応性試験	平11	(1) 細胞融合技術の開発	平3～5
3) サツマイモのカルス培養系の確立	平8	(2) 4倍体の作出	平4～6
4) サツマイモ‘高系14号’の不定胚発生カルス由来再分化植物の特性	平8	3) クサソテツの優良種苗の大量増殖技術の開発	平8～11
5) 安定生産のための立枯病抵抗性・高品質サツマイモの育成	平9～13	(1) 多芽球体の増殖用培地の検討	平8
(1) 不定胚発生カルスからの再分化	平9	(2) 多芽球体の誘導培地	平9
(2) ‘なると金時’再分化植物体の特性	平9～10	(3) 多芽球体からの植物体再生	平9～11
(3) ‘高系14号’再分化植物の特性	平9～10	(4) 胞子による増殖法	平9～10
(4) 培養幼植物の立枯病抵抗性検定	平9	4) 組織培養によるヤブカンゾウの大量増殖技術の開発	平12
(5) 幼植物を用いた立枯病抵抗性の簡易検定法	平10	5) 組織培養によるアサツキの大量増殖技術の開発	平12～13
(6) 組織培養による立枯病抵抗性個体の選抜	平10	6) 組織培養によるノカンゾウの大量増殖技術の開発	平13～14
(7) ‘なると金時’のγ線照射による変異拡大	平10～12	(1) 組織培養によるノカンゾウの大量増殖技術の開発	平13
(8) 立枯病抵抗性の苗簡易検定法の確立	平11	(2) 継代培養における植物生長調節物質の影響	平14
(9) 苗簡易検定法による選抜株の圃場抵抗性検定	平11	(3) 継代培養における培地濃度, ショ糖濃度の影響	平14
(10) サツマイモ立枯病抵抗性の苗簡易検定等による選抜株の圃場抵抗性検定	平12	(4) 継代培養における植物生長調節物質の影響および発根促進のためのNAA濃度の影響	平14
(11) 圃場検定での栽植密度	平12	7) 組織培養によるノビルの大量増殖技術の開発	平14～
(12) 苗簡易検定等による選抜株の圃場抵抗性検定	平13	(1) 初代培養における多芽体の形成および植物体再生	平14
6) サツマイモの交配育種 (砂地畑適応性高品質サツマイモの育成の継続課題)	平12～	8) 組織培養による山ふきの大量増殖技術の開発	平14～
(1) 実生個体選抜試験	平12～	(1) 茎頂培養の利用	平14
(2) 系統選抜試験	平12～	(2) 葉片培養の利用	平14
(3) 耐病性試験	平12～	8 コチョウランに関する試験	
(4) 現地適応性試験	平12～	1) コチョウランの葉片培養技術を利用した鉢物用ブランド品種育成試験	平14～
(5) γ線照射個体選抜試験	平14	(1) クローン化適応性検定によるブランド品種候補選抜試験	平14
4 レンコンに関する試験		2) コチョウランのクローン苗大量安定供給システム確立試験	平14～
1) レンコンの優良種苗の育成および大量増殖法の開発	平3～7	(1) PLB継代培養における活着率改善に関する試験	平14
(1) 茎頂培養法の検討	平3～4		
(2) 大量増殖法の確立	平4～7		
(3) 優良種苗大量生産システムの開発	平5		
2) レンコンの細胞選抜による耐病, 耐塩性品種および早生品種の育成	平3～7		
(1) 耐病・耐塩性・早生品種の探索収集	平3～5		
(2) カルス化・再分化条件の検討	平3～4		
(3) プロトプラスト培養法の検討	平4		
(4) レンコンの染色体倍數化	平5～6		
(5) 培養植物および幼植物における選抜技術の検討	平5		

試験項目	年次
(2) 染色体倍数変異の効率劣削技術に関する試験	平14
(3) 培養培地に関する試験	平14
(4) PLB誘導法に関する試験	平14
(5) クローン苗の生育促進技術に関する試験	平14
9 その他	
1) 培養容器内観賞用植物に関する研究開発	平13～
(1) ヒマワリの培養容器内開花試験	平13～14
(2) アサガオの培養容器内開花試験	平13～14
(3) コスモスの培養容器内開花試験	平13～14
(4) エキザカムの培養容器内開花試験	平14
2) 強光照射装置による花芽生成制御の研究	平14～15

### 10 情報企画科・企画経営担当（情報システム）

試験項目	年次
1 グリーンピア計画における農業情報システムの検討 (1)	昭61～62
2 グリーンピア計画における農業情報システムの検討 (2)	
1) 地域農業気象情報システムの検討	昭63～平2
(1) 気象情報の処理・解析	
(2) 水稻の生育予測診断技術の確立	
(3) 主要野菜(ホウレンソウ、洋ニンジン)の生育予測診断技術の確立	
2) 農業研究情報システムの構築	昭63～平2
3) 農業研究情報システム化モデル事業	平3
(1) パソコン通信システムの構築	
(2) 文献情報の利活用	
(3) 農業研究情報システム化推進計画案の作成	
4) 農業研究情報システム化事業	平4～12
5) 映像情報化の整備推進	平5
3 研究情報の収集・加工・広報	
1) 文献の収集・利用および成果の普及	昭60
2) 映像情報の利活用	昭61～平8
3) 研究情報のサービス化と処理システムの検討	昭61～平3
4) 研究情報のデータベース化と広報	平4～8
5) 農業研究情報のデータベース化と広報	
(1) 試験研究成績、気象、図書・資料類のデータベース化と広報	平9～
(2) 外部データベースの利用	平3～
(3) GISによる農業センサデータの分析	平10
(4) 農業分野における地理情報システム(GIS)の応用	平11～13
4 簡易環境調節による暖地野菜の高品質生産流通技術	
1) 立地条件の高度活用による夏秋野菜と山菜類の高品質栽培体系の確立	
(1) 夏秋イチゴを基幹とする栽培体系と小規模産地連携の総合体系化	
a 小規模産地の連携化のための気象条件と経営評価	平6～10
5 農業・農村の情報化推進事業	平13～15
1) 試験研究の効率化のための遠隔観測システムの構築	
2) ホームページによる動画情報の発信	

### 11 プロジェクト担当

#### 1) 砂地畑

試験項目	年次
1 手入れ砂総合対策事業	平13～15
1) 砂地畑管理方式実証事業	
2) 人工手入れ砂機能向上対策	
3) 砂地畑有機資材連用技術確立対策	
2 手入れ砂に頼らない砂地畑園芸生産技術(平成12年度は農芸化学科が担当)	平12～14
1) 連作砂地畑土壌水分管理技術の開発	
2) 砂地畑土壌水分推移等実態調査	
3 高品質・良食味サツマイモ新品種の開発と省力・安定生産技術の確立	平14～16
1) 新品種適応試験	
2) サツマイモ有望系統の選定	
3) サツマイモの食味を向上させる栽培管理技術の確立	

#### 2) 作業システム

試験項目	年次
1 野菜のセル成型苗における苗質能力向上技術の開発(平成11～12年度は野菜科が担当)	平11～13
1) 長期育苗苗の管理方法	
2) 長期育苗苗の収量・品質	
2 サツマイモの省力・安定生産技術の確立	平13
1) 畦の硬度がサツマイモの品質に及ぼす影響	
2) 地温抑制マルチが収量・品質に及ぼす影響	
3) サツマイモ挿苗用電動作業台車の開発	
3 レンコン収穫作業機の開発(平成12年度は野菜科が担当)	平12～14
4 大規模圃場整備田における露地野菜産地の育成	平14～16
1) 畦立て同時施肥作業機の開発	
2) 畦立て同時施肥作業機のキャベツ栽培適応性試験	
3) 生分解性マルチの適応性	
4) 明渠の設置方法と圃場の排水効果	
5 高品質・良食味サツマイモ新品種の開発と省力・安定生産技術の確立	平14～16
1) サツマイモの省力・安定生産技術の確立	
(1) サツマイモ挿苗用電動作業台車利用時の植え付け姿勢評価	
(2) 収穫・搬送ハンドリング技術の開発	
(3) 車速感応精密土壌消毒機適応性試験	
(4) 自走式蒸気消毒機適応性試験	
6 レンコン茎葉処理機の開発	平14～16

### 12 池田分場・中山間担当

試験項目	年次
1 野菜に関する研究	昭58～60
1) 四国地域傾斜地帯への野菜導入定着技術の確立	



試験項目	年次
(1) 土壌浸食防止のための作付体系	昭58 ~ 60
(2) キュウリ・実エンドウ栽培における作付体系	昭58 ~ 60
(3) ダイコンの夏期連続収穫作型の開発	昭58 ~ 60
a 4月まきの前進限界	昭58 ~ 59
b 品種特性の比較	昭58
c マルチ資材の比較	昭58
d 4月播き品種の選定	昭60
e 夏ダイコンを中心とする作付体系の検証と確立	昭58 ~ 60
f 軟腐病の発生調査	昭58
g 緑肥すきこみ試験	昭58
(4) タマネギの秋どり作型の開発	昭58 ~ 60
a 早期定植に適する子球取基準と品種	昭59
b 品種選定	昭59
c 定植時期と収穫期	昭59
d 作型の検証と確立	昭59
(5) 吉野川上流地域傾斜地帯における適品目・適作型の選定	昭58 ~ 60
(6) 野菜の導入と生産安定のための作付体系	昭60
(7) 吉野川上流地域傾斜地帯における野菜導入定着技術の策定	昭60
2) 東北産寒地系ニンニク種球の生産力	昭58 ~ 60
3) ミニハウス利用によるニンニク(福地ホワイト)の4月どり作型の開発	昭63 ~ 平元
4) 寒地系ニンニク地どり種球利用技術の確立	平3 ~ 4
(1) 土中越冬試験	平3 ~ 4
(2) 水浸漬処理試験	平3 ~ 4
(3) わらマルチの影響	平4
(4) 追肥の有無・生育後期遮光の影響	平4
5) 四季成り性イチゴの新品種育成	昭58 ~ 平6 平8 ~ 14
6) 夏秋どりイチゴ	
(1) 栽培技術	昭58 ~ 59
(2) 高速輸送体系に適合した四国集約型園芸のための技術開発	昭61 ~ 63
a イチゴの夏秋どり栽培技術	
b 夏秋どりイチゴの鮮度保持技術	
(3) 作柄安定	昭63 ~ 平2
(4) 中山間イチゴの周年供給体系の確立	平2 ~ 5
a 夏秋どり前進作型の開発	平2 ~ 5
b 夏秋どり作型の開発	平2 ~ 4
c 秋冬どり作型の開発	平2 ~ 3
d 久留米48号を用いた遮光育苗による秋冬どり作型の開発	平3
7) 立地条件の高度活用による夏秋野菜と山菜類の高品質栽培体系の確立	平6 ~ 10
(1) 夏秋イチゴの中標高地域への産地拡大及び作期拡大技術の確立	平6 ~ 10
a 秋どり栽培管理技術	平6
b 秋どりの追肥方法と初夏どりの生育、収量	平7
c 初夏どりにおけるビニル再被覆時期	平7
d 秋どりの電照方法と生育、収量	平7 ~ 10
e 初夏どり栽培における遮光の影響	平8 ~ 9
f 灌水方法と生育・収量	平10
(2) 中標高地域での夏秋イチゴを基幹とする栽培の総合体系化実証試験	平6 ~ 10
8) 野菜・花きの環境保全型養液栽培技術の確立(地域基幹農業技術体系化促進研究)	平11 ~ 15
(1) 夏秋イチゴ養液栽培に適した有機培地の検索	平11 ~ 15
(2) 夏秋イチゴの有機培地利用と余剰培養液減量化技術の確立	平13 ~ 14
9) 阿賛開発に伴う新技術体系の確立 雨よけ栽培の適品目および適作型の検索	昭61 ~ 平元
(1) イチゴの秋冬どり作型の開発	昭61 ~ 平元

試験項目	年次
10) イチゴの育苗労力軽減と早期多収のためのクラウン利用育苗技術の開発	平6 ~ 8
(1) 幼苗大量生産技術	平6 ~ 7
a クラウン分離時期と発根	平6
b 発根のための温度条件	平6 ~ 7
c 発根のための培土の選定	平6 ~ 7
d クラウンの太さと発根、生育	平7
e 小クラウン苗と収量	平7
(2) 成苗化技術	平6 ~ 8
a 生育促進のための培土の選定	平6 ~ 7
b 生育促進のための分離時期	平6
c 生育促進のための肥培管理	平7 ~ 8
d 生育促進のためのトンネル被覆開始および終了時期	平7
e セルトレイの選定	平7
f 生育調整剤の利用	平7
g 葉数と生育、収量	平8
h 根量と生育、収量	平8
(3) 定植作業の軽減化技術	平7
a 小型成型苗の定植技術	
b 定植初期管理技術	
(4) クラウン利用苗によるイチゴ体系の実証(夏秋栽培)	平7 ~ 8
11) 中山間地における夏どりワケギの栽培技術	昭59 ~ 62
12) 中山間地における夏秋キュウリの生産安定	昭58
(1) 品種比較試験	
13) 夏秋キュウリの作柄安定	昭60 ~ 62
14) ミョウガのハウス無加温栽培 ミョウガの遮光効果試験	昭61 ~ 平元
15) 阿賛開発に伴う新技術体系の確立 雨よけ栽培の適品目および適作型の検索 メロンの8月上旬どり作型の開発	昭61 ~ 平元 昭63 ~ 平元
16) 8月どりメロン栽培技術の確立	平2
(1) 品種選定	
(2) 小型パイプハウスにおける雨水の影響	
17) 標高差を利用した夏どりメロンの高品質栽培技術の確立(県単特定研究)	平3
(1) 品種比較試験	
(2) 灌水量試験	
(3) 仕立法・着果節位試験	
(4) 雨水のハウス内土壌水分への影響	
18) 9月どりメロンの高品質栽培技術の確立	平4 ~ 5
19) 立地条件の高度活用による夏秋野菜と山菜類の高品質栽培体系の確立	
(1) 標高差を活用したメロンの作期拡大技術の確立	平6 ~ 10
a 適品種の選定	平6
b 定植前遮光の影響	平6
c 着果節位	平6
d 遮光処理の影響	平7
e 若苗利用技術	平7
(2) 9月どりメロンの高品質栽培技術の確立	平8 ~ 10
a 定植前後の遮光処理と生育、品質	平8
b 生育初期灌水と生育、品質	平8
c セル成型苗の生育と品質	平8
d セル成型苗の遮光処理と生育、品質	平9
e セル成型苗の遮光処理と生育初期灌水の組み合わせによる生育、収量	平10
f セル成型苗の生育初期灌水量と生育、品質	平9
g 2果どりの栽植密度と生育、品質	平9
h セル成型苗と生育、収量	平10
i 9月どりメロン作型の現地実証	平9 ~ 10
20) 夏秋ナス	平5 ~ 8
(1) 夏秋ナスの台木及び仕立て法試験	平5 ~ 6
(2) 夏秋ナスの追肥省力化技術	平5, 平7
(3) 夏秋ナスの一字仕立て栽培における栽	平8

試 験 項 目	年 次
植密度と主枝本数	
21) 傾斜地用運搬車の開発	平 5
22) ミニパイプハウス利用による防風対策試験	平 4
23) 初夏どりブロッコリーの安定生産技術の確立	平 4
(1) 雨よけ・遮光の影響	平 4
(2) 品種比較試験	平 4
24) ブロッコリーの品種比較	平 6
25) ミニトマト簡易選別機の開発	平 6
26) 阿賛開発に伴う新技術体系の確立	昭61～平元
雨よけ栽培の適品目および適作型の検索	
(1) ミニトマトの雨よけハウス栽培(品種比較、仕立て法、弱毒ウイルス)	昭63～平元
27) 春系キャベツの播種限界	昭60
28) 年内どりキヌサエンドウの播種期と品種	昭60
29) 県西に対応したトンネルニンジン栽培の確立	平14～ 16
2 花に関する研究	
1) リンドウの遮光効果試験	平 3
2) トルコギキョウ苗の短日処理効果試験	平 3
3) 夏秋切りトルコギキョウの安定生産技術	平 4～ 7
4) 遮光およびマルチ被覆処理と生育開花	平 7
5) 立地条件の高度活用による夏秋野菜と山菜類の高品質栽培体系の確立	平 6～ 10
(1) 中高標高地育苗苗を利用したトルコギキョウの10～11月どり作型の現地実証	平 9～ 10
a 育苗条件と生育開花	平 9
b 育苗培地と苗の生育	平 9
c 品種比較	平 9
d 冷房育苗苗を利用した10～11月どり作型の開発(品種比較)	平10
6) 傾斜地に適合した野菜・花きの高収益栽培体系の確立	
(1) 8～9月どりトルコギキョウの高品質生産技術の開発	平 9～ 13
a 灌水方法と生育開花	平 9～ 10
b 定植前後の遮光処理と生育開花	平 9
c 品種比較	平 9～ 13
d 現地試験	平 9～ 11
e 灌水チューブの比較	平11
f 遮光処理	平10～ 13
g 育苗培地の改良	平10
h 育苗培地に繁殖する藻類の制御	平11
i マルチ内点滴灌水における日灌水量	平12
(2) 4月どりストックの栽培技術の開発	平 9～ 13
a セル成型苗の八重鑑別方法	平 9～ 11
b コナガ等の害虫防除方法	平 9～ 11
c 品種比較	平 9～ 11
d 現地実証	平 9～ 12
e 子葉展開長、本葉の葉長による八重鑑別	平12
f 茎割れ症状に対するホウ酸葉面散布の効果	平12
g 播種期および品種比較	平12
h 直播栽培の適性	平12
i 畦利用不耕起直播栽培が切り花品質に及ぼす影響	平13
(3) ストック、トルコギキョウ高収益栽培体系の現地実証	平13
3 山菜に関する研究	
1) タラの組織培養による大量増殖技術	昭62
2) タラのふかし栽培技術の確立	平元～ 3
(1) 減圧吸水法による栽培の効率化	
a ホルモン処理	平元
b 減圧処理時間	平 2
(2) 効率化技術	

試 験 項 目	年 次
a 穂木の斜め伏せ法	平 2
b 穂木の調整法	平 2
c 品種比較	平 2
d 開花主枝を用いた早期収穫	平 3
e 生育調節剤の処理効果	平 3
3) 立地条件の高度活用による夏秋野菜と山菜類の高品質栽培体系の確立	平 6～10
(1) 立地条件を活用した山菜類の高度生産技術の確立	
a タラノメの親株養成技術	
(a) 親株養成試験	平 6～ 7
(b) 親株の夏切り栽培技術の確立	平 9
(c) ヒコバエを利用した株更新法	平10
(d) 開花親株の摘心時期と穂木充実度	平10
(e) 基肥早期施用によるふかし芽増収効果	平10
b タラのふかし栽培技術	
(a) 穂木の長期貯蔵法	平 7
(b) 夏期のふかし床条件	平 7～ 8
(c) 樹上ふかしにおける収穫回数と量、品質	平10
(d) 春収穫におけるふかし環境調節法	平10
(e) 加温時の簡易環境調節	平10
c シオデのふかし栽培における加温時期	平 7
d 中標高利用によるタラノメの春収穫作型の現地実証	平10
4) タラのふかし栽培におけるジベレリン剤の散布効果	平11
5) タラ優良品種の育成	平14～
6) 新規地域特産作物等の大量増殖、農地における斜面の整備・多目的利用に関する研究開発	平 7～ 11
(1) タラの種苗大量生産システムの開発	平 7～ 11
(2) 法面保護技術の検討	
a 法面被覆資材とタラノキの生育、抑草効果	平11
7) シオデの系統収集と増殖技術	昭62～ 63
8) シオデの組織培養による大量増殖法の確立	昭63～平 5
(1) 茎頂以外の冬芽組織からの不定芽形成	平元
(2) 蔗糖濃度	平元
(3) オーキシシンとショ糖が不定根形成に及ぼす影響	平 2～ 3
(4) 植物支持体とショ糖濃度が不定根形成に及ぼす影響	平 2
(5) 光条件が不定根形成に及ぼす影響	平 3
(6) 糖とオーキシシンの種類と濃度が不定根形成に及ぼす影響	平 3
(7) ショ糖濃度の変化が不定芽形成に及ぼす影響	平 4
(8) 多芽体由来の苗条からの発根	平 5
9) シオデのふかし栽培における生育調節剤の検討	平 2
10) シオデの生育特性の解明	平元、平 5
11) シオデ栽培化技術の開発	平 2～ 4
12) ツリガネニンジンの栽培化試験	平 5～ 6
13) 傾斜地に適合した野菜・花きの高収益栽培体系の確立	平 9～ 13
(1) ツリガネニンジンの冬どり技術の確立	平 9～ 11
a 播種期と被覆時期による生育	平10
b セル育苗における培地と苗の生育	平10
c 品質と収量性	平10
d 種子の発芽率向上試験	平11
e 直播きによる発芽率向上試験	平11
f 直播きによる品質と収量性	平11
g 施肥量の検討	平11
14) トトキの冬どり技術の確立	平12～ 14
(1) 播種時期、被覆時期と収穫時期	平12

試験項目	年次
(2) ジベレリンによる萌芽促進効果	平12
(3) 被覆前施肥量の検討	平12
(4) 実証	平13 ~ 14
15) フキ	
(1) 棚田利用による山フキの高品質栽培技術の確立	平3 ~ 5
(2) ヤマフキの促成化試験	平6
(3) 山フキの品質向上	平9 ~ 10
(4) 山フキの優良系統の育成と高品質生産技術の確立	平11 ~ 13
16) ゼンマイの簡易育苗技術	昭62 ~ 63
17) センブリ苗に発生する病害とその防除	昭62
18) センブリの系統と病害	昭63
19) モミジガサ	
(1) 暖地の有利性を活かした高付加価値栽培技術の確立	平2 ~ 4
a 無加温ハウス内での促成試験	平4
b 定温器内での促成試験	平4
(2) 組織培養による大量増殖技術の確立	平3
a 葉切片からの植物体再生	平3
(3) 親株養成試験	平6 ~ 8
a 簡易環境調節による親株養成試験	平6 ~ 7
b 高標高地利用による親株養成試験	平6
c セルトレイ利用による育苗	平6
20) ホドイモの組織培養による大量増殖技術の確立	平3
(1) NAA, BAが茎切片のカルス化に及ぼす影響	平6
21) 新規地域特産作物等の大量増殖、農地における斜面の整備・多目的利用に関する研究開発	平7 ~ 11
(1) 山菜類の高品質生産技術の確立	平7 ~ 11
a クサソテツの生育特性の解明及び親株養成技術の確立	平8 ~ 9
b 多芽体苗と胞子苗の比較	平10
c 親株の収穫打ち切り時期	平10
d 被覆時期と収穫時期	平11
e 温度別生育と収量	平11
f 苗別栽培地別生育	平11
g 土壌硬度別生育	平11
(2) 法面保護技術の検討	
a クサソテツとシオデの生育と景観形成	平11
b 遊休農地の土地条件に適合した施肥管理によるクサソテツ栽培	平11
22) 新地域特産作物による山間農地の多目的利用に関する研究開発	平12 ~ 15
(1) クサソテツ	
a ふかし促成技術	平12 ~ 13
b 胞子葉の収穫調整法	平13
(2) カンゾウ	
a 繁殖方法	平(10) ~ 14
b 法面におけるヤブカンゾウとアサツキの生育	平12
c 棚田でのヤブカンゾウの生育	平13 ~ 14
(3) ノビルの球根養成技術	平14
(4) ギボウシ	
a 被覆時期と収穫時期	平11
b 軟化技術	平11
(5) アサツキ	
a 施肥量・栽植密度と収量品質	平12
b 定植時期収穫時期と収量品質	平13
c 球根養成技術	平14
d 雪の下収穫時期と収量品質	平14
(6) ゴウシュイモ	
a 貯蔵法の検討	平12
b 優良系の選抜と栽培技術の確立	平13 ~ 14
(7) モミジガサ	

試験項目	年次
a セルトレイ利用による育苗	平14
b 遮光率	平14
c 種子, 挿し芽繁殖法	平11
	平13 ~ 14
4 茶に関する研究	
1) 系統比較試験	昭58 ~ 平2
(1) 系統適応性試験(第8群)	平8 ~ 9
2) せん枝試験	昭58 ~ 61
3) 更新試験	昭58
4) 直がけによる2番茶の良質化試験	昭58
5) 窒素施用量試験	昭59 ~ 平3
6) 摘採ネット試験	昭60 ~ 61
7) 多条密植と窒素施用量試験	昭61
8) 被覆肥料の効果検定	昭61 ~ 平3
9) 被覆肥料の施用時期試験	平元
10) 茶害虫の発生消長調査	昭62 ~ 平2
	平5 ~ 14
(1) チャノホソガ	昭59 ~ 60
	平5 ~ 14
(2) チャハマキ	平5 ~ 14
(3) チャノコカクモンハマキ	平5 ~ 14
11) 粉剤による茶害虫の防除試験	昭60
12) 発酵番茶の良質省力加工試験	昭63 ~ 平元
(1) 加温試験	平元
(2) 乾燥試験, 天日乾燥最適資材, 簡易乾燥技術	平元, 平5, 平11
13) 新発酵茶の嗜好調査	平元
14) 優良発酵菌を利用した新発酵茶・新飲料の開発	平2
(1) 優良発酵菌の分離・選抜	平2
(2) 好的発酵条件の検討(発酵温度と漬込み日数, 秋期における保温技術)	平2
(3) 高品質化技術(効果的乾燥技術, 釜炒りによる香気向上)	平2
15) 発酵茶の高品質安定生産技術	
(1) 原葉摘採時期の選定	平3
(2) 乳酸菌添加による発酵茶の品質向上	平3
(3) 秋期の茶葉を利用した発酵茶の品質	平3
(4) 熱処理方法が品質に及ぼす影響	平6
(5) 漬け込み容器等が品質に及ぼす影響	平6
(6) 漬け込み方法が品質に及ぼす影響	平6
(7) 発酵茶の原料茶葉が品質に及ぼす影響	平10
(8) 発酵茶の加工方法が品質に及ぼす影響	平10
16) 新発酵飲料の開発	平3
(1) 浸出方法が浸出汁の品質に及ぼす影響	
(2) 発酵茶浸出汁の高温度変異	
17) 発酵茶葉を利用した食品新素材の開発	平4
(1) 発酵茶葉の乾燥方法の検討	
(2) 発酵茶葉の粉碎精度の検討	
(3) 麺類への粉碎葉混入の検討	
(4) パンへの粉碎葉混入	
18) 緑茶の高品質安定生産技術の確立	平4 ~ 5
(1) 茶の系統適応性試験	
(2) 樹冠内中央レール方式による省力管理システムの開発	
19) 未利用茶葉の有効利用による新製品の開発に関する試験	平7 ~ 8
(1) 焙煎による新製品の開発	
(2) 粉末茶開発のための茶葉原料の検討	
(3) 粉末茶開発のための茶成分抽出条件の検討	
20) 茶園施肥管理体系の改善	平7 ~ 11
21) 茶園における鶏糞等施用試験	平10 ~ 11
22) 傾斜地茶園における軽作業化技術の開発	平12 ~ 13
23) 既存茶園への作業道の設置による省力化技術及び施肥の省力化と削減技術	平12

試 験 項 目	年 次
24) 茶園における新肥料利用による施肥の合理化試験	平12 ~ 14
5 雑穀に関する研究	
1) ソバ奨励品種決定試験	昭58 ~ 平3 平5 ~ 11
2) 雑穀類の収集保存と系統選抜に関する試験	平4 ~ 6 平10 ~ 14
3) 高付加価値食品開発に関する試験	平6
4) 除草剤の比較	平10
5) 畦間被覆による省力雑草防止法	平10
6) 防鳥に関する試験	平10
7) 精白に関する試験(コキビ, タカキビ, アワ)	平10 ~ 12
8) コキビの播種時期と収量	平12
9) コキビの施肥量と収量	平12
10) コキビ播種量が収量に及ぼす影響	平12
11) コキビ播種時の灌水の有無が、収量、生育に及ぼす影響	平12
12) タカキビの草丈調節	平13
13) 収穫作業省力化試験	平12
14) ディスプレイ用雑穀の栽培法(播種時期と出穂期, 最適播種期, わい化剤の効果)	平12
6 タバコに関する研究	昭58 ~ 59
1) 新農薬の効果検定試験	

13 海南分場・県南暖地担当 (海南園芸)

試 験 項 目	年 次
1 キュウリ	
1) ハウス白イボキュウリに関する試験	
(1) 省エネルギー対策試験	
a 品種比較試験	昭54 ~ 58
b 摘葉法試験	昭57 ~ 58
(2) 連作障害防止対策試験	
a 堆肥連用試験	昭55 ~ 58
b 施肥改善試験	昭57 ~ 59
c 播種試験	昭57 ~ 59
2) 促成長期一作キュウリ栽培の生産技術改善試験	
(1) 省エネルギー対策試験	
a 品種比較試験	昭58 ~ 60
(2) 連作障害対策試験	
a 施肥改善試験	昭57 ~ 59
3) 促成長期一作キュウリの高生産技術確立	
(1) 品種比較試験	昭58 ~ 60
(2) 主枝摘果試験	昭58 ~ 59
(3) 台木試験	昭59 ~ 62
4) 促成キュウリ長期一作型安定生産技術の確立	
(1) 品種比較試験	昭61 ~ 63
(2) 整枝・仕立法技術改善	昭59 ~ 62
(3) ブルームレス台木利用による品種比較試験	昭59 ~ 62
(4) コーティング肥料による施肥改善試験	昭59 ~ 62
(5) 畦立方法改善試験	昭62
(6) 土壌改良資材投入量試験	昭61 ~ 62
5) 促成キュウリの高品質安定生産技術の確立	昭63 ~ 平2
(1) ブルームレス台木の選定試験	
(2) 整枝・仕立て併用法の技術改善	
(3) 土壌水分管理試験	
(4) もみ殻堆肥の施用量試験	
(5) 電照効果試験	
(6) 摘葉試験	

試 験 項 目	年 次
6) 暖地型キュウリの高付加価値, 多収生産技術	
(1) 品種比較試験	平3 ~ 7
(2) ブルームレス台木品種比較試験	平3 ~ 7
a 誘引栽培	
b 摘芯栽培	
(3) 灌水試験	平3 ~ 4
(4) 摘葉試験	平3
(5) 仕立て法試験	平3 ~ 5
(6) 地温管理試験	平4 ~ 7
(7) 摘果試験	平5
(8) 若苗利用技術	
a 定植時の根圏制限の影響	平3 ~ 7
b 誘引側枝の位置	平3 ~ 7
(9) 定植時の葉齢及び基肥の量が生育収量に及ぼす影響	平3 ~ 7
(10) 灌水チューブ本数比較試験	平3 ~ 7
7) 大量育苗方式に対応した促成キュウリの高品質生産技術	
(1) キュウリセル苗1	
a セルの大きさ(定植時の葉齢)比較試験	平8 ~ 10
(2) キュウリのセル苗2	
a 苗の種類, 誘引子づる位置比較試験	平8 ~ 10
b 基肥の量, 苗の種類, 誘引子づる位置比較試験	平8 ~ 10
(3) 品種比較試験	平8 ~ 10
(4) ブルームレス台木品種比較試験	平8 ~ 10
8) セル苗に対応した促成キュウリの高品質安定生産技術	
(1) 初期収穫安定のための施肥量	平11 ~ 13
(2) 芯止まり原因	平11 ~ 13
(3) 良食味品種比較試験	平11
(4) 収穫安定のための施肥・灌水方法の検討	平11 ~ 13
(5) 栽植密度と仕立て法試験	平13
(6) 品種比較試験	平11 ~ 13
9) セル苗に対応したキュウリの促成超長期一作型栽培技術の確立	
(1) 地中冷却試験	平14 ~ 16
(2) 品種比較試験	平14 ~ 16
2 オクラ	
1) オクラの生産性向上	
(1) 摘葉法試験	昭63 ~ 平2
(2) 株数試験	昭63 ~ 平2
2) オクラの生産安定技術	
(1) は種試験	平3 ~ 4
(2) 初期温度管理試験	平3 ~ 4
3) オクラの前進作型における良品多収技術	
(1) トンネル型式と播種期	平5
(2) 生育初期の保温法	平5
(3) 移植時期	平5
3 イチゴ	
1) 促成イチゴの鉢育苗栽培に関する試験	
(1) 育苗中の追肥量試験	昭57 ~ 58
(2) 苗質に関する試験	昭57 ~ 58
(3) 芳玉の定植時期試験	昭56 ~ 58
(4) 麗紅の定植時期試験	昭57 ~ 58
(5) 鉢苗における定植後の追肥試験	昭58
2) 促成イチゴ作柄安定技術の確立	
(1) 定植後の追肥試験	昭58 ~ 59
(2) 定植後の根の処理試験	昭59 ~ 61
(3) 摘果試験	昭59
(4) ウイルスフリー株における施肥改善試験	昭60 ~ 61
(5) 鉢育苗の断根処理試験	昭59 ~ 61
(6) 鉢土改善試験	昭60 ~ 61
3) 冷房施設利用によるイチゴの低温処理と早	

試験項目	年次
出し栽培技術の確立 (1) 苗の低温処理効果	昭62
4 メロン	
1) 春作ハウスメロンの整枝法試験	昭57 ~ 59
2) ハウスメロン急性萎凋症対策試験	昭59
5 ブロッコリー	
1) 早期水稲跡作に関する試験	
(1) ブロッコリーの播種期及び品種比較試験	昭59 ~ 60
2) 早期水稲跡作ブロッコリーの栽培改善	
(1) 品種及び栽植密度試験	昭60 ~ 62
(2) 品種比較及び摘芯2花蕾どり試験	昭60 ~ 62
6 ニンジン	
1) トンネル洋ニンジンの生産性向上	
(1) 品種比較試験	昭60 ~ 62
2) 3, 4月どり洋ニンジンの作柄安定	
(1) 品種比較試験	昭63 ~ 平2
(2) 播種期試験	昭63 ~ 平2
(3) 換気法試験	昭63 ~ 平2
(4) 鶏糞の施用量試験	昭63 ~ 平2
3) トンネルニンジンの抽台防止技術の確立	
(1) 品種比較試験	平3 ~ 5
(2) 換気試験	平3 ~ 5
4) 夏播き冬どりニンジンの作型開発	
(1) 播種期とマルチ資材別の収穫, 収量	平9 ~ 11
(2) 品種比較試験	平9 ~ 11
7 スターチス	
1) スターチス・シヌアータの冷蔵・冷房育苗による早出し栽培と安定生産	
(1) 品種比較試験	昭62 ~ 平2
(2) 播種培地試験	昭62 ~ 平元
(3) 立枯病防除試験	昭62 ~ 63
(4) 育苗培地試験	昭63 ~ 平2
(5) 仮植床土の検討	昭62 ~ 平2
(6) 鉢育苗の窒素中断試験	平元 ~ 2
(7) 播種期試験	平元
8 デルフィニウム	
1) デルフィニウムの冷房育苗による早出し栽培技術の確立	
(1) 品種比較試験	平元 ~ 2
(2) 播種期試験	平元
(3) 市販の切り花延命剤による延命効果試験	平元
(4) 栽植密度試験	平2
(5) 生育調節剤利用による発芽促進試験	平2
(6) 電照試験	平2 ~ 3
(7) 定植時期試験	平3
(8) 地温上昇抑制効果試験	平2 ~ 3
9 クルクマ	平5 ~ 7
1) クルクマ・シャロームの春秋2作型の確立	
(1) 植え付け時期と開花期	
2) 地中加温の影響(春どり)	
3) 定植期, 地中加温, 電照の影響(秋どり)	
4) 催芽開始時期および球茎の新旧と発芽, 発根(春どり)	
5) 長日処理の効果(春どり)	
6) 据え置き栽培における前歴の影響(春どり)	
7) 追肥試験(秋どり)	
10 ユリ	
1) タキユリの系統選抜	平8 ~ 12
(1) 自生状況, 開花状況調査	
(2) 優良個体の選抜	
(3) 選抜外個体の花の形質の再確認	

試験項目	年次
2) LAユリの栽培安定	平9 ~ 11
(1) 品種比較試験(生育開花特性)	
(2) 球根の高度利用	
a 切り下球の低温処理による生育開花	
b 鱗片からの養成球の開花と切り花品質	
c 自家養成球根の利用と開花	
(3) 促成栽培における開花特性の把握	
4) オランダテッポウ栽培の変革期対応	平12 ~ 14
(1) オランダテッポウ栽培技術の先駆定着	
a 地温と生育開花	
b 'ホワイトヘブン'における基肥量と生育開花	
c 'ディオネ'における基肥量と生育開花	
d 'ホワイトフォックス'の切り下球根の生育開花	
e 促成栽培における品種比較と適正基肥量	
5) 海部テッポウ復活への試行	平12 ~ 14
(1) 促成栽培における球根の大きさと切り花品質	
(2) 促成栽培における球根の湯湯処理の有無と切り花品質	
6) 自然資源を利用した夏期地中冷却による品質の向上	
(1) ユリの夏季山間湧水の利用による新規作型の開発	平14 ~ 16
a 6月定植	平14
b 7月定植	平14
c 9月定植	平14
d 地中冷却によるオリエンタルおよびアジアティックハイブリッドの7月定植	平15
11 オンシジウム	
1) 遮光処理と花芽の分化・形成	平12
12 小ネギ	
1) 自然資源を利用した夏期地中冷却による品質の向上	
(1) 6月移植栽培における地温と生育の関係	平13
(2) 6月直播き栽培の地温と生育の関係	平13
(3) 8月直播き栽培の地温と生育の関係	平13
(4) 細ネギの夏季地中冷却による品質の改善	平14
(5) 高ECほ場における地温と生育の関係	平15 ~ 16
13 ナバナ	
1) ナノハナの作期拡大と高品質生産技術	平6 ~ 8
(1) 播種期別品種比較試験	
(2) 栽植密度	
(3) 種子低温処理試験	
(4) 移植栽培試験	
2) ナノハナの多様化, 新展開に適合できる栽培方法の確立	
(1) 遅時きによる3月下旬以降の高品質生産	平12 ~ 13
3) ナノハナリレー出荷のシステム化	
(1) 4・5月穫り品種適応試験	平14 ~ 16

14 阿南筍試験地・県南暖地担当(阿南園芸)

試験項目	年次
1 栽培改善試験	
1) タケノコ園に対するおが屑堆肥施用試験	昭53 ~ 61
2) タケノコに対する植物調節剤の使用に関する試験(収穫期調節に関する試験)	昭58 ~ 59
3) おが屑堆肥施用によるタケノコの早期出荷	昭58 ~ 60

試 験 項 目	年 次
に関する試験	
4) タケノコの収穫間隔が収量・品質に及ぼす影響	昭60～62
5) モウソウタケノコ栽培園における止りタケノコと竹の生育量	昭61～62
6) タケノコの冬どり作型の開発	昭61～63
2 病害虫・生育障害対策	
1) タケノコの黒変症対策試験	
(1) おが屑堆肥及び石灰施用試験	昭53～60
(2) 実生竹によるポット試験	昭56～60
2) 天狗巣病防除試験	昭57～58
3 作業・機械化技術に関する試験	
1) タケノコ園への堆肥搬入・散布法の開発	昭61～63
4 流通利用に関する試験	
1) 冬どりタケノコの鮮度保持技術の開発	昭61
5 タケノコの高品質、多収技術の確立	
1) 土壌改良によるモウソウタケノコの高品質多収技術の確立	平元～2
6 竹の種類組み合わせによる周年出荷技術	平2～17
7 タケノコの大量生産と早出し技術の改善	
1) 肥培管理改善	平3～4
8 モウソウタケノコの優良系統の選抜	平5～6
9 タケノコの高付加価値生産技術の確立と竹材の用途開発	
1) 高品質タケノコ(シロコタケノコ)生産技術の確立	平7～13
2) 帯状皆伐によるタケノコ促成栽培技術の確立	平7～13
10 タケノコ園の親竹管理技術の確立	
1) 親竹立ち本数とタケノコ収量	平5～9
2) 親竹の更新年齢とタケノコ収量	平5～9
3) モウソウチクの太さと収量	平8～13
4) 夏期、初冬期の土壌乾燥と収量	平9～11
5) 奇数年・偶数年発生の親竹別のタケノコ収量	平8～11
6) 深耕後のタケノコ生産力の回復	平7～13
7) 間伐竹リサイクル方法技術の開発	平12～16
8) 高品質筍生産裏止め技術	平14～18
11 タケノコ早出し省力栽培	
1) 親竹粗立整列仕立て省力栽培	平12～13
12 市場ニーズに即したタケノコ生産技術の確立	
1) 高単価時集中収穫と歴年の生産力検定	平14～18
13 大規模ほ場整備田における露地野菜産地の育成	平14～16

試 験 項 目	年 次
3 低コスト人工飼料育実用化試験	
1) 生理活性物質を利用した細繊維繭糸生産技術に関する試験	平9～10
4 昆虫の培養細胞による天敵ウィルスを利用した生物的防除技術	平8～12
5 桑品種改良指定試験事業	
1) 桑特性検定試験	昭54～平12
6 桑新品種の比較試験(蚕桑技術協力試験全国協定課題)	平8～11
7 桑園の地域資源としての有効利用技術	
1) 桑樵(実)利用技術の開発	平9～10
2) 地域に密着した新しい養蚕営農技術の確立	平10～12
8 未利用養蚕資源による高付加価値化製品の作出技術の開発	
1) 絹特産糸加工利用による高付加価値化製品の作出技術	平8～12
2) 絹タンバクの多用途利用技術の開発	平9～11
9 繭品質評価事業	平10～11
10 試験研究調査事業	
1) 糸質に特徴を持った蚕品種繭の糸質性状調査	平10～12
2) 新形質生糸(網状生糸)の作出技術	
3) 多様な繭の特性を引き出す煮繭及び繰糸技術	
11 繭質改善指導事業	平10～11

## 15 鴨島分場(平成10～12年度)

試 験 項 目	年 次
1 特徴ある蚕品種の育成と保存	平10～12 平10～12
2 高品質繭生産技術	

## 第2章 研究業績一覧

昭和58～平成14年度

注1) 試験研究報告, 学術雑誌, 学会講演要旨集などに発表したオリジナルなものに限った。

注2) 昭和58年以前のもので「徳島県立農業試験場八十年史」に登載されていないものを一部登載した。

注3) 記述の方法はつぎのとおりとした。  
番号) 著者氏名(刊行西暦年): 課題名, 発表誌名, 巻(号): 最初と最後のページ

注4) 発表誌名の略名は以下のとおりとした。

誌名	略名
徳島県立農業試験場試験研究報告	徳島農試研報
徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所試験研究報告	徳島農研研報
徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所研究報告	徳島農研報
園芸学会中四国支部研究発表要旨	園芸中四国発表要旨

### 1 作物科・栽培育種担当(作物)

- 1) 小山弘・谷本温暉・広田年信・川人浩・福岡省二(1985): 徳島県における転作大豆の収量からみた地域性とその要因(第2報)ポットの地域交換栽培による生育収量の比較と要因解析. 徳島農試研報, 22: 1~5
- 2) 高源昭雄(1987): 徳島県における藍栽培. 日本育種学会四国支部談話会
- 3) 広田年信・野本陽一(1990): 他用途利用米「アケノホシ」の生育特性と多収栽培法. 徳島農試研報, 27: 1~17
- 4) 野本陽一・後藤田栄一・佐竹治男(1992): 徳島県における極早生水稻の新奨励品種「ハナエチゼン」の特性. 徳島農試研報, 28: 1~6
- 5) 広田年信(1992): 徳島県における水稻の生育診断予測技術(第1報)水稻奨励品種の出穂期および成熟期の推定. 徳島農試研報, 28: 7~21
- 6) 野本陽一・広田年信(1992): 徳島県におけるビール麦の生育特性および品質. 日本作物学会四国支部第29回講演会, : 62~63
- 7) 野本陽一(1994): 水稻普通期栽培における乳苗移植栽培技術. 四国農業の新しい技術, 2: 59~63
- 8) 近藤真二(1994): 異常気象年における早期水稻の生育・収量の特徴. 日本作物学会四国支部会第31回講演要旨, : 56~57
- 9) 近藤真二(1994): 水稻の湛水散播栽培における生育型の変動. 日本作物学会四国支部会第31回講演要旨, : 58~59
- 10) 広田年信・野本陽一・近藤真二(1995): 四国地域における米の食味—栽培・環境条件との関連性— 第1章 徳島県における水稻の栽培条件と食味関連形質との関係. 四国農業試験場研究資料, 14: 1~6
- 11) 山本善太・野本陽一(1996): 風乾ヨシの条間敷草が水稻の生育・収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 32: 1~4
- 12) 藪内和男・豊成傑(2000): キヌヒカリの心白粒発生に及ぼす移植時期および施肥法の影響. 徳島農試研報, 36: 1~6
- 13) 南明信(2001): 小麦における有機質肥料施用法. 日本作物学会四国支部第38回講演会, : 24~25
- 14) 藪内和男(2002): 徳島県の酒米の現状と展望. 日本作物学会四国支部会シンポジウム, : 50~51

### 2 野菜科・プロジェクト担当(作業システム)・栽培育種担当(野菜)

- 1) 古藤英司・町田治幸・板東一宏(1984): 春まきトンネルダイコンの花成に関する研究. 園芸学会研究発表要旨, 昭59秋: 234~235
- 2) 町田治幸・古藤英司・小川純一(1984): 秋まきトンネルダイコンの生産安定に関する研究(第2報)秋まきトンネルダイコンの播種期と品種適応性. 園芸学会研究発表要旨, 昭59秋: 238~239
- 3) 古藤英司(1984): 気象災害回避による冬春ダイコンの生産安定技術. 四国地域普及技術レポート, 8: 1~10
- 4) 阿部泰典(1984): ミツバチ利用によるイチゴの促成栽培技術の確立. 農業技術, 39(7): 308~311
- 5) 古藤英司・町田治幸・板東一宏(1985): 春まきトンネルダイコンの生育初期の昼温が抽だいに及ぼす影響. 徳島農試研報, 22: 6~12
- 6) 町田治幸・古藤英司・小川純一・隔山普宣(1985): 春どり青首ダイコンの被覆下栽培における播種期と品種適応性. 徳島農試研報, 22: 13~27
- 7) 板東一宏・古藤英司・町田治幸(1986): 西南暖地におけるスイートコーンのトンネル栽培. 徳島農試研報, 23: 1~10
- 8) 古藤英司・町田治幸(1987): トンネルの換気量が気温・地温・CO<sub>2</sub>濃度およびニンジンの生育に及ぼす影響. 徳島農試研報, 24: 1~9
- 9) 川村泰史・町田治幸・小川純一(1988): 促成イチゴ循環式ロックウール栽培の育苗, 定植期及び給液法. 徳島農試研報, 25: 5~15
- 10) 板東一宏・町田治幸(1988): トマトのロックウール栽培実用化技術の確立(第1報)かけ流し方式における培養液濃度が品質・収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 25: 16~25
- 11) 板東一宏・町田治幸・古藤英司(1988): トマトのロックウール栽培実用化技術の確立(第2報)循環方式における培養液濃度及び給液法が品質・収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 25: 26~34
- 12) 町田治幸(1988): 果菜類の生理障害(ナス). 園芸学会シンポジウム講演要旨, 昭63秋: 68~78
- 13) 板東一宏(1988): トマトの循環方式ロックウール栽培における培養液濃度と品種. 園芸学会研究発表要旨, 昭63秋: 304~305
- 14) 板東一宏(1988): トマトのかけ流し方式ロックウール栽培における培養液処方. 園芸中四国発表要旨, 27: 38
- 15) 板東一宏・町田治幸(1989): トマトのロックウール栽培実用化技術の確立(第3報)循環方式における培養液濃度が品質・収量に及ぼす影響並びに品種間差異. 徳島農試研報, 26: 1~8
- 16) 板東一宏・町田治幸(1989): 循環方式ロックウール栽培における冬作トマトの培養液処方. 園芸中四国発表要旨, 28: 33
- 17) 町田治幸(1989): 高品質, 低コストをめざした養液栽培技術と問題点. 養液栽培研究会徳島大会
- 18) 板東一宏(1989): 循環式ロックウール栽培におけるトマトの作型別培養液管理法. 養液栽培研究会徳島大会
- 19) 隔山普宣・町田治幸(1990): 促成イチゴの循環方式ロックウール栽培における育苗培地, 定植法および培養液濃度. 徳島農試研報, 27: 18~28

- 20) 板東一宏・町田治幸(1990): 循環式ロックウール栽培における培養液濃度, 組成が春夏作トマトの収量, 品質, 尻腐れ果発生に及ぼす影響. 園芸学会雑誌, 59(別1): 306~307
- 21) 井内美砂・隔山普宣(1990): NFT栽培におけるイチゴの育苗培地. 園芸中四国発表要旨, 29:
- 22) 板東一宏(1990): 高温期のロックウール栽培における培養液管理がトマトの初期生育に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 29: 44
- 23) 板東一宏(1991): トマトの循環式ロックウール栽培 [1]. 農業および園芸, 66(6): 731~736
- 24) 板東一宏(1991): トマトの循環式ロックウール栽培 [2]. 農業および園芸, 66(7): 848~852
- 25) 板東一宏・町田治幸(1992): トマトのロックウール栽培実用化技術の確立(第4報)循環方式における培養液組成が品質, 収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 28: 35~42
- 26) 井内美砂・隔山普宣(1992): NFT栽培におけるイチゴの育苗培地. 徳島農試研報, 28: 43~47
- 27) 川下輝一(1994): カブのミニパイプハウス利用春どり栽培における効果的なべたがけ時期. 四国農業の新しい技術, 2: 77~83
- 28) 川下輝一・北岡祥治(1994): イチゴのクラウン利用による簡易増殖法 (第1報) クラウンの部位別萌芽とBA剤・殺菌剤処理が萌芽に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 33: 40
- 29) 吉田良・川下輝一・板東一宏(1994): サツマイモの機械定植システムに対応した新育苗法 (第1報) 蔓先処理方法及び育苗日数. 園芸中四国発表要旨, 33: 47
- 30) 吉田良・川下輝一・板東一宏(1994): サツマイモの機械定植システムに対応した新育苗法 (第2報) セルトレイと培土の種類が収量に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 33: 48
- 31) 吉田良・川下輝一(1994): サツマイモの機械定植システムに対応した新育苗法 (第3報) 蔓先処理方法及び育苗日数. 園芸中四国発表要旨, 33: 49
- 32) 隔山普宣・川下輝一・北岡祥治(1994): カブのミニパイプハウス春どり栽培における穴あけ換気とべたがけ被覆がハウス内温度ならびに生育に及ぼす影響. 徳島農試研報, 30: 1~10
- 33) 吉田良・川下輝一・板東一宏(1995): セル成型育苗によるサツマイモの機械移植法の開発. 徳島農試研報, 31: 7~12
- 34) 板東一宏(1998): トマトのヤシガラ培地耕の実用化に関する研究 第1報 冬作における生育, 品質, 収量. 園芸中四国発表要旨: 23
- 35) 吉田良(1998): サツマイモのつる処理機. 四国農業の新しい技術, 7: 17~19
- 36) 川下輝一・吉田良(1998): セル成型苗利用によるイチゴの促成栽培. 徳島農試研報, 34: 1~8
- 37) 吉田良(1998): サツマイモつる処理機. 農業機械学会誌, 60(6): 157~158
- 38) 井方宏典・板東一宏・川下輝一・岡田邦彦(1999): ニンジンのトンネル栽培における生育予測モデル. 園芸中四国発表要旨, 38: 27
- 39) 板東一宏・佐藤佳宏(1999): イチゴの養液栽培におけるベッド構造・培地の種類・培地加温の有無が生育, 収量に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 38: 29
- 40) 吉田良・川下輝一・板東一宏(1999): 促成栽培用イチゴ品種「めぐみ」の育成. 園芸中四国発表要旨, 38: 38
- 41) 吉田良・板東一宏・川下輝一・山本洋治・桑原穂(1999): サツマイモのつる処理機の開発. 徳島農試研報, 35: 1~6
- 42) 井方宏典・板東一宏・川下輝一・岡田邦彦(1999): ニンジンのトンネル栽培における生育予測モデル. 徳島農試研報, 35: 7~13
- 43) 吉田良(2000): イチゴの新品種「めぐみ」. 四国農業の新しい技術, 8: 31~33
- 44) 吉田良(2001): 新編野菜園芸ハンドブック (養賢堂発行) 第5章 第3節 サツマイモ: 705~712
- 45) 杉本和之(2001): コマツナの防虫ネットと簡易太陽熱消毒利用による害虫防除と雑草抑制. 四国農業の新しい技術, 10: 85~87
- 46) 松崎正典・板東一宏・佐藤佳宏(2002): イチゴの徳島農研方式高設養液栽培の開発. 徳島農試研報, 37: 1~12
- 47) 松崎正典・板東一宏(2002): イチゴ高設栽培における培養液の種類が生育, 品質, 収量に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 41: 38
- 48) 杉本和之・板東一宏(2002): トマトのヤシガラ培地耕の実用化に関する研究 (第2報) 培地の連用が生育, 収量, 品質に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 41: 32
- 49) 杉本和之(2002): トマト養液栽培における環境保全への取り組み. 日本養液栽培研究会香川大会: 2~7
- 50) 板東一宏(2002): 徳島農研方式イチゴ高設栽培について. 日本養液土耕研究会
- 51) 吉田良(2003): サツマイモの挿苗用電動作業台車. 近畿中国四国地域における新技術, 1: 103~105
- 52) 杉本和之(2003): 中山間地域におけるハウレンソウおよびコマツナの夏秋どり栽培技術. 近畿中国四国地域における新技術, 1: 149~150

### 3 花き科・栽培育種担当 (花き)

- 1) 住友昭利・前田浩典・浦上好博(1987): 暖地におけるシンテッポウユリの栽培技術と切花品質・収量. 徳島農試研報, 24: 10~19
- 2) 浦上好博・住友昭利・前田浩典(1988): シンビデュムの奇形花に関する研究(第1報)夏季の高温が奇形花発生に及ぼす影響. 園芸学会研究発表要旨, 昭63秋: 540
- 3) 前田浩典・浦上好博・住友昭利(1989): プバルディアの冬季切花栽培における生育開花調節について. 徳島農試研報, 26: 17~28
- 4) 浦上好博・住友昭利・前田浩典(1989): シンビジウムの奇形花に関する研究(第1報)花芽形成過程における夏季の高温が奇形花発生に及ぼす影響. 徳島農試研報, 26: 29~37
- 5) 浦上好博(1990): ヒオウギの苗条原基誘導と植物体再生. 園芸中四国発表要旨, 29:
- 6) 浦上好博・前田浩典・高木和彦・貞野光弘(1992): ヒオウギの組織培養による大量増殖(第1報)苗条原基誘導と植物体再生. 徳島農試研報, 28: 22~29
- 7) 高木和彦(1992): トルコギキョウ育苗に用いる容器の大きさと培土の物理性. 園芸学会雑誌, 61(別1): 396~397
- 8) 浦上好博(1993): ミヤコワスレ培養苗の利用による切り花品質向上と変異の抑制. 四国農業の新しい技術, 1: 45~51
- 9) 高木和彦・前田浩典・浦上好博(1994): シンテッポウユリの実生切り下球のりん片繁殖苗利用による高品質切り花の6~7月収穫について. 徳島農試研報, 30: 17~24
- 10) 高木和彦・浦上好博・大和明弘(1995): トルコギキョウの秋・春二度切り作型におけるマルチを利用した切り花の高品質化. 徳島農試研報, 31: 21~25
- 11) 大和明弘・浦上好博・高木和彦(1996): 生長調節物質処理および昼温管理がシュッコンカスミソウ切り花の形状に及ぼす影響. 徳島農試研報, 32: 15~21
- 12) 王裕霞・高木和彦・新居宏延(2000): フェレノプシスの根端培養によるPLB形成に及ぼす諸要因の影響. 徳島農試研報, 36: 18~22
- 13) 新居宏延(2001): 竹炭培地によるシンビジウムの切り花栽培. 第7回アジア太平洋蘭会議・蘭展公式記録集, : 178~179



- 14) 高木和彦(2001): シンテッポウユリ新品種「阿波の白雪」、四国農業の新しい技術, 10: 99~102
- 15) 新居宏延・高木和彦・前田浩典(2002): 竹炭培地によるシンビジウムの切り花栽培 (第1報) 竹炭の種類・利用方法が生育開花に及ぼす影響. 徳島農研研報, 37: 31~35
- 16) 近藤真二(2002): 施肥の違いがオンシジウムの生育・開花に及ぼす影響. 園芸中四国発表要旨, 41: 57
- 17) 高木和彦(2002): シンテッポウユリ新品種「阿波の白雪」(品種登録申請中)の育成. 園芸中四国発表要旨, 41: 55
- 18) 須藤憲一・新居宏延・今村仁・岡本章秀(2003): ファレノブシス栽培培地溶液中の養分濃度が葉と根搾汁液中の養分濃度に及ぼす影響. 九州農業研究, 65: 210
- 4 農芸化学科・プロジェクト担当 (砂地畑)・生産環境担当 (土壌肥料)**
- 1) 川口公男 (1982): これからのタケノコ園の土壌管理. 農業および園芸, 57(10): 1301~1304
- 2) 林捷夫・中野隆司(1985): オモトのうずまき症(仮称)の発生要因. 徳島農試研報, 22: 71~77
- 3) 岡田俊美・細川幸之助・川口公男(1986): 茶樹に対する肥料の多量施用が生育及び土壌に及ぼす影響. 徳島農試研報, 23: 23~30
- 4) 岡田俊美・中野隆司(1986): 徳島県の砂地畑における土壌及びサツマイモ葉中の養分含有率に及ぼす土壌pHの影響. 日本砂丘学会第33回全国大会
- 5) 川口公男・山本英記(1987): レンコンの呼吸特性と土壌の酸化還元. 徳島農試研報, 24: 30~33
- 6) 黒田康文(1988): 塩害地におけるレンコンの生産改善. 四国土壌肥料協議会講演要旨集, 23: 20~21
- 7) 葉柳清照・岡田俊美・川口公男・山本英記(1990): 徳島県における遊離酸化鉄欠乏水田の分布と含鉄資材の施用効果(第1報)遊離酸化鉄欠乏水田の分布. 徳島農試研報, 27: 44~50
- 8) 葉柳清照・岡田俊美・黒田康文・梯美仁・山本英記(1990): 徳島県における遊離酸化鉄欠乏水田の分布と含鉄資材の施用効果(第2報)含鉄資材の施用効果. 徳島農試研報, 27: 51~58
- 9) 岡田俊美・細川幸之助・葉柳清照・山本英記(1990): 窒素施用量の違いが茶樹の生育と土壌化学性に及ぼす影響. 徳島農試研報, 27: 59~66
- 10) 葉柳清照ほか(1990): 徳島県における鉄欠乏水田の分布と改良対策. 四国土壌肥料協議会講演要旨集, 24: 10~11
- 11) 豊成傑(1990): ニンジンの根部障害発生要因について. 四国土壌肥料協議会講演要旨集, 25: 26~27
- 12) 岡田俊美・山本英記・川口公男(1990): 徳島県における風食の実態と二・三の防止対策の効果. 日本砂丘研究会第37回全国大会: 6~7
- 13) 黒田康文(1990): 砂地畑におけるサツマイモのハウ素過剰症. 日本土壌肥料学会関西支部講要: 19
- 14) 山本英記(1991): 客土砂(手入れ砂)による良品質根菜類の生産. 農業技術, 46(3): 17~21
- 15) 黒田康文(1991): 砂地畑におけるサツマイモのハウ素過剰症. 日本砂丘研究会第38回全国大会
- 16) 黒田康文・岡田俊美・山本英記(1993): 徳島県の砂地畑におけるサツマイモのハウ素過剰による葉緑褐変症. 徳島農試研報, 29: 20~27
- 17) 黒島忠司・森浩一・青江博文(1994): 砂地畑における客土(手入れ砂)に対する栽培農家の意識調査. 日本土壌肥料学会講演要旨, 40: 142
- 18) 松家義克・黒島忠司・野本陽一(1995): 粘質土壌の基盤整備水田におけるビール麦に対する排水改善. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨: 5
- 19) 梯美仁・黒島忠司・武市啓志・黒田康文・高尾由美子(1995): 砂地畑における微細粒子の除去効果. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨: 9
- 20) 波多間美貴子・黒島忠司・黒田康文(1995): 水稲栽培におけるヨシ敷草処理の肥料効果と抑草効果. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨: 9
- 21) 黒島忠司・波多間美貴子・梯美仁・松家義克(1995): ビニルトンネルにおける西洋ニンジンの施肥と養分吸収. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨
- 22) 黒島忠司(1996): 基盤整備圃場における硫酸酸性土壌の発生原因とその対策. 四国土壌肥料協議会研究報告, 31: 12~24
- 23) 波多間美貴子・黒田康文・黒島忠司・松家義克(1996): 水稲栽培におけるヨシ敷草処理の肥料効果と抑草効果. 徳島農試研報, 32: 5~11
- 24) 梯美仁・黒島忠司・武市啓志・黒田康文・高尾由美子(1996): 連作砂地畑における微細粒子の除去が土壌の物理性とサツマイモの生育・収量および品質に及ぼす影響. 徳島農試研報, 32: 29~34
- 25) 松家義克・黒島忠司・野本陽一(1996): 粘質土壌の基盤整備水田におけるパンプレーカによる下層土の物理性改善. 徳島農試研報, 32: 35~39
- 26) 梯美仁・黒島忠司・高尾由美子(1996): ニンジン横しま症発症部位におけるフェノールの集積. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨: 29
- 27) 松家義克・米山忠克・増田泰三(1996): 市販のニンジンの $\beta$ -カロチン含量と数種の糖含量. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨: 30
- 28) 黒島忠司・川下輝一・野本陽一(1996): 水田の高度利用のための耕種的土壌改良. 農業および園芸, 71(4): 477~483
- 29) 梯美仁・黒島忠司(1997): 砂地畑における肥培管理とサツマイモの品質. 日本土壌肥料学会関西支部講演要旨: 17
- 30) 梯美仁・黒島忠司(1997): 土壌水分がニンジン横しま症の発生に及ぼす影響. 徳島農試研報, 33: 25~30
- 31) 梯美仁(1998): サツマイモ栽培における砂地畑土壌の適正粒径組成. 四国農業の新しい技術, 7: 87~90
- 32) 小川仁・波多間美貴子・黒島忠司・梯美仁(1998): 水稲の無化学肥料栽培におけるナタネ油粕の効果的な基肥施用法. 徳島農試研報, 34: 23~27
- 33) 松家義克・黒島忠司・喜田直康(1998): ニンジンのビニルトンネル栽培地域における環境保全型土壌管理 第1報 土地利用が異なる圃場の下層土における硝酸態窒素の集積実態. 徳島農試研報, 34: 28~33
- 34) 梯美仁(1998): 造成砂地畑の特徴と土壌管理. 日本砂丘学会第45回全国大会: 34~41
- 35) 梯美仁(1999): 造成砂地畑の特徴と土壌管理. 日本砂丘学会誌, 45(2): 45~51
- 36) 梯美仁・黒島忠司(1999): サツマイモ栽培における砂地畑土壌の適正粒径組成. 徳島農試研報, 35: 20~25
- 37) 梯美仁・黒島忠司(1999): サツマイモ栽培における砂地畑土壌の適正粒径組成. 日本土壌肥料学会講演要旨集, 45: 4
- 38) 松家義克・梯美仁・小川仁(2000): 徳島県におけるこの20年間の農耕地土壌の実態と変化. 徳島農試研報, 36: 23~36
- 39) 梯美仁(2001): 造成砂地畑における暗渠排水によるサツマイモの収量, 品質の向上. 四国農業の新しい技術, 9: 81~83
- 40) 中野宏(2001): ニンジンのトンネル栽培の環境保全型施肥と収穫直後のソルガム栽培. 四国農業の新しい技術, 10: 125~127
- 41) 小川仁・梯美仁(2001): 徳島県内砂地畑土壌の地域特性. 日本砂丘学会全国大会講演要旨集: 10~11

- 42) 松家義克・中野充宏・梯美仁(2002): ニンジンのビニルトンネル栽培地域における環境保全型土壌管理(第2報) 環境を配慮したニンジン窒素施肥量. 徳島農研報, 37: 43~54
- 43) 小川仁・梯美仁・井上光弘・田邊賢二・尾谷浩(2002): 砂地畑における土壌水分推移がサツマイモの収量・品質に及ぼす影響. 日本砂丘学会全国大会講演要旨集, 49: 16~17
- 44) 梯美仁・黒島忠司・黒田康文(2002): 砂地畑土壌の粒径組成がサツマイモの収量・品質に及ぼす影響. 日本土壌肥料学雑誌, 73(3): 319~322
- 45) 小川仁・梯美仁(2003): 徳島県における砂地畑土壌の理化学性の実態. 徳島農研報, 1: 7~18
- ### 5 病虫科・病害虫担当
- 1) 山本勉(1984): キュウリ緑斑モザイク病防除技術の確立. 農業技術, 39(1): 11~17
- 2) 金磯泰雄(1984): *Alternaria alternata*に起因するダイコン幼苗期の根部黒変及び立枯の発生に及ぼす環境条件の影響. 四国植物防疫研究, 19: 25~34
- 3) 加々美好信・貞野光弘(1984): 徳島県下でのオモト炭そ病の発生実態と薬剤防除. 日本植物病理学会報(講要), 50: 401
- 4) 加々美好信(1984): マルチ畦内消毒による土壌病害防除技術. 農業および園芸, 59(5): 694~698
- 5) 加々美好信・福西務・中西謙二(1985): マルチ畦内消毒の各種土性への適用. 徳島農試研報, 22: 28~38
- 6) 金磯泰雄(1985): 敷わらに寄生する数種植物病原菌と堆肥化によるそれらの不活化. 徳島農試研報, 22: 39~47
- 7) 金磯泰雄・酒井勇夫(1985): 種子消毒がムギの発芽・生育に及ぼす影響. 徳島農試研報, 22: 48~55
- 8) 金磯泰雄・野口義弘(1986): 土層改良が病害虫の発生並びに土壌消毒効果に及ぼす影響. 徳島農試研報, 23: 11~16
- 9) 加々美好信・貞野光弘(1986): オモト炭疽病の発生実態と防除. 徳島農試研報, 23: 17~22
- 10) 貞野光弘・加々美好信(1986): ホウレンソウ萎凋病の薬剤防除. 四国植物防疫研究協議会, 1986(11): 13~14
- 11) 加々美好信・貞野光弘・井内晃(1987): オモトノアザミウマの発生生態と防除. 徳島農試研報, 24: 20~29
- 12) 加々美好信・貞野光弘(1988): 夏どりホウレンソウの萎ちょう病の発生実態と薬剤防除. 徳島農試研報, 25: 35~46
- 13) 脇屋春良・関口辰也・谷幸泰(1988): ヒラズハナアザミウマによるハス葉の被害. 徳島農試研報, 25: 47~50
- 14) 関口辰也・脇屋春良(1988): タデアイを加害するカツオゾウムシの生態と防除. 徳島農試研報, 25: 51~57
- 15) 広田恵介・貞野光弘・阪口豊美・加々美好信(1990): イチゴ炭そ病の発生に及ぼすいくつかの要因. 四国植物防疫研究, 25: 91~95
- 16) 広田恵介・貞野光弘・阪口豊美・加々美好信(1991): イチゴ炭そ病の施肥量による防除効果. 日本植物病理学会報(講要), 57(1): 96~97
- 17) 広田恵介・貞野光弘・加々美好信・酒井勇夫(1991): イチゴ炭そ病の発生におよぼす窒素施用量の影響. 日本植物病理学会報(講要), 57(3): 422~423
- 18) 貞野光弘・広田恵介・河本征臣・土屋建一・鈴木孝仁(1991): 徳島県の砂地畑における *Streptomyces ipomoeae* によるサツマイモ立枯病の発生. 日本植物病理学会報(講要), 57(3): 433~434
- 19) 金磯泰雄(1992): イチゴうどんこ病に対する薬剤散布効果の低下に関する要因について. 四国植物防疫研究, 27: 23~30
- 20) 金磯泰雄・谷博・坂口謙二(1992): ドリフトレス・スプレーによるハウス栽培ナスにおけるミナミキイロアザミウマおよびすすかび病の防除効果と農薬の被爆, 残留. 四国植物防疫研究, 27: 49~59
- 21) 金磯泰雄(1993): イチゴうどんこ病に対する薬剤散布効果の低下に関する要因について. 日本植物病理学会報(講要), 59(1): 76
- 22) 金磯泰雄・水口晶子(1993): ハス葉における展着剤を加用した薬剤の付着性および葉害の発生. 徳島農試研報, 29: 28~36
- 23) 金磯泰雄・水口晶子(1993): ハス褐斑病に対する農薬の防除効果. 四国植物防疫研究, 28: 23~29
- 24) 金磯泰雄(1993): ビニルハウス側面上部の開放による病害の防除. 1春季一重ビニルハウス側面上部の開放とサヤエンドウ病害の発生. 四国植物防疫研究, 28: 31~41
- 25) 喜田直泰・中野昭雄(1993): 幼若ホルモン剤のマルチ資材への処理による露地ナスのミナミキイロアザミウマの防除効果. 四国植物防疫研究, 28: 83~88
- 26) 金磯泰雄(1993): 春季一重ハウスにおけるサイドの開放とエンドウ病害の発生. 日本植物病理学会報(講要), 59(6): 757
- 27) 喜田直康・中野昭雄・浜弘司(1994): 徳島県におけるコナガのキチン合成阻害剤に対する抵抗性発達と室内淘汰による感受性変動. 日本昆虫学会第54回大会, 第38回日本応用動物昆虫学会合同大会講演要旨, 69
- 28) 中野昭雄・喜田直康(1994): 昆虫寄生性線虫によるサツマイモ畑における鱗翅目害虫の防除. 日本昆虫学会第54回大会, 第38回日本応用動物昆虫学会合同大会講演要旨, 49
- 29) 中野昭雄・喜田直康(1994): 徳島県におけるハスモンヨトウの薬剤感受性について. 四国植物防疫研究, 29: 123~132
- 30) 金磯泰雄・大植美香(1994): ビニルハウス側面上部の開放と病害の発生. 四国植物防疫研究, 29: 17~26
- 31) 金磯泰雄(1994): 冬春期におけるビニルハウスの内張りカーテンがハウス内の環境並びに病害の発生に及ぼす影響. 四国植物防疫研究, 29: 27~36
- 32) 金磯泰雄・水口晶子(1994): ハス褐斑病菌のビニルハウスからの飛散と露地での発生. 徳島農試研報, 30: 25~31
- 33) 中野昭雄・貞野光弘(1994): 徳島県のサツマイモ栽培地帯におけるタバココナジラミの多発生について. 徳島農試研報, 30: 32~40
- 34) 金磯泰雄(1994): 冬春期におけるビニルハウスの内張りカーテンがハウス内の環境並びに病害の発生に及ぼす影響. 日本植物病理学会報(講要), 60(6): 789
- 35) 中野昭雄・喜田直康(1995): サツマイモ畑に発生するハスモンヨトウに対する昆虫寄生性線虫 *Steinernema carpocapsae* (str. All)の利用の可能性. 四国植物防疫研究, 30: 123~130
- 36) 金磯泰雄(1995): ダイコンわか症の発生実態. 四国植物防疫研究, 30: 57~63
- 37) 金磯泰雄(1995): キュウリ炭そ病の発生要因. 四国植物防疫研究, 30: 65~70
- 38) 金磯泰雄(1995): イチゴうどんこ病を巡る問題. 一栽培が増やすうどんこ病. 植物防疫, 49(6): 237~240
- 39) 金磯泰雄・大植美香(1995): 農薬登録外資材による病害虫防除効果. 徳島農試研報, 31: 26~30
- 40) 金磯泰雄(1995): ビニルハウス側面上部の開放方法とハス褐斑病の発生. 徳島農試研報, 31: 31~36
- 41) 中野昭雄・和氣坂成一(1995): 石鹼殺虫剤と天敵との組み合わせによるコナジラミ類の防除. 日本昆虫学会第55回大会, 第39回日本応用動物昆虫学会合同大会講演要旨, 113
- 42) 金磯泰雄・米本謙悟(1995): 各種資材によるサツマイモ立枯病の防除. 日本植物病理学会報(講要), 60(6): 628
- 43) 大植美香・金磯泰雄(1996): イチゴ苗の葉液浸漬によるうどんこ病の防除. 四国植物防疫研究(講要), 31: 48
- 44) 中野昭雄・喜田直康(1996): 昆虫病原性線虫 *Steinernema*

- carpocapsae*と殺虫剤との混合施用のハスモンヨトウに対する殺虫効果. 四国植物防疫研究, 31: 41~45
- 45) 金磯泰雄・貞野光弘(1996): ハス褐斑病におけるチオファネートメチル耐性菌との他薬剤の防除効果. 四国植物防疫研究, 31: 7~14
- 46) 金磯泰雄(1996): ダイコンわか症の発生実態と防除. 植物防疫, 50(10): 417~421
- 47) 金磯泰雄(1996): キュウリ炭そ病の発生と栽培様式並びに気象条件. 徳島農試研報, 32: 40~46
- 48) 金磯泰雄・貞野光弘・後藤昭文・谷口京子(1996): ダイコンわか症に対する薬剤の防除効果. 徳島農試研報, 32: 47~53
- 49) 金磯泰雄(1996): 冬春期における暖房機の運転がハウス内の環境並びに病害の発生に及ぼす影響. 日本植物病理学会報(講要), 62(6): 636
- 50) 金磯泰雄・米本謙悟(1996): 春期以降における温風暖房機を利用した送風処理がハウス内の環境並びにキュウリべと病の発生に及ぼす影響. 日本植物病理学会報(講要), 62(6): 636
- 51) 原田正剛・喜田直康・中野昭雄(1997): 施設ナスにおけるマルチ資材への殺虫剤散布によるミナミキイロアザミウマの防除効果. 徳島農試研報, 33: 31~35
- 52) 金磯泰雄(1997): キュウリ炭そ病に対する薬剤の散布時期と防除効果. 徳島農試研報, 33: 36~42
- 53) 金磯泰雄・亀代美香(1997): ポット育苗イチゴ苗の葉液への浸漬によるうどんこ病の防除. 徳島農試研報, 33: 43~48
- 54) 中野昭雄・喜田直康(1997): 合成性フェロモンの利用によるハスモンヨトウの防除 サツマイモ栽培地帯における交信攪乱法の効果. 徳島農試研報, 33: 49~56
- 55) 金磯泰雄(1997): 耕種的手法によるハウス内環境(湿度)の制御と病害の防除. 農業技術, 52(12): 534~538
- 56) 金磯泰雄(1998): 薬剤によるキュウリ炭そ病の実用的防除. 四国植物防疫研究, 33: 19~28
- 57) 金磯泰雄・米本謙悟・久米洋平(1999): イチゴうどんこ病に対する薬剤防除効果. 四国植物防疫研究(講要), 34: 94
- 58) 金磯泰雄(1998): 各種資材のサツマイモ立枯病に対する発生抑制効果とこれら資材の併用によるクロルピクリン剤施用量の低減化. 徳島農試研報, 34: 14~22
- 59) 金磯泰雄・米本謙悟(1998): 砂地畑栽培におけるサツマイモの生育あるいはマルチ資材の種類と立枯病の発生. 日本砂丘学会第45回全国大会講演要旨: 24~25
- 60) 金磯泰雄・米本謙悟(1998): 秋冬期におけるサツマイモ立枯病に対するクロルピクリン剤のマルチ畦内消毒効果. 日本植物病理学会報(講要), 64(6): 623~624
- 61) 金磯泰雄・米本謙悟(1999): 冬期におけるクロルピクリンくん蒸等におけるサツマイモ立枯病に対する土壤消毒効果. 四国植物防疫研究, 34: 15~24
- 62) 金磯泰雄(1999): 農薬の評価試験法と電解水の農薬様評価について. 第6回機能水シンポジウム講要集: 88~89
- 63) 金磯泰雄(1999): サツマイモ立枯病に対する各種薬剤の防除効果とダゾメット粉粒剤の実用性. 徳島農試研報, 35: 26~33
- 64) 原田正剛・中野昭雄(1999): 天敵寄生蜂オンシツヤコバチを利用した促成長期施設トマトにおける総合的害虫管理. 徳島農試研報, 35: 34~43
- 65) 金磯泰雄・米本謙悟(1999): 春夏期におけるガラス室の温度設定とキュウリおよびトマト病害の発生. 日本植物病理学会報(講要), 65(6): 682
- 66) 中野昭雄(2000): チンゲンサイに発生するマメハモグリバエの生態と防除. 四国植物防疫研究(講要), 35: 59
- 67) 金磯泰雄(2000): 温風暖房機による送風が施設内の環境並びにキュウリ病害の発生に及ぼす影響. 徳島農試研報, 36: 37~45
- 68) 金磯泰雄・米本謙悟(2001): 冬期におけるクロルピクリンくん蒸剤の土壤消毒によるサツマイモ立枯病の防除. 四国農業の新しい技術, 9: 85~87
- 69) 金磯泰雄・菅愛・高石喜久(2002): 竹酢液によるイチゴおよびキュウリの数種病害に対する防除効果. 徳島農研研報, 37: 37~42
- 70) 中野昭雄(2001): 2種ツヤコバチのリレー放飼によるコナジラミ類の防除 - 促成トマトを例にして -. 第11回天敵利用研究会講演要旨集, 5
- 71) 米本謙悟・坂口謙二・亀代美香(2001): ポット苗の葉液浸漬処理によるイチゴうどんこ病の防除(第2報). 四国植物防疫研究(講要), 36: 76
- 72) 田中昭人・中野昭雄(2002): 防虫ネットを利用した露地栽培コマツナにおける害虫相と防除上の一考察. 四国植物防疫研究(講要), 37: 75
- 73) 金磯泰雄・亀代美香(2003): イチゴ苗の花芽分化促進処理とうどんこ病の発生. 徳島農研報, 1: 19~23
- 74) 金磯泰雄・米本謙悟(2003): でんぶん, 米ぬかの土壌(砂土)への施用(混和)による土壌微生物相の変化とサツマイモ立枯病の発生および他の有機質資材の発病抑制効果. 徳島農研報, 1: 25~32
- 75) 米本謙悟・田中昭人(2003): サツマイモ立枯病における低透過性フィルムの効果. 四国植物防疫研究(講要), 38: 63

## 6 環境科・生産環境担当(環境保全・農薬)

- 1) 林捷夫・井内晃・須藤真平・後藤昭文(1989): ドリフトレス・スプレーによる農薬の被曝軽減と防除効果. 徳島農試研報, 26: 38~44
- 2) 谷博・鈴木隆之(1991): 水中における数種殺菌剤の光分解. 日本農業学会第16回大会講要
- 3) 谷博・井内晃・行成正昭・中西友章(1992): ヤマモモ果実に寄生するショウジョウバエに対する各種薬剤の残留と防除効果. 徳島農試研報, 28: 48~53
- 4) 井内晃・谷博(1993): 施設イチゴにおける数種農薬の残留性. 徳島農試研報, 29: 37~44
- 5) 谷博・林捷夫(1996): 砂地畑におけるクロルピクリンの拡散(第1報)フィルムの厚さ,種類等処理条件がクロルピクリンの拡散に及ぼす影響. 徳島農試研報, 32: 54~58
- 6) 谷博・林捷夫(1996): 砂地畑におけるクロルピクリンの拡散(第2報)マルチ畦内消毒における畦表面および畦間からの拡散と土壌中拡散. 徳島農試研報, 32: 59~63

## 7 経営科・情報企画科・企画経営担当

- 1) 本庄栄二・柏木弥太郎・三宅節(1985): 徳島県における水田利用再編の実態と転作作物の選択ならびに定着に関する一考察. 徳島農試研報, 22: 56~70
- 2) 大谷翼・天野憲典・本庄栄二・末澤克彦・別府英治・岡本健治(1985): 四国傾斜地農業の将来を考える(1). 農業技術, 40(4): 181~189
- 3) 大谷翼・天野憲典・本庄栄二・末澤克彦・別府英治・岡本健治(1985): 四国傾斜地農業の将来を考える(2). 農業技術, 40(5): 228~235
- 4) 本庄栄二(1985): 大規模畜産団地を核とする家畜ふん尿の処理・流通システム - 徳島県市場町を事例として. 農業経営通信, 145: 13~15
- 5) 本庄栄二(1987): 稲作経営の規模拡大事例と問題点. 関西農業経済学会四国支部第23回研究会
- 6) 柏木弥太郎(1987): 堆きゅう肥の広域流通と土地生産性の向

- 上—徳島県市場町における事例—。研究ジャーナル, 9(12):
- 7) 本庄栄二(1988): 養液栽培による果菜類の収益性—ロックウール方式を中心として—。農業経営通信, 156: 10~12
  - 8) 本庄栄二・武知毅(1990): 果菜類におけるロックウール養液栽培の経済性。徳島農試研報, 27: 67~80
  - 9) 武知毅(1990): 社会経済的農業生産条件からみた転作農業の特性と方向性。徳島農試研報, 27: 81~99
  - 10) 本庄栄二・武知毅(1991): 四国地域水田農業の現状と展開方向。徳島県における水田農業の現状と展開方向。四国農業試験場研究資料, 7: 42~54
  - 11) 本庄栄二(1991): ジョيوفームの経営事例。地域農林経済学会四国支部第27回研究会発表要旨
  - 12) 武知毅(1992): 小売段階における有機農産物流通の現状と課題。徳島農試研報, 28: 54~62
  - 13) 岩花量盛・武知毅・本庄栄二(1994): 徳島県における農業・農村高齢化の現状と再編方向。四国農業試験場研究資料, 13: 10~27
  - 14) 武知毅(1994): 操作の簡易なエリア情報分析プログラム。四国農業の新しい技術, 2: 7~11
  - 15) 林博昭(1997): WWWを利用した農業気象情報提供システム。第6回農林水産情報研究会講演集: 112~113
  - 16) 林博昭(1999): GISによる農業センサデータの分析。農業情報学, 1: 17~20
  - 17) 喜田直康(1999): 明石海峡大橋開通に伴う交通体系と物流の変化。地域農林経済学会四国支部第35回大会
  - 18) 佐藤章裕・野田靖之(1999): 農業法人の架橋対応。地域農林経済学会四国支部第35回大会
  - 19) 山田真也・河村智嗣・喜田直康(1999): 青果物輸送における品質低下防止のための物流体系改善点の把握手法—夏期のイチゴ物流の実態把握—。農産物流通技術研究会報, 237: 14~16
  - 20) 喜田直康(2000): 直売所等における夏季のほうれん草の価格設定—小売店での価格調査と冷凍品との競合—。農業経営通信, 205: 26~29
  - 21) 林博昭・小川仁・梯美仁・井上光弘(2002): 砂地畑における土壌水分の遠隔観測とインターネット対応。日本砂丘学会全国大会講演要旨集, 49: 18~19

## 8 育種科・栽培育種担当 (育種)

- 1) 井内美砂・小川純一(1995): シオデ多芽体由来カルスからの体細胞胚形成。徳島農試研報, 31: 13~20
- 2) 井内美砂・小川純一(1995): シオデのエンブリオジェニックカルス誘導。日本育種学会四国談話会会報, 29: 27
- 3) 井内美砂・隔山普宣・大谷基泰・島田多喜子(1997): サツマイモの不定胚発生カルス由来再分化植物の特性。育種学雑誌, 47(別1): 301
- 4) 隔山普宣・小川純一(1997): ハス培養苗の増殖および順化のための培養条件。徳島農試研報, 33: 7~12
- 5) 井内美砂(1997): クサソテツの組織培養による大量増殖(第1報)多芽球体の増殖条件。徳島農試研報, 33: 13~17
- 6) 川村泰史(1999): 組織培養の地域農業振興への適用—シオデ, ごうしゅういも, クサソテツを例に—。西日本中央連携軸合同研究発表会講演概要書: 20~25
- 7) 井内美砂・後藤昭文・川村泰史(1999): クサソテツの組織培養による大量増殖(第2報)多芽球体の誘導および植物体再生。徳島農試研報, 35: 14~19
- 8) 川村泰史・高木一文(2000): ヤブカンゾウの組織培養による大量増殖(第1報)多芽体の形成および植物体再生。日本育種学会四国談話会第65回講演会
- 9) 井内美砂・小川純一(2000): 徳島県在来バレイショの系統分類と種苗生産。徳島農試研報, 36: 7~17
- 10) 井内美砂・川村泰史・小巻克巳(2000): 茎断片を用いたサツマイモ立枯病抵抗性の簡易検定法。育種学研究, 2(別1): 297
- 11) 井内美砂(2001): 組織培養によるクサソテツの大量増殖法。四国農業の新しい技術, 9: 93~97
- 12) 川村泰史(2001): 組織培養によるアサツキの大量増殖。日本育種学会四国談話会第66回講演会
- 13) 新居宏延(2001): 培養変異を利用したサツマイモ立枯病抵抗性品種の育成。作物学会四国支部・日本育種学会四国談話会
- 14) 川村泰史・吉村健二(2002): ノカンゾウの組織培養による大量増殖。園芸中四国発表要旨, 41: 58
- 15) 川村泰史・高木一文(2003): ヤブカンゾウの組織培養による大量増殖。徳島農試研報, 1: 1~5

## 9 池田分場・中山間担当

- 1) 細川幸之助(1985): 茶樹の新芽生育に及ぼすせん枝深度の影響。徳島農試研報, 22: 78~81
- 2) 川下輝一(1986): ダイコン新作型導入を中心とした吉野川中流地帯の野菜作期拡大技術。四国地域普及技術レポート, 10: 13~22
- 3) 川下輝一(1988): 四季成り性イチゴ新品種‘みよし’について。徳島農試研報, 25: 1~4
- 4) 柏木弥太郎(1988): 山間傾斜地の気象資源を生かした作物立地。農業気象, 44(3): 227~228
- 5) 川村泰史(1989): 日長及び遮光の前処理が四季成り性イチゴ‘みよし’の開花に及ぼす影響。園芸学会雑誌, 58(別1): 344~345
- 6) 黒田秧・川村泰史(1989): シオデの茎頂培養による大量増殖。育種学雑誌, 39(別2): 62~63
- 7) 川村泰史・川下輝一・河野充憲(1990): 四季成り性イチゴの秋冬どり栽培に関する研究(第1報)鉢受時期と育苗環境。徳島農試研報, 27: 29~38
- 8) 川村泰史・黒田秧(1990): シオデの組織培養による大量増殖(第1報)組織培養による冬芽からの不定芽形成。徳島農試研報, 27: 39~43
- 9) 川村泰史(1990): シオデ苗条からの不定根形成条件。日本育種学会四国談話会報, 24
- 10) 川村泰史・河野充憲・岡田俊美(1990): イチゴのランナー切断時期が生育及び開花に及ぼす影響。園芸学会雑誌, 59(別1): 440~441
- 11) 川村泰史(1990): シオデの組織培養におけるシヨ糖濃度が不定芽及び不定根形成に及ぼす影響。園芸中四国発表要旨, 29: 38
- 12) 河野充憲(1990): タラふかし栽培における穂木斜め挿し法が生育に及ぼす影響。園芸中四国発表要旨, 29: 39
- 13) 川村泰史(1992): シオデの組織培養による大量増殖(第2報)不定芽および不定根の形成に及ぼすシヨ糖濃度の影響。徳島農試研報, 28: 30~34
- 14) 川村泰史(1992): モミジガサの葉切片からの植物体再生。園芸学会雑誌, 61(別1): 224~225
- 15) 川村泰史・河野充憲・岡田俊美(1993): 四季成り性イチゴの秋冬どり栽培に関する研究(第2報)ランナー切り離し時期と電照開始時期。徳島農試研報, 29: 8~14
- 16) 河野充憲(1993): タラふかし栽培における穂木斜め挿し法が側芽の生育および作業性に及ぼす影響。徳島農試研報, 29: 15~19
- 17) 黒田秧・川村泰史(1994): 連続多芽体培養によるシオデの大量増殖。四国農業試験場報告, 58: 69~83
- 18) 林純二・岡田俊美(1994): 四季成り性イチゴ‘みよし’を用いた秋冬・初夏二期どり栽培の開発。徳島農試研報, 30: 11

～16

- 19) 河野充憲(1995): シオデの生育特性. 四国農業の新しい技術, 3: 51～57
- 20) 後藤昭文(1996): 樹冠内中央パイプルール方式による傾斜地茶園管理の軽労化. 四国農業の新しい技術, 4: 51～55
- 21) 高木和彦(1996): 中山間地域における8～9月どりトルコギキョウのマルチ・遮光処理による高品質化. 四国農業の新しい技術, 5: 1～3
- 22) 高木和彦・國見吉広・岡田俊美・林純二(1997): 8～9月どりトルコギキョウの反射フィルムマルチと遮光処理の組合せによる切り花の高品質化. 徳島農試研報, 33: 1～6
- 23) 豊永恭代・後藤昭文(1997): 2・3番チャ葉の利用によるカテキン類を含んだ機能性食品素材の開発. 徳島農試研報, 33: 18～24
- 24) 高木和彦(1998): トルコギキョウのセル成型苗の効率的生産培地. 四国農業の新しい技術, 7: 69～70
- 25) 後藤昭文(1998): 穂木低温貯蔵によるタラノメの収穫期延長法. 徳島農試研報, 34: 9～13

## 10 海南分場・阿南筍試験地・県南暖地担当

- 1) 丸尾包治(1966): 農産加工原料用蔬菜の栽培と貯蔵・加工 4 孟宗筍の栽培. 農業および園芸, 41(4): 677～680
- 2) 福岡省二(1984): 芳玉イチゴのポット育苗栽培技術. 四国地域普及技術レポート, 8: 11～22
- 3) 丸尾包治(1984): タケノコ早掘り栽培技術. 四国地域普及技術レポート, 8: 23～33
- 4) 丸尾包治(1984): おが屑堆肥によるタケノコ早掘りについて. 第25回全国竹の大会筍生産分科会要旨: 82
- 5) 丸尾包治(1985): モウソウタケノコの黒変症(仮称)に対する温度処理試験. *Bamboo Journal*, 3: 30～38
- 6) 丸尾包治(1986): タケノコの良品多収技術—オガクズ堆肥施用による早掘り栽培を中心に—. 農業および園芸, 61(11): 1318～1324
- 7) 山下久男・阪口巧・北岡祥治(1989): 促成キュウリ栽培における少ブルーム台木の種類がブルームの発生と収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 26: 9～16
- 8) 古藤英司・山下久男・兼市良徳(1993): ブルームレス台木を用いたキュウリの促成栽培に関する研究(第1報)電照および摘葉が生育, 収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 29: 1～7
- 9) 古藤英司(1993): 促成キュウリに対する電照の効果. *ハイドロポニックス*, 7(1): 14～15
- 10) 古藤英司(1994): *Plastic Tunnels for Delayed Flowering in Late-Seeded Japanese Radish(Achievements of Horticultural Experiment Stations in Japan)*. XXIVth International Horticultural Congress
- 11) 古藤英司・阪口豊美・兼市良徳(1995): ブルームレス台木を用いたキュウリの促成栽培に関する研究(第2報)仕立て本数および灌水量が生育, 収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 31: 1～6
- 12) 阪口豊美・古藤英司・兼市良徳(1996): 厳寒期の温度管理が春どりニンジンの生育と抽だいに及ぼす影響. 徳島農試研報, 32: 12～14
- 13) 阪口豊美・古藤英司・兼市良徳(1996): クルクマ・シャローム(*Curcuma alismatifolia*)の春どり前進と夏秋どり拡充の栽培技術. 徳島農試研報, 32: 22～28
- 14) 川口公男・東出圓朗・谷本温暉(1998): 筍園の親竹伐採年数と筍収量. 富士竹類植物園報告, 42: 48～50
- 15) 川口公男(1998): 高収益筍生産を目指して. 第39回全国竹の大会筍生産分科会資料: 57
- 16) 川口公男(1999): 初夏台風による新竹の被害. 富士竹類植物園報告, 43: 146～148
- 17) 蟻馬啓延・阪口豊美(2002): キュウリの促成栽培におけるセル成型苗の直接定植が生育収量に及ぼす影響. 徳島農試研報, 37: 13～23
- 18) 安瀨次郎・東出圓朗・川口公男(2002): 帯状皆伐と簡易被覆による筍の促成栽培技術. 徳島農試研報, 37: 25～29

## 11 鴨島分場(平成10～12年度)

- 1) 佐藤泰三(1998): セリシン蚕裸蛹, pNdの繭層タンパク性状について. 第64回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 31
- 2) 三木健司(1998): 精練法に違いによる絹紡糸の沈澱藍による染色性. 第64回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 32
- 3) 平川文男(1998): 数種の鱗翅目昆虫培養細胞の作出. 第64回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 33
- 4) 金山正之(1999): 徳島県における繭品質評価について. 第65回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 27
- 5) 竹内秀人(1999): 繭の教材利用としての釣り糸リールを用いた糸づくり. 第65回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 32
- 6) 三木健司(1999): 練減率に違いによる藍染めへの影響. 第65回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 31
- 7) 平川文男(2000): モンシロドクガ培養細胞系の樹立. 第66回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 25
- 8) 平川文男(2000): モンシロチョウ培養細胞系の樹立. 第66回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 26
- 9) 平川文男(2000): カイコ培養細胞系の樹立. 第66回日本蚕糸学会関西支部講演要旨集: 27
- 10) 三木健司(2001): 藍の乾燥葉粉末による絹紡糸の染色法. 四国農業の新しい技術, 10: 115～117
- 11) 平川文男(2003): モンシロドクガ培養細胞系の樹立. 徳島農試研報, 1: 33～38

## 12 種苗法に基づく品種登録

- 1) いちご「みよし」  
登録番号: 第1324号, 登録日: 昭和62年6月10日, 失効
- 2) いちご「めぐみ」  
登録番号: 第10246号, 登録日: 平成14年6月20日
- 3) ゆり「阿波の白雪」  
登録番号: 11649号, 登録日: 平成16年1月13日
- 4) ふき「みさと」  
申請日: 平成15年3月7日

## 13 特許出願

- 1) 畝用作業台車  
特開2002-360034, 平成14年12月17日公開, 吉田良・株式会社ニシザワ西沢章
- 2) スライド式の播種器  
特開2004-49150, 平成16年2月19日公開, 徳島県立工業技術センター小川仁・徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所高木和彦・阿南農業改良普及センター相生支所武市啓志

## 14 実用新案

- 1) 下方向排気式実験台  
出願番号1-100964, 平成元年8月29日出願, (株)ダルトンと共同

## 第3章 刊行物一覽

### 昭和58年度（1983）

- ・徳島県立農業試験場八十年史
- ・業務年報 昭和57年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第21号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第35号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第36号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第37号
- ・昭和58年水稻奨励品種決定調査成績書
- ・昭和57年（秋冬作）～58年（春夏作）野菜試験成績書
- ・昭和58年度花き試験成績書
- ・昭和57年度農芸化学関係調査試験の概要
- ・昭和57年度農作物有害動植物発生予察事業年報
- ・徳島県農業機械化センター 18年の歩み
- ・昭和57年度試験成績書 阿南筭試験地

### 昭和59年度（1984）

- ・業務年報 昭和58年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第22号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第38号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第39号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第40号
- ・昭和59年水稻奨励品種決定調査成績書
- ・昭和58年（秋冬作）～59年（春夏作）野菜試験成績書
- ・昭和59年度花き試験成績書
- ・昭和58年度農芸化学関係調査試験成績の概要
- ・昭和58年度農作物有害動植物発生予察事業年報（普通作物・野菜）
- ・昭和58年度試験成績書 阿南筭試験地

### 昭和60年度（1985）

- ・業務年報 昭和59年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第23号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第41号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第42号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第43号
- ・昭和60年水稻奨励品種決定調査成績書
- ・昭和59年（秋冬作）～60年（春夏作）野菜試験成績書
- ・昭和60年度花き試験成績書
- ・昭和59年度農芸化学関係調査試験成績の概要
- ・昭和59年度農作物有害動植物発生予察事業年報（普通作物・野菜）
- ・昭和59年度試験成績書 阿南筭試験地

### 昭和61年度（1986）

- ・業務年報 昭和60年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第24号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第44号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第45号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第46号
- ・昭和61年度試験研究計画
- ・昭和61年度作物試験成績概要集
- ・昭和61年度水稻作関係除草剤試験成績書
- ・昭和60年度冬作関係除草剤試験成績書（麦類）

- ・昭和61年水稻奨励品種決定調査成績書

- ・昭和60年（秋冬作）～61年（春夏作）野菜試験成績書
- ・昭和61年度花き試験成績書
- ・昭和60年度農芸化学関係調査試験成績の概要
- ・昭和60年度農作物有害動植物発生予察事業年報（普通作物・野菜）
- ・主要野菜における粗収益・第2次生産費・所得の推移（昭和62年3月）
- ・昭和60年度試験成績書 阿南筭試験地

### 昭和62年度（1987）

- ・業務年報 昭和61年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第25号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第47号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第48号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第49号
- ・昭和61年度研究成果概要書
- ・昭和62年度試験研究計画
- ・昭和61年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績書
- ・昭和62年度作物試験成績概要書
- ・昭和62年度水稻作関係除草剤成績書
- ・昭和62年度野菜試験成績書
- ・昭和62年度花き試験成績書
- ・昭和61年度農芸化学科試験成績書
- ・昭和61年度農作物有害動植物発生予察事業年報（普通作物・野菜）
- ・徳島県農業の動向予測
- ・徳島県における水田転作農業

### 昭和63年度（1988）

- ・業務年報 昭和62年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第26号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第50号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第51号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第52号
- ・昭和62年度研究成果概要書
- ・昭和63年度試験研究計画
- ・要覧
- ・昭和62年度冬作関係除草剤試験成績書
- ・昭和63年度水稻作関係除草剤試験成績書
- ・昭和63年度作物試験成績概要集
- ・昭和63年度野菜試験成績書
- ・昭和63年度花き試験成績書
- ・砂地畑農業に関する試験成績概要集
- ・昭和62年度農芸化学科試験成績書
- ・昭和62年度農作物有害動植物発生予察事業年報
- ・昭和62年度農業経営調査報告書（養液栽培の経済性に関する調査研究）

### 平成元年度（1989）

- ・業務年報 昭和63年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第27号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第53号

- ・徳島県立農業試験場ニュース 第54号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第55号
- ・昭和63年度研究成果概要書
- ・平成元年度試験研究計画
- ・昭和63年度冬作関係除草剤試験成績書
- ・平成元年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成元年度二条大麦奨励品種査定会資料
- ・平成元年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成元年度野菜試験成績書
- ・平成元年度花き試験成績書
- ・昭和63年度農芸化学科試験成績書
- ・昭和63年度農作物有害動物発生予察事業年報
- ・平成元年度農林水産関係ビデオリスト

#### 平成2年度(1990)

- ・業務年報 平成元年度
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第56号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第57号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第58号
- ・試験研究情報 第1号
- ・平成元年度試験成績概要書集
- ・優良発酵菌を利用した新発酵茶・新飲料の開発
- ・平成元年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成2年度水稲関係除草剤試験成績書
- ・平成2年度作物関係試験成績概要集
- ・平成元年度農芸化学科試験成績書
- ・平成元年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成2年度野菜試験成績書
- ・平成2年度花き試験成績書
- ・平成元年度農作物有害動物発生予察事業年報

#### 平成3年度(1991)

- ・業務年報 平成2年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第28号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第59号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第60号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第61号
- ・試験研究情報 第2号
- ・平成2年度試験成績概要書集
- ・平成2年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・水稲奨励品種査定会資料
- ・平成3年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成3年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成3年度作物試験成績概要集
- ・平成3年度野菜試験成績書
- ・平成3年度花き試験成績書
- ・平成2年度農作物有害動物発生予察年報
- ・平成3年度農林水産関係ビデオリスト
- ・報告文の手引き

#### 平成4年度(1992)

- ・業務年報 平成3年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第29号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第62号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第63号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第64号
- ・農業試験場の研究基本計画
- ・試験研究情報 第3号
- ・平成3年度試験成績概要書集
- ・平成3年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)

- ・平成3年度冬作関係生育調節剤試験成績書(小麦対象)
- ・平成4年度水稲作関係除草剤試験成績書(ジャンボ剤)
- ・平成4年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成4年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成4年度作物試験成績概要集
- ・平成4年度野菜試験成績書
- ・平成4年度花き試験成績書
- ・平成2・3年度農芸化学科試験成績書
- ・平成3年度農作物有害動物発生予察事業年報

#### 平成5年度(1993)

- ・業務年報 平成4年度
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第65号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第66号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第67号
- ・試験研究情報 第4号
- ・平成4年度試験成績概要書集
- ・平成4年度冬作関係生育調整剤試験成績書(大麦対象)
- ・平成4年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成5年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成5年度農作物奨励品種査定会資料
- ・主要農作物奨励品種特性表(水稲・麦類・大豆)
- ・平成5年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成5年度作物試験成績概要集
- ・平成5年度野菜試験成績書
- ・平成5年度花き試験成績書
- ・ランド・レーダー フロンティア ユーザーズガイド

#### 平成6年度(1994)

- ・業務年報 平成5年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第30号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第68号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第69号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第70号
- ・試験研究情報 第5号
- ・平成5年度試験成績概要書集
- ・平成5年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成4年度農芸化学科試験成績書
- ・平成6年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成6年度野菜試験成績書
- ・平成6年度花き試験成績書
- ・農業経営調査研究成績書

#### 平成7年度(1995)

- ・業務年報 平成6年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第31号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第71号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第72号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第73号
- ・試験研究情報 第6号
- ・平成6年度試験成績概要書集
- ・平成5・6年度農芸化学科試験成績書

#### 平成8年度(1996)

- ・業務年報 平成7年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第32号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第74号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第75号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第76号
- ・試験研究情報 第7号

- ・平成7年度試験成績概要書集
- ・徳島県立農業試験場 要覧
- ・徳島県立農業試験場池田分場 要覧
- ・地域基幹農業技術体系化促進研究 中山間農業技術部会「簡易環境調節による暖地野菜の高品質生産流通技術」平成6・7年度試験研究成績書
- ・「地域基幹農業技術体系化促進研究」(中山間農業技術部会)平成8年度 現地検討会資料
- ・バイオテクノロジー研究10年間の歩み
- ・平成8年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成6・7年度夏作試験成績書および概要書
- ・平成8年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成7年度野菜試験成績書
- ・平成7年度花き試験成績書

#### 平成9年度(1997)

- ・業務年報 平成8年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第33号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第77号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第78号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第79号
- ・試験研究情報 第8号
- ・平成8年度試験成績概要書集
- ・農業試験場の研究基本計画
- ・平成8年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成9年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成9年度農作物奨励品種査定会資料
- ・平成9年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成8年度野菜試験成績書
- ・平成8年度花き試験成績書
- ・苜蓿栽培Q&A

#### 平成10年度(1998)

- ・業務年報 平成9年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第34号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第80号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第81号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第82号
- ・試験研究情報 第9号
- ・平成9年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成10年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成10年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成9年度野菜試験成績書
- ・平成9年度花き試験成績書
- ・平成7・8年度農芸化学科試験成績書

#### 平成11年度(1999)

- ・業務年報 平成10年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第35号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第83号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第84号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第85号
- ・試験研究情報 第10号
- ・平成9年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成10年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成10年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成9・10年度農芸化学科試験成績書
- ・平成11年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成11年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成10年度野菜試験成績書

- ・平成10年度花き試験成績書

#### 平成12年度(2000)

- ・業務年報 平成11年度
- ・徳島県立農業試験場試験研究報告 第36号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第86号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第87号
- ・徳島県立農業試験場ニュース 第88号
- ・試験研究情報 第11号
- ・平成11年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成12年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成12年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成11年度野菜試験成績書
- ・平成11年度花き試験成績書

#### 平成13年度(2001)

- ・業務年報 平成12年度
- ・徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所試験研究報告 第37号
- ・農業研究所ニュース 第89号
- ・農業研究所ニュース 第90号
- ・農業研究所ニュース 第91号
- ・試験研究情報 第12号
- ・要覧
- ・平成12年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成13年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成13年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成12年度野菜試験成績書
- ・平成12年度花き試験成績書
- ・平成11・12年度農芸化学科試験成績書
- ・苜蓿栽培試験成績書

#### 平成14年度(2002)

- ・業務年報 平成13年度
- ・徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所研究報告 第1号
- ・農業研究所ニュース 第92号
- ・農業研究所ニュース 第93号
- ・農業研究所ニュース 第94号
- ・農研かわらばん No.1~No.30
- ・平成13年度冬作関係除草剤試験成績書(麦類)
- ・平成14年度水稲作関係除草剤試験成績書
- ・平成14年度水稲奨励品種決定調査成績書
- ・平成13年度野菜試験成績書
- ・平成13年度花き試験成績書



# 第4章 表彰

昭和59～平成14年度

## 1 全国農業試験場長会表彰

- 阿部泰典 昭和59年6月5日  
ミツバチ利用によるイチゴ栽培技術の確立の優れた業績により農業技術の振興につくした功労
- 丸尾包治 昭和61年6月1日  
モウソウダケの早堀り栽培技術の確立の優れた業績による功労
- 板東一宏 平成4年6月3日  
トマトの循環式ロックウール栽培に於ける培養液管理技術の確立に貢献した功労
- 金磯泰雄 平成9年6月3日  
施設の温湿度制御による野菜類病害の発生抑制技術の開発により農業技術の振興に貢献した功労
- 高木和彦 平成13年6月4日  
花き類の品種育成と栽培技術の確立に関して顕著な業績をあげ農業振興に貢献した功労

## 2 知事表彰

- 1) 個人表彰
- 川下輝一 昭和61年12月27日  
夏秋どりイチゴの研究に精励し、山間地農業の振興に寄与した功労
- 2) グループ表彰
- 農業試験場野菜科職員一同（町田治幸、古藤英司、隔山普宜、小

- 川純一、板東一宏）昭和62年12月28日  
バイオテクノロジーによるサツマイモの品質改善を図るなどの本県農業の振興に寄与した功労
- イチゴ「めぐみ」作出職員一同（川下輝一、板東一宏、吉田良、佐藤佳宏、井方宏典、松崎正典）平成10年12月28日  
生産性の向上と労力軽減化が図れる促成イチゴ新品種めぐみの育成による本県農業の振興に寄与した功労
- シンテッポウユリ阿波の白雪作出担当職員一同（高木和彦、前田典子、新居宏延）平成13年12月28日  
安定的生産と高付加価値のシンテッポウユリ新品種「阿波の白雪」を開発し本県農業の振興に寄与した功労

## 3 植物調整剤開発利用功労舎表彰

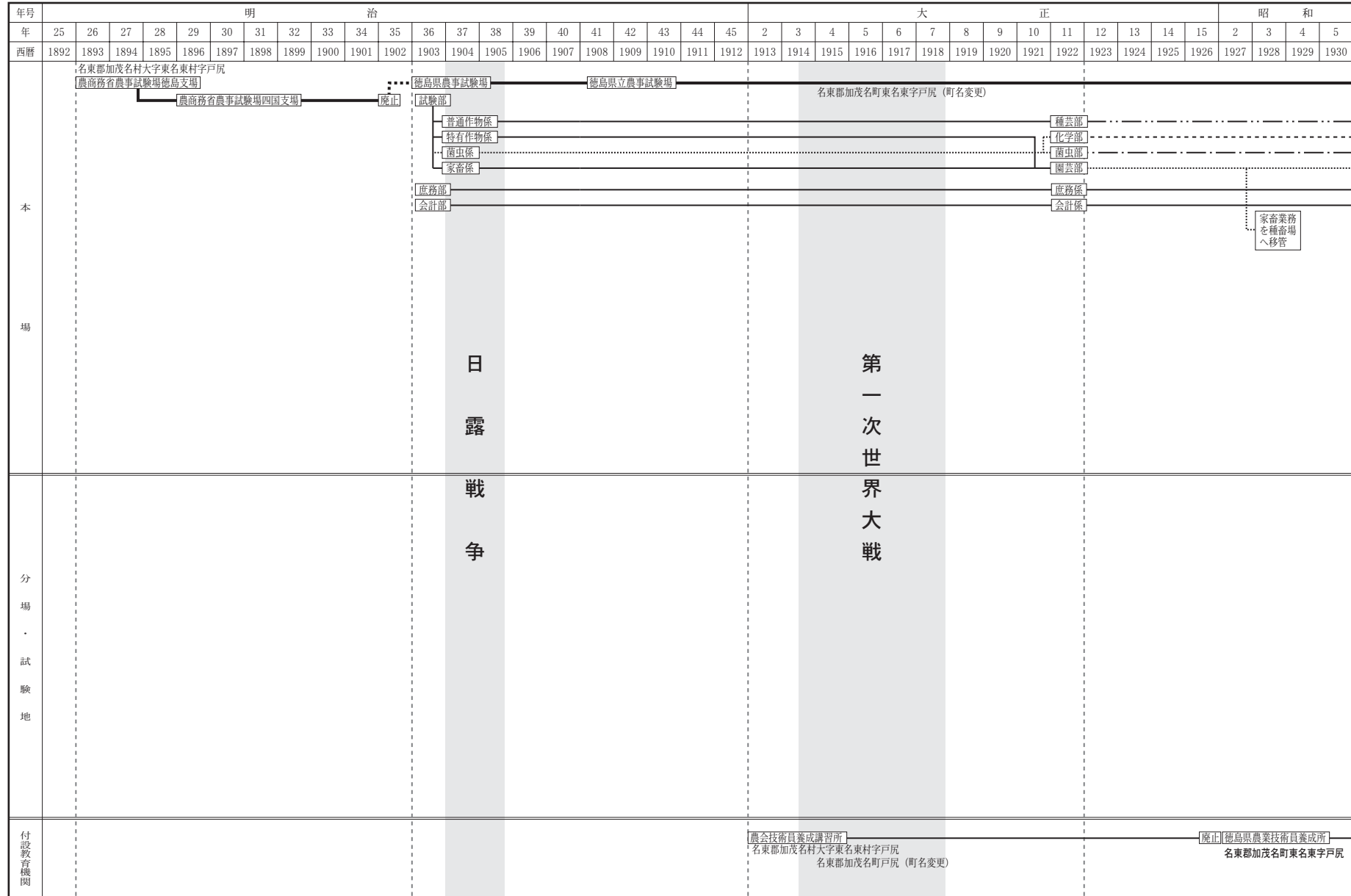
- 小山 弘 昭和59年12月14日  
植物調整剤研究に多年尽力し、その開発に貢献した功績

## 4 全国蚕糸関係試験研究運営協議会研究功労賞

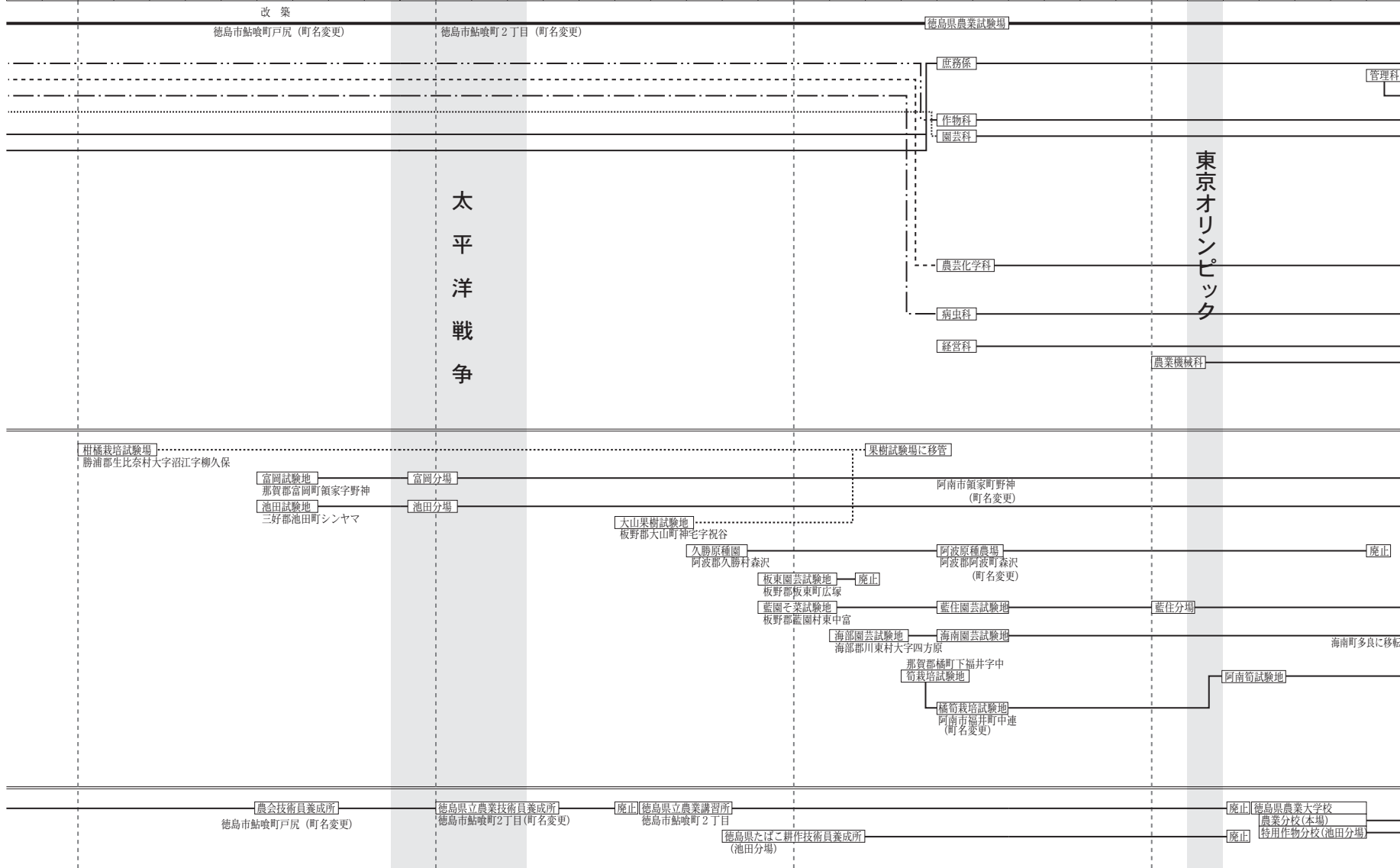
- 平川文男 平成13年5月9日  
昆虫の培養細胞による天敵ウイルスを利用した生物的利用技術に関して顕著な業績をあげ蚕業振興に貢献した功労

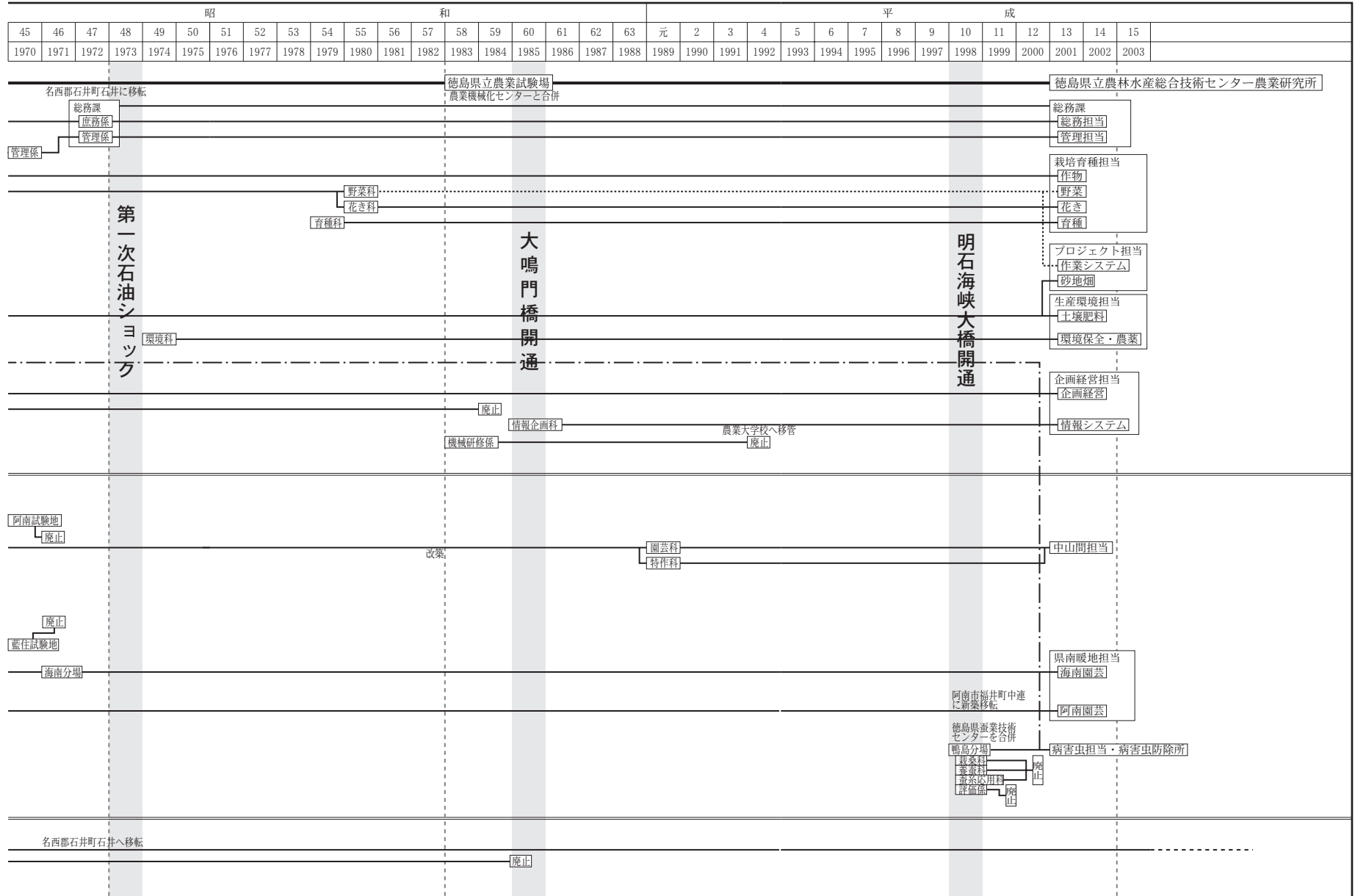
# 第5章 組織・予算・人事

## 1 組織の変遷図



昭和													和																									
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956	1957	1958	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969







年 度	平 3	平 4	平 5	平 6	平 7	平 8	平 9	
場 長	住友 昭利	住友 昭利	坂尾 治雄	坂尾 治雄	町田 治幸	町田 治幸	町田 治幸	
次 長	玉井 克郎 泰 豊治 酒井 勇夫	玉井 克郎 酒井 日和 和田 太郎	酒井 勇夫 日和 太郎	酒井 勇夫 日和 太郎	酒井 勇夫 川尻 啓介	山下 久男 行成 勇夫 酒井 三夫	山下 久男 行成 勇夫 酒井 三夫	
課 長	武市 克雄 (武市) 桑村 照美 矢野 真由 石崎 宗市	武市 克雄 (武市) 桑村 照美 矢野 真由 原田 石崎	武市 克雄 (武市) 桑村 照美 矢野 真由 石崎 宗市	武市 克雄 (武市) 桑村 照美 矢野 真由 石崎 宗市	武市 克雄 市田 三千代 島田 真由美 大畑 三由美 矢野 真由美 石崎 宗市	市田 三千代 島田 真由美 大畑 三由美 矢野 真由美 石崎 宗市	林島 廣志 田正 昭夫 三夫 昭夫 前田 三夫 石崎 宗市	林島 廣志 田正 昭夫 三夫 昭夫 前田 三夫 石崎 宗市
管 理	(武市) 明宏 大石 英治 福元 康博 木栗 原一 粟飯 正一 武井 知義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 久米	遠藤 蕃宏 大石 康博 福元 英治 栗原 理代 石井 一宏 武井 知義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 久米	遠藤 蕃宏 大石 康博 福元 英治 栗原 理代 石井 一宏 武井 知義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 久米	遠藤 蕃宏 大石 康博 福元 英治 栗原 理代 石井 一宏 武井 知義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 久米	遠藤 蕃宏 大石 康博 福元 英治 栗原 理代 石井 一宏 武井 知義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 久米	遠藤 蕃宏 大石 康博 福元 英治 栗原 理代 石井 一宏 武井 知義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 久米	(林島) 治代 福原 宏義 栗川 正一 武井 茂弘 田正 昭夫 三夫 昭夫 前田 三夫 石崎 宗市	(林島) 治代 福原 宏義 栗川 正一 武井 茂弘 田正 昭夫 三夫 昭夫 前田 三夫 石崎 宗市
作 物	野本 陽一 後藤 昭年 高田 信二 近藤 真二	野本 陽一 後藤 昭年 高田 信二 近藤 真二	野本 陽一 後藤 昭年 高田 信二 近藤 真二	野本 陽一 後藤 昭年 高田 信二 近藤 真二	馬方 夫典 井近 真二 山本 善太	馬方 夫典 井近 真二 山本 善太	馬方 夫典 井近 真二 山本 善太	
育 種	佐竹 治男 小川 純一 井内 美砂	小川 純一 井内 美砂	小川 純一 井内 美砂	小川 純一 井内 美砂	小川 純一 井内 美砂	隔山 普宣 井内 美砂	隔山 普宣 井内 美砂	
野 菜	川下 輝一 隔山 普一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	川下 輝一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	川下 輝一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	川下 輝一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	川下 輝一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	川下 輝一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	川下 輝一 板東 宏潔 水口 千利 近藤 千利	
花 き	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	浦上 好博 高山 和彦 新居 明弘	
農 芸 化 学	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	黒島 忠司 黒田 康文 豊成 義二 藤由 美子	
病 虫	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	磯田 泰雄 喜田 直昭 中野 昭雄 古川 晶子	
環 境	井内 晃博 谷 晃博	井内 晃博 谷 晃博	井内 晃博 谷 晃博	井内 晃博 谷 晃博	井内 晃博 谷 晃博	井内 晃博 谷 晃博	井内 晃博 谷 晃博	
経 営	本庄 栄二 武知 毅	岩花 量盛 武知 毅	岩花 量盛 武知 毅	岩花 量盛 武知 毅	岩花 量盛 武知 毅	岩花 量盛 武知 毅	岩花 量盛 武知 毅	
情 報 企 画	(本庄) 栄二 林 博昭	(岩花) 量盛 林 博昭	(岩花) 量盛 林 博昭	(岩花) 量盛 林 博昭	(岩花) 量盛 林 博昭	(岩花) 量盛 林 博昭	(岩花) 量盛 林 博昭	
海 南	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	古藤 英司 兼市 良徳 伊野 耕司	
池 園 田 芸	(酒井) 勇夫 岡田 俊美 川村 泰史	(酒井) 勇夫 岡田 俊美 林 純二	美馬 克美 岡田 俊美 林 純二	美馬 克美 岡田 俊美 林 純二	美馬 克美 岡田 俊美 林 純二	美馬 克美 岡田 俊美 林 純二	美馬 克美 岡田 俊美 林 純二	
特 作	河野 充憲 近藤 誠志 久保 春好	河野 充憲 近藤 誠志 久保 春好	河野 充憲 近藤 誠志 久保 春好	河野 充憲 近藤 誠志 久保 春好	後藤 昭文 豊久保 春好	後藤 昭文 豊久保 春好	後藤 昭文 豊久保 春好	
筭	谷本 温暉 吉田 悦郎	谷本 温暉 吉田 悦郎	谷本 温暉 吉田 悦郎	谷本 温暉 吉田 悦郎	東出 圓朗 吉田 悦郎	東出 圓朗 吉田 悦郎	東出 圓朗 吉田 悦郎	
機 械 研 修 係	(秦 豊治) 遠藤 蕃	農業大学校に移管						
病 害 虫 防 除 所	野口 義弘 日和 太郎 和田 昭文 出田 克彦 三脇 春昭 脇藤 昭文 後藤 美香 大谷 京子 板東 康成	日和 太郎 行住 昭文 成屋 昭文 脇藤 昭文 青木 美香 大谷 京子 板東 康成	日和 太郎 行住 昭文 成屋 昭文 脇藤 昭文 青木 美香 大谷 京子 板東 康成	日和 太郎 行住 昭文 成屋 昭文 脇藤 昭文 青木 美香 大谷 京子 板東 康成	日和 太郎 谷住 昭文 脇藤 昭文 野口 昭文 水口 昭文	川尻 啓介 谷友 昭文 脇藤 昭文 野口 昭文 水口 昭文	酒井 勇夫 谷友 昭文 脇藤 昭文 野口 昭文 水口 昭文	酒井 勇夫 谷友 昭文 脇藤 昭文 野口 昭文 水口 昭文

注) カッコ内は兼務

年度	平 10	平 11	平 12
場 長	酒井 勇夫	福居 幸治	山本 英記
次 長	美馬 克二 岡本 林成	美馬 克二 岡本 林成	美馬 克二 岡本 林成
課 長	福井 孝志 古林 啓幸 (野口敦子) 大畑 三千代	福井 孝志 石川 敦子 大畑 三千代	森口 正一 石川 敦子 東 明美
管 理	(福井 孝志) 福田 英治 武知 正義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 彰文 久米 武子 岡本 弘勢 山中 泰幸	(福井 孝志) 福田 英治 武知 正義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 彰文 久米 武子 岡本 弘勢 山中 泰幸	(森口 正一) 福田 英治 武知 正義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 彰文 久米 武子 岡本 弘勢 山中 泰幸
作 物	藪内 和男 豊成 傑均 吉原 啓志	藪内 和男 豊成 傑均 吉原 啓志	藪内 和男 中野 均明 吉原 啓志
育 種	川村 泰史 井内 美砂	川村 泰史 井内 美砂	川村 泰史 井内 美砂
野 菜	板東 一宏 吉田 佳典 佐藤 方宏 井方 正典 松崎 久米	板東 一宏 吉田 佳典 佐藤 方宏 井方 正典 松崎 久米	板東 一宏 吉田 佳典 佐藤 方宏 井方 正典 松崎 久米
花 き	高木 和彦 豊永 恭代 新居 宏延	高木 和彦 豊永 恭代 新居 宏延	高木 和彦 豊永 恭代 新居 宏延
農 芸 化 学	梯松 美仁 家小川 克仁 中野 充宏	梯松 美仁 家小川 克仁 中野 充宏	梯松 美仁 家小川 克仁 中野 充宏
病 虫	金磯 泰雄 原田 正剛 米本 謙悟 久米 洋平	金磯 泰雄 原田 正剛 米本 謙悟 久米 洋平	坂口 謙二 米本 謙悟 久米 洋平
環 境	谷 博 亀代 美香	谷 博 亀代 美香	谷 博 亀代 美香
経 営	喜田 直康 佐藤 章裕	喜田 直康 佐藤 章裕	喜田 直康 佐藤 章裕
情 報 企 画	川下 輝一 林 博昭	川下 輝一 林 博昭	林 博昭 近藤 真二
海 南	蟻馬 啓延 阪口 豊美 伊野 耕司	蟻馬 啓延 阪口 豊美 伊野 耕司	阪口 啓延 久米 耕司 伊野 耕司
池 田	(林 捷夫) 北岡 祥治 國見 智博 山崎 和博 高木 文志 西岡 誠志 久保 春好	(林 捷夫) 北岡 祥治 國見 智博 山崎 和博 高木 文志 西岡 誠志 久保 春好	(林 捷夫) 北岡 祥治 國見 智博 山崎 和博 高木 文志 西岡 誠志 久保 春好
特 作	川口 公好 吉田 悦郎	安瀨 次郎 吉田 悦郎	安瀨 次郎 吉田 悦郎
筍	(岡本 征二)	(岡本 征二)	(岡本 征二)
鴨 島	竹内 秀人 佐藤 泰三 平川 文男 (岡本 征二)	竹内 秀人 平川 文男 (岡本 征二)	竹内 秀人 平川 文男 (岡本 征二)
栽 桑	三木 健司 前田 祐子 酒卷 美洋 谷井 明美 川村 洋子 金山 房正 藤川 正子	三木 健司 前田 祐子 酒卷 美洋 谷井 明美 川村 洋子 金山 房正 藤川 正子	三木 健司 前田 祐子 酒卷 美洋 谷井 明美 川村 洋子 金山 房正 藤川 正子
養 蚕 応 用	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
管 理	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
評 価	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
病 害 虫 防 除 所	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人

年度	平 13	平 14	平 15
所 長	山本 英記	美馬 克美	美馬 克美
次 長	田村 康弘 谷本 温暉	田村 康弘 谷本 温暉	川下 輝一 谷本 温暉
総 務	森口 正一 石川 敦子 東 明美 (森口 正一)	前田 功夫 石川 明美 東 真紀 (前田 功)	前田 功夫 石川 明美 東 真紀 (前田 功)
課 長	藤川 正一 福田 正義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 彰文 久米 武子 岡本 弘勢 山中 泰幸	前田 功夫 石川 明美 東 真紀 (前田 功)	前田 功夫 石川 明美 東 真紀 (前田 功)
管 理	藤川 正一 福田 正義 川島 茂弘 鎌田 彰一 芝原 彰文 久米 武子 岡本 弘勢 山中 泰幸	前田 功夫 石川 明美 東 真紀 (前田 功)	前田 功夫 石川 明美 東 真紀 (前田 功)
企 画 経 営	真野 光弘 秋月 博昭 (秋月 博昭)	広田 恵介 秋月 博昭 (秋月 博昭)	広田 恵介 秋月 博昭 (秋月 博昭)
プ ロ ジ ェ ク ト	砂地 畑 作業 シス テム	梯松 美仁 小川 吉田 (村井恒治)	梯松 美仁 小川 吉田 (村井恒治)
裁 培 育 種	藪内 和男 中野 均明 吉原 啓志 (吉原 啓志)	藪内 和男 山本 善太 南 (吉原 均明) 川村 泰史 吉原 均明 新居 宏延 板東 一宏 杉本 和治 横田 正典 高木 和彦 近藤 真二	藪内 和男 山本 善太 南 (吉原 均明) 川村 泰史 吉原 均明 新居 宏延 板東 一宏 杉本 和治 横田 正典 高木 和彦 近藤 真二
野 菜	坂口 謙二 米本 謙悟 久米 洋平	坂口 謙二 米本 謙悟 久米 洋平	坂口 謙二 米本 謙悟 久米 洋平
花 き	高木 和彦 豊永 恭代 新居 宏延	高木 和彦 豊永 恭代 新居 宏延	高木 和彦 豊永 恭代 新居 宏延
農 芸 化 学	梯松 美仁 家小川 克仁 中野 充宏	梯松 美仁 家小川 克仁 中野 充宏	梯松 美仁 家小川 克仁 中野 充宏
病 虫	金磯 泰雄 原田 正剛 米本 謙悟 久米 洋平	金磯 泰雄 原田 正剛 米本 謙悟 久米 洋平	坂口 謙二 米本 謙悟 久米 洋平
環 境	谷 博 亀代 美香	谷 博 亀代 美香	谷 博 亀代 美香
経 営	喜田 直康 佐藤 章裕	喜田 直康 佐藤 章裕	喜田 直康 佐藤 章裕
情 報 企 画	川下 輝一 林 博昭	川下 輝一 林 博昭	林 博昭 近藤 真二
海 南	蟻馬 啓延 阪口 豊美 伊野 耕司	蟻馬 啓延 阪口 豊美 伊野 耕司	阪口 啓延 久米 耕司 伊野 耕司
池 田	(林 捷夫) 北岡 祥治 國見 智博 山崎 和博 高木 文志 西岡 誠志 久保 春好	(林 捷夫) 北岡 祥治 國見 智博 山崎 和博 高木 文志 西岡 誠志 久保 春好	(林 捷夫) 北岡 祥治 國見 智博 山崎 和博 高木 文志 西岡 誠志 久保 春好
特 作	川口 公好 吉田 悦郎	安瀨 次郎 吉田 悦郎	安瀨 次郎 吉田 悦郎
筍	(岡本 征二)	(岡本 征二)	(岡本 征二)
鴨 島	竹内 秀人 佐藤 泰三 平川 文男 (岡本 征二)	竹内 秀人 平川 文男 (岡本 征二)	竹内 秀人 平川 文男 (岡本 征二)
栽 桑	三木 健司 前田 祐子 酒卷 美洋 谷井 明美 川村 洋子 金山 房正 藤川 正子	三木 健司 前田 祐子 酒卷 美洋 谷井 明美 川村 洋子 金山 房正 藤川 正子	三木 健司 前田 祐子 酒卷 美洋 谷井 明美 川村 洋子 金山 房正 藤川 正子
養 蚕 応 用	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
管 理	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
評 価	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
病 害 虫 防 除 所	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
病 害 虫 防 除 所	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人	行成 正昭 谷本 温暉 坂口 謙二 辻 雅人 水口 晶子 前田 昭人
中 山 間	園 芸	(谷本 温暉) 北岡 祥治 新居 智博 山崎 和博 小角 順一 高木 文志 久保 春好	(谷本 温暉) 川下 輝一 小角 順一 高木 文志 新居 智博 久保 春好 山崎 和博
特 作	園 芸	(谷本 温暉) 北岡 祥治 新居 智博 山崎 和博 小角 順一 高木 文志 久保 春好	(谷本 温暉) 川下 輝一 小角 順一 高木 文志 新居 智博 久保 春好 山崎 和博
県 南 暖 地	阿南園芸	安瀨 次郎 (黒田康文) 吉田 悦郎 阪口 巧 吉村 洋平 伊野 耕司	安瀨 次郎 (黒田康文) 吉田 悦郎 阪口 巧 吉村 洋平 伊野 耕司
海 南 園 芸	阿南園芸	安瀨 次郎 (黒田康文) 吉田 悦郎 阪口 巧 吉村 洋平 伊野 耕司	安瀨 次郎 (黒田康文) 吉田 悦郎 阪口 巧 吉村 洋平 伊野 耕司

注) カッコ内は兼務

注) カッコ内は兼務

3 職員数の推移

区 分	昭 和						平 成															
	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
農業試験場本場 (農業研究所本所)	研究	32	32	32	32	32	31	31	31	32	30	29	30	29	30	30	30	30	29	28	27	28
	事務	7	7	8	8	8	8	8	8	7	6	5	6	6	5	4	4	4	4	4	4	4
	技能	11	11	10	10	10	10	10	10	10	11	11	10	10	10	10	11	11	11	15	14	14
	計	50	50	50	50	50	49	49	49	49	47	45	46	45	45	44	45	45	44	47	45	46
池 田 分 場 (中山間担当)	研究	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	
	事務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	技能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	
海 南 分 場 (県南暖地担当 海南町駐在)	研究	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	事務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	技能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
阿 南 筍 試 験 地 (県南暖地担当 阿南市駐在)	研究	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	事務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	技能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
病虫害防除所	研究	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7				
鴨 島 分 場 (病虫害担当・ 病虫害防除所)	研究																5	4	4	9	9	
	事務																1	1				
	技能																7	7	6			
計																13	12	11	9	9	9	
合 計	研究	48	48	48	48	48	47	48	48	49	47	46	46	46	46	51	50	48	45	44	45	
	事務	7	7	8	8	8	8	8	8	7	6	5	6	6	5	4	5	5	5	4	4	
	技能	14	14	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	22	22	21	19	18	18	
	計	69	69	69	69	69	68	69	69	69	67	65	66	66	65	64	78	77	74	68	66	67

注)「事務」は行政職および研究員以外の技術職の計  
平成3年度までの本場の事務は機械研修係長(兼務)1名を含む

4 決算額の推移

年 度	決算額(千円)
昭和58	429,386
昭和59	475,792
昭和60	454,076
昭和61	479,301
昭和62	501,818
昭和63	509,141
平成元	541,159
平成2	574,661
平成3	890,702
平成4	902,806
平成5	899,302
平成6	915,381
平成7	868,201
平成8	641,158
平成9	678,878
平成10	838,185
平成11	831,408
平成12	790,250
平成13	866,310
平成14	747,279

5 歴代場長

代	氏 名	期 間
初代	木 戸 辰三郎	明治36年8月～明治37年12月
第2代	向 坂 幾三郎	明治38年3月～明治39年8月
第3代	山 崎 熊 太	明治39年8月～明治43年1月
第4代	掛 飛 作太郎	明治43年1月～大正2年8月
第5代	清 水 勝 雄	大正2年9月～大正4年5月
第6代	早 坂 恒太郎	大正4年7月～大正8年11月
第7代	間 瀬 鉦太郎	大正8年11月～大正11年5月
第8代	石 井 俊 雄	大正11年5月～大正15年3月
第9代	東野市次郎	大正15年3月～昭和10年9月
第10代	野 坂 象 之	昭和10年9月～昭和13年11月
第11代	佐 野 吉 雄	昭和13年11月～昭和18年5月
第12代	柏 木 小五郎	昭和18年10月～昭和22年9月
第13代	中 沢 敏	昭和22年9月～昭和27年3月
第14代	山 田 敬 一	昭和27年4月～昭和27年6月
第15代	黒 田 春 三	昭和27年7月～昭和30年10月
第16代	原 敏	昭和30年10月～昭和39年6月
第17代	鈴 江 昇	昭和39年10月～昭和47年3月
第18代	立 石 一	昭和47年4月～昭和49年3月
第19代	真 淵 敏 治	昭和49年4月～昭和52年3月
第20代	矢 野 明	昭和52年4月～昭和54年3月
第21代	山 本 勉	昭和54年4月～昭和59年3月
第22代	阿 部 泰 典	昭和59年4月～昭和60年3月
第23代	永 井 洋 三	昭和60年4月～昭和61年3月
第24代	川 人 浩	昭和61年4月～昭和62年3月
第25代	鳥 羽 清	昭和62年4月～平成元年3月
第26代	安 丸 徳 広	平成元年4月～平成2年3月
第27代	住 友 昭 利	平成2年4月～平成5年3月
第28代	坂 尾 治 雄	平成5年4月～平成7年3月
第29代	町 田 治 幸	平成7年4月～平成10年3月
第30代	酒 井 勇 夫	平成10年4月～平成11年3月
第31代	福 居 幸 治	平成11年4月～平成12年3月
第32代	山 本 英 記	平成12年4月～平成14年3月
第33代	美 馬 克 美	平成14年4月～

注)平成13年4月から所長



6 現職員名簿

平成15年4月1日現在

所属・職名	氏名	在職歴
所長	美馬 克美	昭46.4～昭53.3
		平5.4～平8.3
		平10.4～平13.3
		平14.4～
次長	川下 輝一	昭51.4～昭63.3 平2.4～平12.3 平14.4～
次長(病害虫担当)	谷本 温暉	昭45.4～
次長(中山間担当)	脇屋 春良	昭51.4～平10.3 平15.4～
<b>総務課</b>		
課長(管理係長兼務)	前田 功	平14.4～
主査兼係長	下塚 泰輝	平15.4～
事務主任	東 明美	平12.4～
主事	川真田真紀	平13.4～
技師	福田 英治	昭53.4～
技師	川島 正義	昭46.4～
技師	鎌田 茂	昭46.4～
技師	芝原 弘	昭54.4～
技師	久米 彰一	昭56.6～
技師	井川 明美	平10.4～
技師	吉岡 文武	平4.4～
技師	左達 美佐	平10.4～
技師	木内 泰子	平10.4～
技師	田中 勢	平8.4～
技師	丸山 幸弘	平7.4～
技師	谷村 誠	平10.4～
技師(鴨島)	前田 祐子	平10.4～
技師(鴨島)	杓谷 洋一	平10.4～
<b>企画経営担当</b>		
専門研究員兼科長	広田 恵介	昭61.5～平3.3 平14.4～
科長	林 博昭	平元.4～
主任研究員	秋月 学	平12.4～
<b>プロジェクト担当</b>		
<b>砂地畑</b>		
科長	梯 美仁	昭59.5～昭62.3 平6.4～
研究員	小川 仁	平8.4～
<b>作業システム</b>		
専門研究員	河野 充憲	昭63.4～平6.3 平15.4～
	(吉田 良)	
<b>栽培育種担当</b>		
<b>作物</b>		
専門研究員兼科長	藪内 和男	昭58.4～平2.3 平9.4～
主任研究員	山本 善太	平6.4～平9.3 平14.4～
主任研究員	篠原 実	平15.4～
	(吉原 均)	
<b>野菜</b>		
専門研究員兼科長	板東 一宏	昭58.4～平5.3 平8.4～
科長	北岡 祥治	昭61.4～昭63.3 平4.4～平7.3 平10.4～
主任研究員	吉田 良	平5.4～
主任研究員	杉本 和之	平12.4～
主任研究員	村井 恒治	平6.5～平10.3 平13.4～

所属・職名	氏名	在職歴
<b>花き</b>		
専門研究員兼科長	高木 和彦	昭59.4～
主任研究員	佐藤 泰三	平10.4～平11.3 平15.4～
主任研究員	近藤 真二	平2.5～平8.3 平12.4～
<b>育種</b>		
科長	川村 泰史	昭59.5～平4.3 平10.4～
主任研究員	吉原 均	平10.4～
研究員	新居 宏延	平7.4～
<b>生産環境担当</b>		
専門研究員兼科長	黒田 康文	昭62.4～平6.3 平13.4～
主任研究員	林 捷夫	昭41.4～昭43.3 昭57.4～平元.3 平5.4～平14.3 平15.4～
主任研究員	亀代 美香	平3.4～
主任研究員	水口 晶子	平3.5～
研究員	田中 昭人	平9.4～
研究員	横田 香	平13.4～
<b>病害虫担当</b>		
次長兼病害虫防除所長(谷本 温暉)		
専門研究員	後藤 昭文	昭60.4～
専門研究員兼科長	坂口 謙二	昭55.5～昭58.3 昭60.4～昭62.3 平元.4～平3.3 平8.4～
専門研究員兼科長	平川 文男	平10.4～
科長	青木 一彦	平4.4～平6.3 平11.4～
主任研究員	中野 昭雄	平3.4～平9.3 平11.4～
主任研究員	中野 理子	平6.4～平9.3 平12.4～
主任研究員	米本 謙悟	平8.4～
研究員	南 明信	平11.4～
	(小角 順一)	
	(阪口 巧)	
<b>中山間担当</b>		
次長(中山間担当)(脇屋 春良)		
専門研究員兼科長	小角 順一	平13.4～
科長	三木 健司	平10.4～
科長	高木 一文	平9.4～
主任研究員	新居 智	平3.10～平6.3 平11.4～
技師	久保 春好	昭54.4～
技師	山崎 和博	平6.4～
<b>県南暖地担当</b>		
<b>阿南園芸</b>		
専門研究員	安瀬 次郎	昭43.4～昭55.3 平11.4～
	(黒田 康文)	
技師	吉田 悦郎	昭63.4～
<b>海南園芸</b>		
専門研究員兼科長	阪口 巧	昭59.4～昭61.3 平12.4～
研究員	山田 裕	平15.4～
技師	伊野 耕司	昭45.6～

## 第6章 年 表

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
明治26年 (1893)	○6月5日、農商務省告示第8号により、名東郡加茂名村大字東名東に農商務省農事試験場徳島支場設置	○農商務省農事試験場を東京西ヶ原に設置(4月7日) ○大阪、広島、徳島、熊本に支場設置(6月5日)、ついで宮城、石川にも支場設置(7月2日) ○明治34年8月16日徳島県農会創立
明治36年 (1903)	○4月1日、徳島県告示第121号により同位置(現徳島市鮎喰町2丁目)に徳島県農事試験場を開設 ○4月2日、巡回講習施行規則公布 ○4月22日、徳島県農事試験場種畜配付規則公布 ○四国支場の試験を継続し、稲、麦、藍、ナタネ、ゲンゲ、果樹、野菜について試験事業開始 ○水稲、陸稲、裸麦、小麦、大麦の原種配布開始	○1902年の米不作、1903年の麦不作で米664万石、小麦粉130万石を輸入 ○徳島県農会報発刊(3月15日) ○葉たばこ耕作者5人組制を設く
明治37年 (1904)	○農業試験場要報第1号発行(3月) ○農家必携試験成績便覧発行(10月) ○稲の豊凶考照試験始まる	○徳島県立農業学校設立(4月30日、現城西高校) 場長が学校長を兼任する ○日露戦争開始
明治38年 (1905)	○日露戦争に際し、経費節減のため養鶏、養豚およびそ菜の試験を廃止し、試験圃場100a余を縮少	○東北地方冷害で凶作 ○「野鼠チフス菌に関する注意」を発する ○塩専売法公布 ○板名用水着工 ○麻名用水起工 ○徳島市伊月町に県内第1号温室が建設される
明治39年 (1906)	○農事試験成績報告第1号発行(3月) ○徳島県農事試験場一覽発行(5月)	○5月、阿波砂糖同業組合設立 ○板野郡立農蚕学校設立
明治40年 (1907)		○ニカメイチュウ誘蛾灯考案 ○柑橘の栽培盛んとなる ○麻植郡立農蚕学校設立
明治41年 (1908)	○2月5日、徳島県農事試験場を徳島県立農事試験場と改称 ○養鶏、養豚、そ菜、花き等に関する試験を復活し、米麦に関する試験の一部を中止 ○業務功程の発行開始 ○青酸ガス燻蒸試験 ○麦類の豊凶考照試験開始	○牛疫発生(6月) ○麻名、板名用水が通水する ○米麦の主要品種別作付面積の調査を実施
明治42年 (1909)	○場内に水稲原種田設置 ○種卵の配布開始(3月) ○予察灯によるニカメイチュウ発生消長調査開始	○耕地整理始まる ○石灰窒素肥料製造開始 ○県内務部農商課設置
明治43年 (1910)		○肥料検査はじまる。
明治44年 (1911)	○酸性土壌に関する委託試験を開始 ○純系淘汰による稲の育種始まる	○東北地方いもち病大発生 ○米価高騰し生活困難となる
明治45年 大正元年 (1912)	○主要そ菜の施肥試験開始 ○酸性土壌に対する肥料配合法などの委託試験開始 ○麦の移植栽培試験	○吉野川改修工事起工 ○美馬郡半田用水成る ○台風、洪水(2回) ○米麦不作 ○阿波郡、板野郡に水利組合設立される
大正2年 (1913)	○徳島県農会委託により町村農会技術員の養成開始 ○委託分析規定(徳島県告示第115号)により一般からの依頼分析開始 ○酸性土壌依頼分析開始	○北海道、東北大冷害 ○帝国農会記帳式農家経済調査を開始 ○南方三郡、板野郡旱害 ○米収三石期成会、四石同盟会(大山村)、五石同盟会(牛島村)起る ○吉野川沿岸の桑園1~2割萎縮病株発生

年次	沿革および主要研究事項	農業事情その他
大正3年 (1914)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園芸委託試験開始</li> <li>○イモチ病防除試験</li> <li>○水稲模範作(多収試験)試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大正博覧会(上野)開かれる</li> <li>○第1次世界大戦勃発</li> <li>○蚕種一代雑種普及団結成される</li> <li>○麦大凶作</li> <li>○葉藍取締規則公布(県令第40号)</li> <li>○この年から大正5年にかけて米価低落</li> <li>○生糸相場統落明治33年以来の安値出現</li> </ul>
大正4年 (1915)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○農商務省農家副業奨励を通牒</li> <li>○米価調節令</li> <li>○農事試験場陸羽支場で耐冷性水稲品種「陸羽20号」を選出</li> <li>○吉野川改修工事により善入寺島住民全戸立退き</li> <li>○蚕種品種の根本的改良を行う</li> <li>○風水害</li> <li>○高知種馬所の出張種付所を板野郡板東町に設置</li> </ul>
大正5年 (1916)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○米麦品種改良奨励規則公布</li> <li>○サツマイモの各種栽培法を比較検討(大正8年まで)</li> <li>○麦類の冷水温湯浸法試験</li> <li>○柑橘潰瘍病防除試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○愛媛県知事から徳島県知事あて吉野川分水につき申し入れあり</li> <li>○家兔の飼育流行する</li> </ul>
大正6年 (1917)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肥料依頼分析(定性)開始</li> <li>○石灰硫黄合剤試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業倉庫業法施行</li> <li>○暴利取締令</li> <li>○農務局に副業課設置</li> <li>○ドイツ俘虜板野郡板東町の新設兵舎に移り、乳牛豚の飼育、ドイツ式野菜栽培を始める</li> <li>○食用蛙の飼育はじまる</li> </ul>
大正7年 (1918)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボルドー液の取扱法試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1次世界大戦終戦</li> <li>○富山で米騒動起る。以後各地に波及、徳島では新居、小松島、撫養で発生</li> <li>○米価大暴落</li> <li>○穀類収用令(大正8失効)</li> <li>○暴風雨</li> <li>○農会主催による農産副産品の共同販売初めて行われる。第1回園芸共進会開催</li> </ul>
大正8年 (1919)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○藍の病害虫の研究実施(大14年まで)</li> <li>○肥料依頼分析(定量)開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開墾助成法施行</li> <li>○主要食糧農産物改良増殖奨励規則公布</li> <li>○林野実態調査始める</li> <li>○神戸、大阪市に府県農会連合農産物副産品販売幹線所開設(2府13県)される</li> </ul>
大正9年 (1920)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉱毒地の酸性土壌改良作委託栽培始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際連盟発足</li> <li>○第1回国勢調査実施</li> <li>○群馬県強戸村、岡山県妹尾村などで小作争議</li> <li>○種子消毒剤として有機水銀剤ウスプルン輸入され砒酸鉛などの農薬の使用増加</li> <li>○県農会で動力機の講習実施</li> </ul>
大正10年 (1921)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○米麦原種配布規則できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農商務省府県農会に委嘱して簿記方式による全国農家経済調査を開始</li> <li>○度量衡法改正(メートル法を基本とする。大正13年7月1日施行)</li> <li>○米穀法施行</li> <li>○陸羽支場で「陸羽132号」を育成</li> <li>○この年以降全国的に小作争議が本格化</li> <li>○県農会経費4千余円で内燃機関その他を購入し、実地指導を行う</li> </ul>
大正11年 (1922)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳島県立農事試験場規程を改正、訓第11号により徳島県立農事試験場処務規定を制定し、4部2係とし、主任を置く</li> <li>○温州ミカンの栽培方法改善に資するため、勝浦郡内に試験地を4か所設ける</li> <li>○水稲の重金属有害量検定試験(銅、亜鉛、鉛、砒素)</li> <li>○農具に関する試験を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本農民組合結成</li> <li>○農会法改正(大正12年1月1日施行)</li> <li>○帝国農会記帳方式による米生産費調査を開始</li> <li>○生糸の工場県下に31工場2568釜、従業員男女3000人に達す</li> <li>○県北水田地帯中心に小作争議起る。県農会第1回農家経済調査実施、第1回農家経済研究会開催</li> <li>○イセリヤカイガラムシが里浦村の夏ミカンに発生、ルビーロウムシがネーブルに発生</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
大正12年 (1923)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水稲直播試験始まる。</li> <li>○麦の不整地播試験</li> <li>○麻植郡川田村における鉾害地改良対策試験を実施</li> <li>○純系淘汰による麦の育種始まる</li> <li>○高尾糯38号奨励品種採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関東大震災</li> <li>○中央卸売市場法施行(11月1日)</li> <li>○産業組合中央金庫法施行(4月26日)</li> <li>○農商務省排水事業補助要領を定め府県の行う土地改良事業に補助金交付</li> <li>○産業組合中央金庫設立</li> <li>○郡制廃止</li> <li>○三好郡加茂(三加茂)小作人組合を作り争議を解決する</li> <li>○徳島市立佐古公設市場を開く</li> <li>○水害、旱害</li> <li>○勤儉奨励週間をつくる</li> <li>○第1回深耕競争会開催(県農会主催)</li> <li>○繁栄組阿根航路を開く</li> </ul>
大正13年 (1924)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳島晩稲1号奨励品種採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○帝国農会農商務省の依託により農業経営調査を開始</li> <li>○小作調停法施行(12月1日)</li> <li>○農商務省小作課設置</li> <li>○徳島県に小作官を置く</li> <li>○干ばつ</li> <li>○藍会社解散</li> </ul>
大正14年 (1925)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園芸指導地(蔬菜一般)を名東郡加茂村、名西郡藍畑村、板野郡藍園村、板野郡里浦村に設置</li> <li>○園芸試験地(委託)を宍喰町(蔬菜)、福井村(筍)、横瀬町(温州)、生比奈村(温州)、大津村(梨)に設置</li> <li>○園芸作物の栽培奨励普及のため指導地では露地および温床栽培を開始。試験地では蔬菜の促成栽培、筍の早期採取、果樹の肥料試験を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林省と商工省が分立</li> <li>○治安維持法</li> <li>○普通選挙法</li> <li>○那賀郡に日本農民組合阿南連合会結成さる</li> <li>○本県のスイカ香川県へ出荷</li> </ul>
大正15年 昭和元年 (1926)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○温室79.2㎡(24坪)を建設</li> <li>○ペダリアテントウムシ飼育室を新設し、配布事業を開始(経費2,701円)</li> <li>○園芸指導地を麻植郡鳴島町および那賀郡坂野村に増設</li> <li>○園芸作物の集約的栽培奨励のため高級蔬菜および草花の栽培研究試験開始</li> <li>○ナシヒメシクイムシ防除試験</li> <li>○麦さび病、赤かび病防除試験</li> <li>○人工交配による稲の育種始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農商務統計表の名称を農林省統計表と改め第1次を刊行</li> <li>○自作農創設維持補助規則</li> <li>○吉野川改修工事成る</li> <li>○神戸で本県スイカ試食会開催</li> <li>○郡役所廃止</li> <li>○徳島花市場開設</li> </ul>
昭和2年 (1927)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○養鶏事業を種畜場に移管</li> <li>○電動機モーター 800円(補助金)</li> <li>○徳島県農業技術員養成所を当場に併設</li> <li>○漬物用ダイコンの品種改良事業に着手</li> <li>○水稲奨励品種の普及</li> <li>○人工交配による麦の育種開始</li> <li>○藍の品種「小上粉」の白花系発見</li> </ul>	
昭和3年 (1928)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園芸指導地を廃止</li> <li>○スイカつる割病防除試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○御大典の式典(11月5日)</li> <li>○徳島市津田町、板野郡松茂町、藍住町に切花用営利温室建設される</li> </ul>
昭和4年 (1929)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○四国四県小麦栽培連絡試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○8月11日、麻名用水開通除幕式</li> <li>○9月5日県種畜場開場式</li> <li>○農業「センサス」実施(9月1日)</li> <li>○世界大恐慌</li> </ul>
昭和5年 (1930)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ダイコン新品種「阿波中生一号」育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農村恐慌(農家不債50億)</li> <li>○徳島県庁新庁舎成り移転する</li> <li>○糸価、米価大暴落</li> </ul>
昭和6年 (1931)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳島県立農事試験場練習生養成を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大阪中央卸売市場の開始本県も出荷</li> <li>○有畜農業奨励</li> <li>○物価暴落(米価安、農家萎縮する)</li> <li>○満州事変勃発(9月18日)</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農業事情その他
昭和7年 (1932)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小麦原種圃収納舎を新築する</li> <li>○小麦の奨励品種決定試験事業を開始</li> <li>○ダイコン「阿波晩生一号」育成</li> <li>○ダイコンの原種配布開始(阿波晩生一号, 阿波中生一号)</li> <li>○果樹苗木の育成配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県小麦の5か年増産計画を立てる(県, 県農会, 県農試が一丸)</li> <li>○農事改良実行組の県の奨励方針を発表(農事改良奨励規定)</li> <li>○県物産大阪販売幹旋所を設立</li> <li>○上海事変おこる(1月28日)</li> <li>○農山漁村経済更生計画</li> </ul>
昭和8年 (1933)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○柑橘試験地勝浦郡生比奈村に設置</li> <li>○大根原種配布規定を設ける</li> <li>○根瘤菌培養配布事業始まる</li> <li>○なたねの奨励品種決定試験開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自給肥料の推進</li> <li>○たくあん契約栽培一万樽</li> <li>○耕地課設置</li> </ul>
昭和9年 (1934)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室戸台風の被害により本場作業室と柑橘試験地事務所を改築する</li> <li>○大豆, サツマイモ配布要項作成</li> <li>○スイカの品種改良に着手</li> <li>○堆肥増産講習会を始める</li> <li>○野鼠チフス菌配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人絹の進出により養蚕業衰退</li> <li>○室戸台風襲来により農作物被害大</li> </ul>
昭和10年 (1935)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大豆, サツマイモ原種配布始まる</li> <li>○ダイコン「阿波中生二号」育成される</li> <li>○大豆奨励品種決定試験開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内, 経済更生指定町村の調査一人平均42円51銭の負債</li> <li>○内務部から経済部が独立</li> </ul>
昭和11年 (1936)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10月12～13日, 全国優良農具実演展覧会を開催</li> <li>○人工交配による稲新品種「みのる」, 「剣」奨励品種採用</li> <li>○青刈大豆, 青刈ソラマメ配布</li> </ul>	
昭和12年 (1937)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術員養成所卒業生を対象に指導講習会を開催</li> <li>○施肥標準調査を13か年計画で実施する</li> <li>○ナシ園跡水田のひ素被害対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦時体制下の食糧政策発表(食糧配給組織の確立)</li> <li>○副業の振興</li> <li>○日華事変おこる(7月7日)</li> <li>○臨時肥料配給統制法施行(11月25日)</li> </ul>
昭和13年 (1938)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本場の敷地買収と同時に改築する</li> <li>○温室増設する</li> <li>○富岡試験地, 池田試験地を新設する</li> <li>○徳島県農業技術員養成所を徳島県農会技術員養成所に改める</li> <li>○池田試験地でサツマイモの栽培試験開始</li> <li>○トウモロコシ原種配布始まる</li> <li>○ウメの苗木配布</li> <li>○人工交配による水稲新品種の育成試験開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業の共同作業を全農村に奨励</li> <li>○農産物増産のための農業技術指導強化</li> <li>○国家総動員法発動(4月1日)</li> <li>○全国農家一斉調査(9月1日)</li> <li>○トウモロコシ増産5か年計画樹立</li> </ul>
昭和14年 (1939)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4月13日, 本場改築落成式</li> <li>○4月13～14日, 優良農具展開かれる</li> <li>○サツマイモ黒痣病, 紫紋羽病防除試験始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○米穀強制買入令が出る</li> <li>○肥料配給統制規則を公布(3月)秋肥から化学肥料の配給割当</li> <li>○小作料統制令出る</li> <li>○米穀配給統制法</li> </ul>
昭和15年 (1940)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10月10～11日, 食糧増産のための研究発表会を県下3か所で開催</li> <li>○ザートウイッケン(コモンベッチ)配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○部落会一町内会一市町村常会設置要綱</li> <li>○小麦類配給統制規則</li> </ul>
昭和16年 (1941)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○病害虫発生予察制度始まり観察地点に予察灯設置</li> <li>○池田試験地に陸稲原種圃を設置</li> <li>○陸稲の原種配布再開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○桑園1割を改植減反</li> <li>○主食配給通帳制発足</li> <li>○農業生産統制令(農会に統制の機能を与える)</li> <li>○太平洋戦争開戦(12月8日)</li> </ul>
昭和17年 (1942)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○富岡試験地を富岡分場に昇格</li> <li>○池田試験地を池田分場に昇格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食糧管理令公布</li> <li>○地方事務所の設置</li> </ul>
昭和18年 (1943)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳島県農会技術員養成所を徳島県立農業技術員養成所とする(県令第44号)</li> <li>○国補による野菜類の原種配布はじまる</li> <li>○水稲に対する青草の有効利用法の検討</li> <li>○ホウレンソウ原種配布(昭18～23)</li> <li>○ソラマメ原種配布(昭18～23)</li> <li>○ダイコン原種配布(昭18～23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食糧増産のため桑園抜根励行, 果樹20%抜根</li> <li>○農商省に統合</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
昭和19年 (1944)		○生活必需品統制 ○供出の集落割当制
昭和20年 (1945)	○秋バレイショ品種比較試験 ○阿波晩生二号ダイコン育成される ○麦の移植栽培 ○水稲への極少量の硫安(反あたり2.5貫)施用法試験	○徳島空襲(7月4日) ○主食の1割減配実施(1人1日2合1勺) ○太平洋戦争終戦(8月15日) ○農林省再置 ○食糧確保緊急措置決定 ○米穀総合供出制実施 ○第1次農地改革公表
昭和21年 (1946)	○開拓地適地調査開始	○食糧緊急措置令(供米に対する強権発動)即日施行 ○食糧メーデー ○第2次農地改革施行 ○農業技術滲透室および農業技術指導農場を各都道府県に設置 ○農林省農事試験場四国支場開場 ○南海地震で塩害地が増加
昭和22年 (1947)	○低位生産地調査職員4名の設置補助金交付 ○作物統計調査事務所試験係を併設(~47年) ○落花生栽培試験 ○低位生産地調査事業 ○県単による原種配布始まる	○GHQ涉外局米供出に強権発動指令 ○農業協同組合法施行
昭和23年 (1948)	○大山果樹試験地設置 ○病害虫発生予察専任観察員を配置 ○農産加工指導所を構内に建設(~25年)	○農業改良助長法施行 ○普及事業が発足 ○農業改良課設置 ○主要食糧の生産・供出の事前割合制実施 ○農薬取締法施行
昭和24年 (1949)	○久勝原種圃設置 ○技術員養成所を廃止し農業講習所を設置(規則第28号) ○ロータリ型耕耘機, 小型ダットサントラック購入 ○農業講習所寄宿舎(40坪)建設 ○水稲に対する2,4-D散布試験 ○ムギの葉先黄変対策試験	○米価審議会の設置決定 ○BHCウシカ類の防除効果確認 ○作付統制の撤廃 ○改良普及員資格試験により新しく食糧増産技術員に代って農業改良普及員が任命される。
昭和25年 (1950)	○天皇陛下農事試験場へ巡幸 ○ガラス温室2棟(24坪および32坪)建設 ○ダイコンの品種改良試験 ○動力耕耘機比較 ○麦類赤カビ病の流行機構 ○サンカメイチュウ被害調査法 ○花き類の研究開始	○農林省農事試験場が農業技術研究所と改組, 四国支場は中国四国農業試験場となる。 ○世界農業センサス実施 ○イモ類の統制撤廃 ○農業の生産指数, 戦前の97.5%に回復 ○水稲の保温折衷苗代の普及進む ○2,4-D水田除草剤としての使用始まる ○植物防疫法施行 ○肥料統制の撤廃
昭和26年 (1951)	○園芸部に花き専任職員配置 ○池田分場にたばこ耕作技術員養成所を併設 ○農業講習所教室(48.5坪)建設 ○網室併設ガラス室(14.2坪)建設 ○タバコ栽培試験 ○ダイコンモザイク病の防除試験	○農業委員会法成立施行 ○食糧農業機構(FAO)に正式加盟 ○DDT, BHCの普及すすむ ○塩化ビニルフィルム野菜育苗用に民間で実験始まる ○ダイコンモザイク病大発生 ○農業地区が26となる
昭和27年 (1952)	○藍園蔬菜試験地設置 ○板東園芸試験地設置 ○主要農作物種子法により原種採種制度発足 ○菌虫部培養基室(6坪)建設 ○営農試験地事業 ○保温折衷苗代試験 ○モチトウモロコシ品種比較 ○セレサン石灰によるイモチ病防除 ○耕土培養法による秋落田と酸性土壌の改良事業 ○麦の枯熟れ試験	○食糧増産5か年計画発表 ○観察所に代って病害虫防除所10か所設置 ○農林省四国農業試験場となる。

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
昭和28年 (1953)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳島県立農事試験場研究報告第1号発行(10月)</li> <li>○麦赤かび病菌接種室建つ</li> <li>○イチゴ(芳玉)品種改良試験</li> <li>○水稲早期栽培法試験</li> <li>○施肥改善事業結まる</li> <li>○新農業受託試験開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農務部の設置</li> <li>○パラチオンの実用化, 普及</li> <li>○MCPの国産, 普及</li> <li>○水稲のイモチ病防除に水銀剤普及</li> <li>○ティラー型耕耘機の普及</li> <li>○大型台風の来襲</li> <li>○不和合性利用のハクサイF1品種育成</li> <li>○農業機械化促進法施行</li> <li>○カノコユリ球根, 高原テッポウユリ球根始めて輸出</li> <li>○水稲早期栽培の試作行われる</li> </ul>
昭和29年 (1954)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海部園芸試験地設置</li> <li>○板東園芸試験地廃止</li> <li>○原種決定試験1/2国補となる</li> <li>○肥料検査所建設され本庁から移転</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○MSA協定による米国余剰農産物購入資金5,000万ドルを日本に割当て</li> <li>○29年産米に端境期対策として特別早期供出奨励金制度新設</li> <li>○ドリン剤土壌害虫防除に使用</li> </ul>
昭和30年 (1955)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大山果樹試験地, 生比奈柑橘試験地を果樹試験場に移管</li> <li>○農業講習所実験室(20坪のちの病害実験室)建設</li> <li>○ナスのビニールトンネル栽培試験</li> <li>○テッポウユリの球根生産</li> <li>○系統特性および半促成, 促成栽培法</li> <li>○県内野生ユリの分布調査</li> <li>○高冷地種バレイショ性能調査</li> <li>○水稲早期栽培における紋枯病防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○米の大豊作(戦前の140%)</li> <li>○米の予約買付制採用決定</li> <li>○アメリカ余剰農産物買付協定調印</li> <li>○ケイ酸を肥料公定規格に追加</li> <li>○水稲早期栽培推進協議会発足</li> <li>○西村重次氏(鴨島町) 米作日本一四国ブロック1位入賞(799kg/10a)</li> </ul>
昭和31年 (1956)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○筍栽培試験地設置</li> <li>○農村生活改善展示室「みどりの家」を構内に建設</li> <li>○一眼レフカメラを購入</li> <li>○シロウリ(阿波みどり)品種改良試験</li> <li>○除草剤使用による麦の多株穴播栽培</li> <li>○筍園の施肥方法試験</li> <li>○殺虫剤散布による水田昆虫相の変動</li> <li>○イチゴ「芳玉」の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新農山付建設総合対策の樹立</li> <li>○農業改良資金助成法の施行</li> <li>○地方事務所の廃止</li> <li>○阿波用水が完成</li> </ul>
昭和32年 (1957)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○徳島県立農事試験場を徳島県農業試験場と改める</li> <li>○部を1係, 5科とし, 経営科を新設</li> <li>○行政職, 研究職, 医療職制度が発足</li> <li>○藍園蔬菜試験地を藍住園芸試験地に変更</li> <li>○久勝原種圃を阿波原種圃に変更</li> <li>○海部園芸試験地を海南園芸試験地に変更</li> <li>○筍栽培試験地を橘筍栽培試験地に変更</li> <li>○施肥改善事業でジープを購入</li> <li>○麦作におけるCATの散布試験</li> <li>○電熱による筍の早掘試験</li> <li>○海部青軸テッポウユリ促成試験</li> <li>○水稲早期栽培用品種決定試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○勝浦で, 一戸一法人の有限会社登記(農業法人問題の発端)</li> <li>○農林白書の発表</li> <li>○果菜類のトンネル栽培普及</li> </ul>
昭和33年 (1958)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○池田分場のたばこ耕作技術員養成所に教室(寄宿舎併設, 50坪)建つ。</li> <li>○病虫, 化学科作業舎(26.3坪)が建つ。</li> <li>○初夏まき(徳深)カンラン品種改良試験</li> <li>○PCPによるウキクサ防除試験</li> <li>○通風乾燥機による早期籾の乾燥</li> <li>○テッポウユリの栽培改善</li> <li>○テンサイの栽培試験</li> <li>○阿波新晩生ダイコン育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業改良助長法の一部改正が行われ, 県条例により地区普及事務所は地区普及所と改称され, 22地区の中地区制となる。</li> <li>○本県の農用モータ5,900台, 農用エンジン26,000台, 動力耕耘機4,000台, 動力噴霧機1,900台に達する</li> </ul>
昭和34年 (1959)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2,4-Dによるナスの奇形果落果防止試験</li> <li>○地力保全対策事業</li> <li>○水稲早期作のウイルス病防除</li> <li>○カノコユリの栽培試験</li> <li>○水稲二期作栽培試験</li> <li>○麦の多条播栽培試験</li> <li>○シロウリ「阿波みどり」育成</li> <li>○土壌線虫試験開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林漁業基本問題調査会の発足</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
昭和35年 (1960)	○実験予察用5連恒温槽を設置	○池田内閣高度経済成長施策発表 ○生産者米価所得パリティ方式から生産費および所得補償方式に移行 ○園芸特産課設置 ○県内の水稲早期栽培4,500ha普及
昭和36年 (1961)	○原種決定試験が奨励品種決定試験と改称される ○農業講習所視聴覚教室(28.2坪)建設 ○オートバイ購入 ○稲の直播栽培(乾田、湛水) ○乗用トラクターによる耕うん整地 ○バイナップル促成栽培試験	○農業基本法の制定 ○農業近代化資金助成法の施行 ○農業基本法の規定に基づく第1回農業白書の発表 ○キュウリ、ナスのハウス栽培普及 ○鳴門市でハスモンヨトウ大発生、自衛隊が出動し火炎放射器により防除 ○徳島県花き園芸組合連合設立
昭和37年 (1962)	○軽四輪ライトバンを購入(富岡分場・藍住分場) ○ビール麦の品種試験 ○移動用畦畔散布機の性能	○昭和46年目標の「農産物の需要と生産の長期見通し」公表 ○生産の選択的拡大始まる ○第1次農業構造改善事業の発足 ○農業空中散布県下ではじめて行われる(水稲・見能林、川内) ○松原薫夫氏(美馬町)米作日本一四国1位入賞(776kg/10a)
昭和38年 (1963)	○農業機械科を設置 ○藍住園芸試験地を藍住分場に昇格 ○温室(30坪)が建つ ○農業機械研修館(2階)建つ ○普通自動車を購入 ○れき耕栽培改善試験 ○炭酸ガス施用試験 ○急傾斜地耕うん作業の機械化 ○半促成、促成キュウリの栽培改善	○人力結束刈取機市販始まる ○兼業を主とする農家全農家の40%をこえる ○野菜指定産地制度始まる ○れき耕栽培小松島で始まる ○徳島県のユリ生産関西第1位となる
昭和39年 (1964)	○園芸科ガラス室(24坪)を改築 ○軽三輪車を購入(本場・池田分場) ○除草剤の受託試験開始 ○直熱式送風簡易暖房機(豆炭)実用性検定(ユリ)	○新潟県白根農協に全国初のカントリーエレベータ完成 ○動力稲刈機(集束型)導入はじまる ○日本植物調節剤研究協会設立 ○全国れき耕栽培試験研究打合せ会議徳島県で開催
昭和40年 (1965)	○橘筍栽培試験地を阿南筍試験地に変更 ○徳島農業改良普及所が講堂に移り来る(~45年) ○病虫科ガラス室(14.2坪)を改築 ○水稲田植機栽培試験 ○水稲苗播栽培試験	○未曾有の台風災害が発生し、本県の水稲の作況指数78となる ○農業改良普及所を整備統合し、9普及所6支所とし普及所は2号廳となる
昭和41年 (1966)	○農業講習所を廃止し、農業大学校作物、そ菜、花き、たばこ分校開設。専修課程、高等課程を置く ○藍住分場に温室(97m)を建設 ○稲刈機、ポーラログラフ購入 ○養液育苗試験 ○水稲多収阻害要因とその対策 ○ヒオウギの生態特性と早出し栽培 ○コンニャク栽培試験 ○キュウリ緑斑モザイクウイルス防除対策 ○地力保全対策診断事業はじまる ○イチゴ「うずしお」を育成	○野菜生産出荷安定法の制定 ○本県で米の1割増産運動始まる ○キュウリ緑斑モザイク病大発生 ○日本園芸学会徳島県で開催される
昭和42年 (1967)	○発生予察事業に病害虫検診車購入 ○電熱利用によるタケノコの早期出荷 ○動力用田植機の性能 ○池田分場、茶の栽培試験開始	○米の大豊作(1445万トン)
昭和43年 (1968)	○海南園芸試験地を現所在地(海南町多良)に移転改築 ○2条用バインダー購入 ○ミツバチ利用によるイチゴの奇形果防止 ○稚苗移植栽培試験 ○自脱型コンバインの作業性 ○キュウリハウス促成栽培試験	○2月15日の大雪によりビニールハウス倒壊 ○4食品5農業に残留許容量設定 ○農林事務所の設置



年次	沿革および主要研究事項	農業事情その他
昭和44年 (1969)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○久勝原種圃廃止</li> <li>○管理科を設置</li> <li>○亜硫酸ガス接触装置設置</li> <li>○農薬残留分析機器購入</li> <li>○池田分場第2圃場(茶園)開設</li> <li>○芳玉のハウス促成栽培試験</li> <li>○米の品質向上試験</li> <li>○麦の全面全層播栽培</li> <li>○野菜病害虫発生予察実験事業開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合農政の一環として稲作転換対策実施基準決定</li> <li>○第2次農業構造改善事業発足</li> <li>○農薬安全使用基準制定</li> <li>○自主流通米制度発足</li> <li>○米の産地銘柄設定</li> </ul>
昭和45年 (1970)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○富岡分場を阿南試験地に、藍住分場を藍住試験地に変更</li> <li>○管理科を管理係とする(規則第24号)</li> <li>○卓上電子計算機購入</li> <li>○試験場ニュース発刊</li> <li>○ショウガ促成栽培試験</li> <li>○ハウス栽培におけるイチゴの受精機構</li> <li>○農薬残留対策試験</li> <li>○水稲稚苗移植栽培の防除体系</li> <li>○池田分場山間野菜試験開始</li> <li>○ゼンマイ栽培試験</li> <li>○野菜類、土壌の有機塩素剤残留分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産調整特別対策事業実施要綱発表(農林省)</li> <li>○昭和46～50年度米の生産調整と転作促進案発表(農林省)</li> <li>○農用地の土壌の汚染防止等に関する法律</li> </ul>
昭和46年 (1971)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本場を徳島市から名西郡石井町へ新築移転</li> <li>○海南園芸試験地が海南分場となる</li> <li>○阿南試験地、藍住試験地を廃止</li> <li>○原子吸光度計、乗用自脱型コンバイン、田植機購入</li> <li>○土壌汚染防止対策(概況調査)はじまる</li> <li>○国土調査・土地分類基本調査はじまる</li> <li>○農薬残留対策調査はじまる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○BHC、DDTの全面使用禁止閣議決定</li> </ul>
昭和47年 (1972)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総務課(庶務係、管理係)を新設</li> <li>○生物環境調節装置4基設置</li> <li>○農業気象総合記録装置購入</li> <li>○徳島、藍住、鳴門、小松島防除所を徳島病害虫防除所に統合</li> <li>○地方専技室(花き、病虫、土肥)を併設(昭55.3まで)</li> <li>○ウリカワの防除試験</li> <li>○中核研究(山地酪農)</li> <li>○連作砂地畑の連作障害対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ミカン暴落</li> <li>○土成町に集中管理モデル温室(ガラス)設置される</li> </ul>
昭和48年 (1973)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○阿南、日和佐を阿南病害虫防除所に脇町、川島、池田を脇町病害虫防除所に統合</li> <li>○池田分場に製茶実験室(86㎡)と製茶機を整備する</li> <li>○農薬安全対策調査</li> <li>○山間傾斜地における畑作複合経営(実用化技術組立試験)</li> <li>○転換畑の大豆の栽培改善試験</li> <li>○中苗の露地育苗法と田植機適応性</li> <li>○ヒオウギの栽培改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林省野菜試験場が旧園芸試験場の野菜・花き関係と東海近畿農業試験場を統合し独立</li> <li>○第1次石油ショック</li> <li>○農業生産資材の高騰(狂乱物価)</li> <li>○徳島県の施設野菜の栽培面積300haを超える。</li> </ul>
昭和49年 (1974)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○露地野菜研修施設設置</li> <li>○農業機械化センターが構内に移り来る</li> <li>○池田分場に収納兼作業舎(216㎡)およびタバコ乾燥室(144㎡)が建つ</li> <li>○ステビアの導入試験</li> <li>○地力増強と保全に対する農林畜産廃棄物の積極的利用</li> <li>○麦の早生栽培</li> <li>○サツマイモ黒斑症(かいよう病)対策</li> <li>○水稲のペーパーポット栽培</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インフレ、不況、貿易不均衡で世界経済の危機感広がる</li> <li>○PCB、水銀による汚染等公害問題深刻化</li> </ul>
昭和50年 (1975)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境科を設置</li> <li>○麦の原種生産を脇町の農家に委託</li> <li>○暖地水田裏作麦の高産率生産と安定化</li> <li>○組織的調査研究</li> <li>○水稲低コスト生産方式の確立</li> <li>○チューリップの促成栽培と品質向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農用地利用増進事業の施行</li> <li>○土成中央温室組合天皇賞受賞</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
昭和51年 (1976)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏秋キュウリのつぎ木栽培の安定化技術確立</li> <li>○イチゴうどんこ病の発生病態と防除</li> <li>○生鮮農作物農薬安全使用推進対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道、東北地方冷害</li> <li>○水田総合利用再編対策始まる</li> </ul>
昭和52年 (1977)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ダイコン横縞症発生原因の解明と防止対策の確立</li> <li>○暖地傾斜草地の更新技術</li> <li>○性フェロモン利用によるハスモンヨトウの防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域農政特別対策事業実施</li> <li>○性フェロモン利用のハスモンヨトウ防除事業始まる(鳴門市)</li> <li>○外山義一氏(脇町)全回麦作共励会で第1位となり農業寮で天皇杯受賞</li> </ul>
昭和53年 (1978)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域農業複合化技術開発試験</li> <li>○新規造成畑の早期熟畑化と地力増強対策</li> <li>○南海地域における施設野菜の栽培環境改善による品質向上技術</li> <li>○春まき系ダイコンのハウス栽培</li> <li>○ハウスメロン品種比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新農業構造改善事業発足</li> <li>○米の大豊作</li> <li>○米の生産調整始まる(53年目標39万1000ha)</li> <li>○種苗法施行</li> <li>○農林省を農林水産省と改称</li> </ul>
昭和54年 (1979)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○育種科を設置</li> <li>○野菜・花きを加害するダニ類の防除</li> <li>○転換畑高度畑作技術確立試験(大豆・飼料作物の栽培、大豆・麦類展示圃)</li> <li>○施設栽培省エネルギー栽培試験</li> <li>○土壌環境基礎調査・定点調査はじまる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イラン革命で第2次石油危機発生</li> </ul>
昭和55年 (1980)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園芸科を廃止し野菜科、花き科を設置</li> <li>○マルチ畦内消毒による土壌病害防除技術</li> <li>○野菜病害虫発生予察事業本格化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦後最大級の冷害のため米の作況指数87</li> <li>○省エネルギーモデル団地国府町南井上に設置(地中熱交換方式)</li> </ul>
昭和56年 (1981)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気象災害回避による冬春ダイコンの生産安定技術確立</li> <li>○オモトの生産安定技術確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林水産省チチュウカイミバエの発生に伴うカリフォルニア産生果実の対日輸出の自粛要請発表</li> <li>○水田再編第2期対策始まる</li> <li>○相生町オモト朝日農業賞受賞</li> </ul>
昭和57年 (1982)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○池田分場を改築</li> <li>○パーソナルコンピュータ、高速液体クロマトグラフ購入</li> <li>○高位地域農業複合化試験</li> <li>○暖地における新テッポウユリ生産技術確立</li> <li>○飼料稲の安定多収技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○臨時行政調査会基本答申提出</li> <li>○日米貿易摩擦と農産物の自由化要請</li> <li>○日本晴県内水稲栽培面積の50%を占める</li> <li>○県内水稲の88%が機械移植栽培となる</li> </ul>
昭和58年 (1983)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業機械化センターを合併し、徳島県立農業試験場となる</li> <li>○機械研修係をおく</li> <li>○土壌保全調査職員4名と農業改良研究員の設置補助金が廃止される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業環境技術研究所等国立研究機関の再編</li> </ul>
昭和59年 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○透過型電子顕微鏡購入</li> <li>○四国傾斜地帯への野菜の導入定着技術の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水田利用再編対策第3期対策始まる</li> <li>○胚培養野菜ハクランが種苗登録</li> </ul>
昭和60年 (1985)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業機械科を廃止し情報企画科を設置</li> <li>○組織培養棟及び付属施設の設置</li> <li>○阿讃開発に伴う新技術体系の確立</li> <li>○固形培地式養液栽培の実用化試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大鳴門橋開通</li> <li>○日本専売公社が民営化されJTとなる</li> <li>○北島町の水田および水路0.3haでジャンボタニシの発生を確認</li> </ul>
昭和61年 (1986)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イチゴのウイルスフリー苗の配布を開始</li> <li>○高速輸送体系に適合した四国集約型園芸のための技術開発</li> <li>○砂地畑特産野菜の維持発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ハレー彗星が接近</li> </ul>
昭和62年 (1987)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サツマイモのウイルスフリー苗の育成と配布を開始</li> <li>○ライシメーター、弱毒ウイルス研究用ガラス温室(網室)設置</li> <li>○グリーントピア計画における農業情報システムの検討</li> <li>○夏秋どりイチゴ「みよし」種苗法による品種登録</li> <li>○高速輸送体系に適合した四国集約型園芸のための技術開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水田農業確立対策前期始</li> <li>○生産者米価31年ぶりの引き下げ</li> <li>○ウルグアイ・ラウンド農業交渉始まる</li> </ul>
昭和63年 (1988)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○試験場案内ビデオが完成</li> <li>○四国東部地域の汎用水田における高度輪作体系化技術確立</li> <li>○シオデの組織培養による大量増殖技術</li> <li>○水稲の生育予測診断技術の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○瀬戸大橋開通</li> <li>○普及事業40周年</li> <li>○本県特産のトンネルニンジンで「横しま症」が多発</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
昭和64年 平成元年 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○池田分場に園芸科, 特作科を設置</li> <li>○徳島市鮎喰町の旧農業試験場跡地に農業試験場跡碑を建碑</li> <li>○虫供養塔が有志の浄財により庁舎西側に建碑</li> <li>○広報誌「試験研究情報」の発行を開始</li> <li>○水稲, 野菜に関する有機農法の開発</li> <li>○山菜類の産地化技術の確立</li> <li>○職務発明「下方向排気式実験台」を(株)ダルトンと共同で考案し実用新案として出願</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林水産省, 農産物の輸入自由化と国内対策を発表</li> <li>○消費税スタート</li> </ul>
平成2年 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特産青果物・花きの高品質生産・鮮度保持技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水田農業確立対策後期始</li> <li>○異常気象の年で, 本県に影響した台風5個, 11月30日の28号, 年平均気温等の記録更新</li> </ul>
平成3年 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○21世紀型農業技術開発関係施設整備事業が始まりバイオテクノロジー研究棟が完成, 走査型電子顕微鏡等の大型備品多数を導入</li> <li>○県単バイオテク研究始まる</li> <li>○野菜および山菜の細胞選抜・細胞融合による新品種育成ならびに優良種苗の大量増殖技術の開発</li> <li>○拮抗微生物等利用による砂地畑の土壌管理技術の開発</li> <li>○ユリ類の約・胚培養による新品種育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい食料・農業・農村政策に関する懇談会発足</li> <li>○徳島県農業の基本計画</li> <li>○バブル経済崩壊</li> </ul>
平成4年 (1992)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機械研修係を廃止し, 機械研修部門を農業大学校に移管</li> <li>○21世紀型農業技術開発関係施設整備事業により砂地畑20a造成他実施</li> <li>○バイオテク研修始まる</li> <li>○手入れ砂安定確保対策試験</li> <li>○農業研究情報システム化事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい食料・農業・農村政策の方向(新政策の方向)発表</li> <li>○平成3年度の食糧需給表, 穀物自給率29%になる</li> <li>○有機農産物等の表示ガイドラインと生産管理要綱を発表</li> <li>○グリーンツーリズムの提唱</li> </ul>
平成5年 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○21世紀型農業技術開発関係施設整備事業により世代短縮温室, 転換畑の造成他</li> <li>○環境保全型栽培基準設定調査</li> <li>○新規砂地畑における土壌管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水田営農活性化対策始</li> <li>○ウルグアイ・ラウンド農業交渉合意</li> <li>○冷害, 長雨, 日照不足等で戦後最大の凶作, 米の作況徳島87, 全国74</li> </ul>
平成6年 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立地条件の高度活用による夏秋野菜・山菜類の高品質栽培体系の確立</li> <li>○イチゴの育苗労力軽減と早期多収生産のためのクラウン利用育苗技術の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウルグアイ・ラウンド農業合意関連対策大綱(6~14年)</li> <li>○主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律(食糧法)制定</li> <li>○徳島県環境保全型農業推進基本方針</li> <li>○記録的な猛暑</li> <li>○米の作況が113となり大豊作</li> </ul>
平成7年 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○21世紀型農業技術開発関係施設整備事業による温室, 圃場等の研究施設の整備完了</li> <li>○筍の高付加価値生産技術の確立と竹材の用途開発</li> <li>○環境調和型農業新技術の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新食糧法施行</li> <li>○中国産農産物のショウガ, レンコン, ニンニク, シイタケの輸入急増</li> <li>○阪神淡路大震災</li> </ul>
平成8年 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場内のコンピュータネットワークがインターネットへ接続される</li> <li>○水稲の直播栽培品種の選定</li> <li>○トマトの循環式ロックウール栽培における環境保全型技術の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新生産調整推進対策</li> <li>○病原性大腸菌O157による集団食中毒発生</li> </ul>
平成9年 (1997)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業試験場のホームページを公開</li> <li>○傾斜地に適合した野菜・花きの高収益栽培体系の確立</li> <li>○フロンティアテクノ21推進事業始まる <ul style="list-style-type: none"> <li>・サツマイモの連作障害対策</li> <li>・コショウランの葉片培養等によるクローン苗大量生産技術の確立</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○阪神淡路大震災</li> <li>○徳島県農林水産業・農山漁村振興基本構想策定</li> <li>○「園芸ランドとくしま」づくりスタート</li> <li>○環境保全型農業技術(作物別)</li> </ul>
平成10年 (1998)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○蚕業技術センターを合併し, 鴨島分場を設置</li> <li>○筍試験地庁舎を新築移転</li> <li>○農業試験場の研究基本計画を作成</li> <li>○農業試験場研究評価委員会設置要領が施行</li> <li>○サツマイモのつる処理機を開発し市販開始。ヒット商品となる</li> <li>○水稲における鶏糞堆肥の利用法</li> <li>○砂地畑高位安定生産技術対策事業</li> <li>○土壌環境負荷低減対策推進事業</li> <li>○環境保全型農業新技術の確立普及</li> <li>○促成イチゴ「めぐみ」を品種登録出願, 平成14年6月に登録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急生産調整推進対策</li> <li>○明石海峡大橋開通</li> <li>○普及事業50周年</li> </ul>

年次	沿革および主要研究事項	農 業 事 情 そ の 他
平成11年 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究課題の外部評価と内部評価が始まる</li> <li>○野菜・花きの環境保全型養液栽培技術の確立</li> <li>○農業分野における地理情報システムの応用</li> <li>○オンシジムの切り花生産技術の確立</li> <li>○イチゴの有機培地による簡易高設養液栽培技術の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○JAS法改正(生鮮食料品原産地表示の義務化等)</li> <li>○食糧・農業・農村基本法制定</li> </ul>
平成12年 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鴨島分場評価係を廃止</li> <li>○第1回地域交流フォーラムを三加茂町で開催</li> <li>○石井町CATVと共同で研究成果広報番組の制作を開始</li> <li>○サツマイモの土壤水分管理技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水田農業経営確立対策</li> <li>○中山間地域等直接支払制度導入</li> <li>○食糧・農業・農村基本計画策定</li> </ul>
平成13年 (2001)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織再編により徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所となり、病害虫防除所を併設</li> <li>○コマツナにおける持続性の高い農業生産方式実証</li> <li>○天敵による生物防除技術確立事業</li> <li>○畦用作業台車を(株)ニシザワと特許出願</li> <li>○シンテッポウユリ「阿波の白雪」を品種登録出願</li> <li>○スイカ果実汚斑細菌病の総合防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ネギを含む3品目で一般セーフガードの暫定措置を発動</li> <li>○国内で初めてBSE(牛海綿状脳症)の発生が確認される</li> <li>○新たなWTO貿易交渉を立ち上げる閣僚宣言採択</li> <li>○国立試験研究機関が独立行政法人化される</li> <li>○国の事業が競争的資金になり従来の補助金事業は終息へ</li> </ul>
平成14年 (2002)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般公開「見て、聞いて、なっとく農業新技術」を開催</li> <li>○広報紙「かわらばん」の発行を開始</li> <li>○阿波ブランドの開発・確立支援事業</li> <li>○高品質良味サツマイモ新品種の開発と省力・安定生産技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食と農の再生プラン</li> <li>○無登録農薬使用事件、残留農薬による野菜の輸入禁止、農畜産物の産地偽装等が発生</li> <li>○21世紀初頭の徳島県農林水産業・農山漁村振興行動計画</li> </ul>
平成15年 (2003)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○創立百周年を迎える</li> <li>○徳島県立農林水産総合技術センター研究基本構想</li> <li>○安全・安心な農産物生産のためのオープンラボを設置</li> <li>○山フキ「みさと」を品種登録出願</li> <li>○徳島発の先端技術を活用した農林水産新技術開発事業</li> <li>○化学農薬に頼らない土壤病害の防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農薬取締法改正</li> <li>○種苗法が改正され品種の権利保護が強化</li> <li>○トレーサビリティが本格化</li> <li>○内閣府に食品安全委員会</li> </ul>